

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5000	授業科目名	臨床心理学特論Ⅰ	期間
担当者	梶原 彰子	授業形態	講義	単位数
授業概要	臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人として臨床心理士・公認心理師について、専門家としての成長過程、職業倫理、社会的責任、記録の採り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。			
到達目標	臨床心理学とは何か、その原理と方法論について理解する。また、心理臨床家のひとつのモデルとして臨床心理士の資格について理解する。			
成績評価基準	複数のレポート課題により、総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。			
教材	必要に応じて、提示する			
授業予定	第1回 臨床心理学とは 第2回 臨床心理学の歴史 第3回 臨床の知と科学の知 第4回 臨床心行為と医行為 第5回 事例研究とその意義 第6回 事例研究の方法 第7回 事例研究と臨床心理学 第8回 臨床心理専門家としての発達段階 第9回 職業倫理Ⅰ 基本 第10回 職業倫理Ⅱ 事例 第11回 守秘義務 第12回 記録 第13回 関連諸機関の機能と役割Ⅰ 保健医療分野 第14回 関連諸機関の機能と役割Ⅱ 福祉分野 第15回 他職種との協働 第16回 定期試験（レポート）			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5010	授業科目名	臨床心理学特論ⅠⅠ	期間
担当者	中内 みさ	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、ロジャーズおよびユングの著述をとりあげ、意見発表や討論を通して、ロジャーズやユングの理論の理解を深める。また、それらの理論が臨床現場でどのように生かされているかを考察する。			
到達目標	ロジャーズのカウンセリング理論およびユングの無意識についての考え方を理解し、説明することができる。また、それらの理論がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。			
成績評価基準	2回のレポート(60%)、討論への積極的な参加(40%)			
留意事項	授業では意見発表や討論を行います。人の心に携わる者としての自覚と積極的で誠実な態度を望みます。			
教材	【必携テキスト】 ・ロジャーズ「カウンセリング」岩崎学術出版社 あるいは 「カウンセリングと心理療法実践のための新しい概念」岩崎学術出版社 (どちらでも可) ・ユング「人間と象徴 無意識の世界 上」河出書房新社			
授業予定	1 オリエンテーション 2 「カウンセリング」を読む1 第1章 緒論 3 「カウンセリング」を読む2 第2章 カウンセリングとサイコセラピーにおける新旧両見地 4 「カウンセリング」を読む3 第3章 カウンセリングはいつ必要とされるか？ 5 「カウンセリング」を読む4 第4章 カウンセリング関係の創設 6 「カウンセリング」を読む5 第5章 指示的アプローチと非指示的アプローチ 7 「カウンセリング」を読む6 第6章 自由に表現するようにすること 8 「カウンセリング」を読む7 第7章 洞察の達成 9 「カウンセリング」を読む8 第8章 終結時の諸様相 10 まとめ 11 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む1 夢の重要性～無意識の過去と未来 12 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む2 夢の機能～夢の分析 13 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む3 タイプの問題～夢象徴における元型 14 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む4 人間のたましい～象徴の役割 15 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む5 断絶の治癒 16 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5050	授業科目名	臨床心理学演習A	期間
担当者	中内 みさ	授業形態	演習	単位数
授業概要	臨床心理学の研究方法や倫理を理解する。また、事例報告書・研究論文の執筆の仕方について学び、心理臨床に関する学術論文を作成するための基礎的能力を習得する。			
到達目標	到達目標① 研究における責務と倫理を説明できる。 到達目標② 事例に応じた報告書を書くことができる。 到達目標③ 心理臨床に関する研究の視点と方法について説明できる。			
成績評価基準	レポートや事例報告書の作成(50%)、発表(30%)、討論への積極的な参加(20%)			
留意事項	人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。			
教材	森岡正芳・大山泰宏(編)(2014)「臨床心理職のための「研究論文の教室」研究論文の読み方・書き方ガイド」臨床心理学増刊第6号、金剛出版。 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)(2015)「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」丸善出版。 その他、随時指示する。			
授業予定	1. オリエンテーション 2. 研究倫理に関して1 3. 研究倫理に関して2 4. 事例研究1 5. 事例研究2 6. 事例報告の書き方1 7. 事例報告の書き方2 8. 事例報告の書き方3 9. ケーススタディ 10. 研究論文の書き方1 11. 研究論文の書き方2 12. 研究論文書き方3 13. 研究論文の書き方4 14. 研究論文の書き方5 15. 研究論文の書き方6	臨床心理学演習の目的と授業計画 研究の責任 個人情報の保護および発表の仕方 子育て支援に関する事例研究(親) 子育て支援に関する事例研究(子) 子育て支援 カウンセリング プレイセラピー 研究者から学ぶ 根拠づけ 質的データ 事例研究 当事者研究 まとめ		

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5055	授業科目名	臨床心理学演習B	期間
担当者	中内 みさ	授業形態	演習	単位数
授業概要	事例研究や自分自身の心理実践の体験に基づいて、心理理解の方法など心理臨床学研究の基礎を身につける。			
到達目標	事例研究を通して、様々な発達段階や技法に応じた心理臨床の概要や鍵概念、留意点などが説明できる。			
成績評価基準	レポート(50%)、発表(30%) 討論への積極的な参加(20%)			
留意事項	人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。			
教材	随時指示する。			
授業予定	1. 事例研究 1 幼児の支援に関する事例研究 2. 事例研究 2 児童の支援に関する事例研究 3. 事例研究 3 思春期の子どもの支援に関する事例研究 4. 事例研究 4 青年の支援に関する事例研究 5. 事例研究 5 成人の支援に関する事例研究 6. 事例研究 6 高齢者の支援に関する事例研究 7. 事例研究 7 カウンセリングに関する事例研究 8. 事例研究 8 プレイセラピーに関する事例研究 9. 箱庭療法の実際 10. 事例研究 9 箱庭療法に関する事例研究 11. 芸術療法の実際-絵画療法を中心に 12. 事例研究 10 芸術療法に関する事例研究 13. 身体動作法およびストレスマネジメントの実際 14. 事例研究 11 身体動作法の事例研究 15. 事例研究 12 障害児の支援に関する事例研究			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5060	授業科目名	臨床心理学演習A	2022年度第1期
担当者	西 隆太郎	授業形態	演習	単位数 2単位
授業概要	臨床心理学における研究方法について学び、自らの研究を進める。とくに、心理臨床にかかわる体験・事例を読み解くこと、先行研究の批判的検討を重視し、精神分析的・ユング心理学的研究の方法を修得する。			
到達目標	臨床心理学において、修士論文レベルの研究を行う能力を身につける。			
成績評価基準	論文の内容(50%)、演習への参加(50%)によって、総合的に評価する。			
留意事項	自らのテーマについて文献等を踏まえ、主体的に探究することを奨励する。			
教材	講義中に随時指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の研究方法について 2. 臨床心理学における研究テーマの設定について 3. 院生自身の研究テーマとその研究方法について 4. 臨床心理学における論文の執筆について 5. 心理臨床に関する研究方法について 6. 研究方法に関する文献講読 7. 関与観察による研究のあり方について 8. 事例研究の方法論について 9. 事例研究に関する文献講読 10. 心理臨床における体験の理解 11. 院生自身の研究分野に関する文献の検討 12. 院生自身の研究テーマに関する文献の検討 13. 先行文献の展望について 14. 心理臨床にかかわる事例素材の記述について 15. 心理臨床にかかわる事例解釈のあり方について <p>上記の内容に関する基礎的部分を網羅的に学ぶ。</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5065	授業科目名	臨床心理学演習B	期間
担当者	西 隆太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	臨床心理学における研究方法について学び、自らの研究を進める。とくに、心理臨床にかかわる体験・事例を読み解くこと、先行研究の批判的検討を重視し、精神分析的・ユング心理学的研究の方法を修得する。			
到達目標	臨床心理学において、修士論文レベルの研究を行う能力を身につける。			
成績評価基準	論文の内容(50%)、演習への参加(50%)によって、総合的に評価する。			
留意事項	自らのテーマについて文献等を踏まえ、主体的に探究することを奨励する。			
教材	講義中に随時指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の研究方法について 2. 臨床心理学における研究テーマの設定について 3. 院生自身の研究テーマとその研究方法について 4. 臨床心理学における論文の執筆について 5. 心理臨床に関する研究方法について 6. 研究方法に関する文献講読 7. 関与観察による研究のあり方について 8. 事例研究の方法論について 9. 事例研究に関する文献講読 10. 心理臨床における体験の理解 11. 院生自身の研究分野に関する文献の検討 12. 院生自身の研究テーマに関する文献の検討 13. 先行文献の展望について 14. 心理臨床にかかわる事例素材の記述について 15. 心理臨床にかかわる事例解釈のあり方について <p>前期の演習を踏まえて、上記の内容に関する応用的部分を選び、修士論文の執筆を目指す。</p>			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5070	授業科目名	臨床心理学演習A	2022年度第1期
担当者	日下 紀子	授業形態	演習	単位数
授業概要	臨床心理学ならびにその近接領域の文献を購読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとらまく課題について、自身の体験や文献研究、心理臨床実践の実習体験に基づき、臨床心理学の視点から問いをたてることを促す。その問いに対して深く追究し考察をすすめるための討論を行う。			
到達目標	臨床心理学における重要な概念を理解し、研究の視点と方法について説明できる。 文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床における問いをたてることができる。 問いに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。 研究論文、修士論文を執筆する。			
成績評価基準	受講態度（出席・発表・討論）、論文読解、課題レポート（複数回）によって総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとらまく問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。			
教材	講義中に随時配布し、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究倫理（研究の責任） 3. 生命の尊厳・尊重と研究倫理（個人情報の保護） 4. 臨床心理学における研究方法 5. 基礎文献購読1（無意識と心の機能） 6. 基礎文献購読2（情緒発達論） 7. 基礎文献購読3（パーソナリティの発達と病理） 8. 基礎文献購読4（対象関係論とその展開） 9. 研究の問いをたてる 10. 質的研究について 11. 自らの研究テーマに関する先行研究講読 12. 先行研究の批判的検討 13. 先行研究レビューと理論的枠組みの構築 14. 研究計画 15. 研究方法を決める 16. 中間発表 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5075	授業科目名	臨床心理学演習B	期間
担当者	日下 紀子	授業形態	演習	単位数
授業概要	臨床心理学ならびにその近接領域の文献を購読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとらまく課題について、自身の体験や先行研究、心理臨床実践の実習体験に基づき、臨床心理学の視点から問いをたてることを促す。その問いに対して深く追求し、考察を進めるための討論を行う。また、研究のプロセスを明らかにし、研究のなかで得られるデータや結果の分析ならびに考察をすすめる。			
到達目標	臨床心理学における重要な概念を理解し、研究の視点と方法について説明できる。 文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床における問いをたてることができる。 問いに対して適切な研究法に基づき追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。 研究論文、修士論文を執筆する。			
成績評価基準	受講態度（出席・発表・討論）、論文読解、課題レポート（複数回）によって総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめる。			
教材	講義中に随時配布し、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理臨床における体験から問いをたてる 2. 心理臨床実践での方法論 3. 先行研究レビューならびに問いの確立 4. 心理臨床実践での臨床素材の収集 5. 研究デザインの吟味と検討 6. 研究計画と研究方法 7. 研究データの収集並びに調査 8. 研究データ分析法の検討 9. 研究データ分析結果の検討 10. 研究結果の考察 11. 研究結果の考察と再考 12. 質的研究の結果と分析 13. 質的研究の考察 14. 総合考察 15. まとめと今後の課題 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5150	授業科目名	臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）	期間
担当者	日下 紀子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	<p>医療、教育、福祉、保健、産業、司法などの領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、それを実際に展開していくために必要な専門的知識ならびに基本となる面接法を的確に学ぶ。それを通して臨床心理学的な面接の基本的な技能を身に付ける。</p> <p>さらに上記領域ごとにおける心理療法の布置や意義の違い、理論的枠組みならびに技法について学び、それぞれの臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について講義と演習を通じて学修する。</p>			
到達目標	<p>個人の心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、説明できる。臨床心理学的支援を展開していくため基本的な面接技能を実行できる。</p> <p>臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について理解し、説明できる（特に2年次で行う福祉施設・適応指導教室実習および精神科を中心とする病院実習の基礎を固める）。</p> <p>心理に関する支援を要する者の特性や状況を的確に把握し、どのように見立てるのかを説明できる。</p> <p>心理療法ならびに心理に関する相談、助言、指導等をどのように行うのかを説明し、実行できる。</p>			
成績評価基準	受講態度、論文読解、学習内容の理解度、課題レポートによって総合的に評価する。			
留意事項	方法論の理解と心理面接に臨むためには、自らの心を使い、まず多くの事例報告に触れ、その詳読を重ねること、問いを立て、その問いを追究する、考えることが重要である。さらに自らの経験を通して触れるものは、いずれについても「面接の方法論」という枠組みでとらえてみる態度と耳の傾け方を日頃から意識しておくこと。			
教材	<p>土居健郎（1992）「新訂 方法としての面接 臨床家のために」医学書院</p> <p>グレン・O・ギャバード著（2014）・奥寺他監訳（2019）「精神力動的臨床心理学 第5版 その臨床実践」岩崎学術出版社</p> <p>前田重治（2014）「新図説 精神分析的面接入門」誠信書房</p> <p>松木邦裕（2016）「改訂増補 私設対象関係論的心理療法入門」金剛出版</p> <p>松木邦裕（2015）「耳の傾け方-こころの臨床家を目指す人たちへ」岩崎学術出版社</p>			
授業予定	<p>第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論</p> <p>第2回 力動論に基づく心理療法とその理論</p> <p>第3回 行動論・認知論に基づく心理療法とその理論</p> <p>第4回 領域別での心理支援と心理療法</p> <p>第5回 初回面接と見立て</p> <p>第6回 対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方</p> <p>第7回 面接における観察と基本的な聴き方と心を感じ取る聴き方（演習）</p> <p>第8回 介入・口のはさみ方</p> <p>第9回 対象者の特性や状況を理解する-ストーリーを読む・見立て</p> <p>第10回 心理面接・心理療法の導入</p> <p>第11回 心理面接・心理療法のプロセス</p> <p>第12回 心理療法のプロセスにおける関係性の理解</p> <p>第13回 解釈とその伝え方</p> <p>第14回 心理面接の終結と終結後</p> <p>第15回 対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整</p> <p>定期試験（レポート）</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5160	授業科目名	臨床心理面接特論ⅠⅠ	期間
担当者	東 俊一	授業形態	講義	単位数
授業概要	学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。			
到達目標	行動論にもとづいたアセスメントや指導技法について理解したうえで、各分野において指導技法・手続きの選択、および計画を作成できることを目的とする。			
成績評価基準	授業内での発表およびレポート			
留意事項				
教材	適宜、指示・紹介する			
授業予定	第 1 回：行動と学習 第 2 回：レスポナント条件付け 第 3 回：オペラント条件付け 第 4 回：介入の倫理 第 5 回：測度と観察法 第 6 回：実験計画法 第 7 回：レスポナント技法 1 第 8 回：レスポナント技法 2 第 9 回：行動アセスメント（機能分析） 第 10 回：行動アセスメント（課題分析） 第 11 回：オペラント技法 1（反応増大） 第 12 回：オペラント技法 2（反応減少） 第 13 回：オペラント技法 3（刺激性制御） 第 14 回：オペラント技法 4（シェイピング） 第 15 回：般化			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5170	授業科目名	臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2022年度第1期
担当者	日下 紀子	授業形態	演習	単位数
授業概要	医療、福祉、保健、司法、教育、産業の各領域における人間を多角的にとらえるための心理査定（心理アセスメント）の意義と位置づけ、その理論について学ぶ。 臨床現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の施行法、評定評価法を学ぶとともに、演習を通してその基本的な技法を身に付ける。さらに査定報告書の作成を含めたフィードバックのあり方、適切な心理に関する相談、助言、指導等について事例を通して理解を深め、その実践のための基盤を構築する。			
到達目標	（公認心理師・臨床心理士の実践における）一般的な臨床の場や2年次実習現場で高頻度に活用される心理アセスメントの意義ならびに理論と方法を理解し、説明できる。 臨床現場で出会う人の心を多角的、多面的に客観的に理解するための心理アセスメントを実施できる。 臨床現場において実施した心理アセスメント所見を作成し、心理に関する相談、助言、指導等へとつなげることができる。			
成績評価基準	協力被検者を設定し、知能検査、自己評価法、投影法（描画法、PF スタディ、SCT等）、その他の心理検査を正確に実施する。 各心理検査の実施から査定報告文を作成する。 各々の課題の成果により評価する。			
留意事項	検査の実施、評定評価など授業時間外での自主的で継続的な学習が大半を占めるといってよい。その覚悟をもって主体的に学修を積み重ねる努力を怠らないこと。			
教材	願興寺礼子・吉住隆弘（編）（2011）心理検査の実施の初歩-心理学基礎演習Vol.5 ナカニシヤ出版 978-4-7795-0387-0 各心理検査用紙、道具、マニュアルなどは、提供し、必要な資料は配布する。			
授業予定	第1回 心理査定の意義と位置づけ 第2回 知能検査の意義・背景理論と位置づけ 第3回 知能検査の施行法と実施 第4回 知能検査の評定評価法と分析 第5回 知能検査の所見報告書作成 第6回 自己評価式人格検査の意義・背景理論と位置づけ 第7回 自己評価式人格検査の施行と評定評価法 第8回 自己評価式人格検査の所見報告書作成 第9回 投影法の意義・背景理論と位置づけ 第10回 投影法の施行と実施 第11回 投影法（描画法）の評定評価法と分析 第12回 投影法（SCT）とその他の心理検査の施行と評定評価法と分析 第13回 投影法の所見報告書作成 第14回 テストバッテリーの組み方と総合的評定評価 第15回 心理的アセスメントからのフィードバックならびに心理的相談、助言、指導への応用			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5180	授業科目名	臨床心理査定演習ⅠⅠ	2022年度第2期
担当者	日下 紀子	授業形態	演習	単位数
授業概要	臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法（片口法）について理論と実践の両面から詳細に学び、臨床活用可能なレベルの技能の習得を目指す。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールシャッハテストの基礎理論を理解する。 ・ロールシャッハテストの実施からデータ処理、データ分析、評価を行うことができる。 ・ロールシャッハテスト評価所見文を作成できる。 			
成績評価基準	<p>理論については基礎事項に関する課題提出により、達成度を評価する。 その後、協力被検者を設定し、ロールシャッハテストを実施する。 ロールシャッハテストのローデータのスコアリング、ベーシックスコアリングテーブル、サマリースコアリングテーブルを完成させ、量的・系列分析を行う。 これをもとに評価所見文を作成し、被験者にフィードバックする要点についても説明できる。 これらの成果によって評価する。</p>			
留意事項	<p>検査の実施、評価、評価など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといってよい。 多くの事例に触れ、ロールシャッハ法の技術を習得するよう覚悟して意欲的に取り組むこと。</p>			
教材	<p>片口安史監修、藤岡新治・松岡正明著（1993）「ロールシャッハテストの学習 片口法スコアリング入門」金子書房 978-4-7608-4008-3 片口安史著（1987）「改訂 新・心理診断法」金子書房 978-4-7608-2548-7</p> <p>検査用紙、道具は提供する。</p>			
授業予定	<p>第 1 回 ロールシャッハテストの基礎理論の理解、意義と位置づけ 第 2 回 ロールシャッハテストの実施法と記号化法 第 3 回 反応領域の分類とその意味 第 4 回 反応決定因分類 1（形態反応と運動反応） 第 5 回 反応決定因分類 2（色彩反応と濃淡反応） 第 6 回 反応内容の分類とその意味 第 7 回 スコアリングのため基礎知識の確認 第 8 回 ロールシャッハテストの実施とスコアリング 第 9 回 スコアリングテーブルの作成 第 10 回 スコアリングテーブルの解説（量的分析） 第 11 回 ロールシャッハテストの解釈-系列分析とテスト中の行動 第 12 回 総合的な解釈 第 13 回 事例の解釈の実際 第 14 回 評価所見文の作成 第 15 回 フィードバックについて・まとめ</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5190	授業科目名	臨床心理基礎実習A	2022年度第1期
担当者	西 隆太郎、梶原 彰子	授業形態	演習・実習	1単位
授業概要	ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。			
到達目標	臨床心理面接の基本技法を身に付ける。			
成績評価基準	演習、実習、レポートにより、総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。			
教材	必要に応じて、指示する。			
授業予定	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 基礎文献講読 1 第 3 回 基礎文献講読 2 第 4 回 基礎文献講読 3 第 5 回 基礎文献講読 4 第 6 回 基礎文献講読 5 第 7 回 ロールプレイ実習：基礎 第 8 回 逐語記録の作成 第 9 回 逐語記録の検討 1 第 10 回 逐語記録の検討 2 第 11 回 ロールプレイ実習：応答 第 12 回 逐語記録の作成 第 13 回 逐語記録の検討 1 第 14 回 逐語記録の検討 2 第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5195	授業科目名	臨床心理基礎実習B	期間
担当者	西 隆太郎、梶原 彰子	授業形態	演習・実習	単位数
授業概要	ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。精神科病院、精神保健福祉センター、児童福祉施設などの見学をとおして、心理臨床の現場について知る。			
到達目標	心理臨床の現場について知るとともに、臨床心理面接の基本技法を身に付ける。			
成績評価基準	演習、実習、レポートにより、総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。			
教材	必要に応じて、指示する。			
授業予定	第 1 回 精神科病院見学 第 2 回 精神保健福祉センター見学 第 3 回 児童福祉施設見学：児童相談所 第 4 回 児童福祉施設見学：児童心理治療施設 第 5 回 ロールプレイ実習：主訴 第 6 回 逐語記録の作成 第 7 回 逐語記録の検討 1 第 8 回 逐語記録の検討 2 第 9 回 逐語記録の検討 3 第 10 回 ロールプレイ実習：体験過程 第 11 回 逐語記録の作成 第 12 回 逐語記録の検討 1 第 13 回 逐語記録の検討 2 第 14 回 逐語記録の検討 3 第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5200	授業科目名	臨床心理実習I（心理実践実習）	期間 2022年度第1期、2022年度第2期、 2023年度第1期、2023年度第2期
担当者	中内 みさ、西 隆太郎、日下 紀 子、東 俊一	授業形態	実習	単位数 6単位
授業概要	2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身につけるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。実習総計450時間。			
到達目標	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントへの心理的支援の基本と実際を学ぶ。			
成績評価基準	実習先の評価および事前事後指導への参加内容（レポートを含む）により、総合的に評価する。			
留意事項	事前事後の指導、実習ともに、心理臨床家としての倫理規定を意識して活動に臨むこと。			
教材	必要に応じて指示する。			
授業予定	第1回 オリエンテーション 第2回 多職種連携および地域連携 第3回 医療保健領域の事前指導 1 第4回 医療保健領域の事前指導 2 第5回 医療保健領域での実習 1 第6回 医療保健領域での実習 2 第7回 医療保健領域での実習 3 第8回 医療保健領域での実習 4 第9回 医療保健領域での実習 5 第10回 医療保健領域での実習 6 第11回 医療保健領域での実習 7 第12回 医療保健領域での実習 8 第13回 実習報告 第14回 実習レポート作成 第15回 教育領域の事前指導 1 第16回 教育領域の事前指導 2 第17回 教育領域での実習 1 第18回 教育領域での実習 2 第19回 教育領域での実習 3 第20回 教育領域での実習 4 第21回 実習報告 第22回 実習レポート作成 第23回 福祉領域の事前指導 1 第24回 福祉領域の事前指導 2 第25回 福祉領域での実習 1 第26回 福祉領域での実習 2 第27回 福祉領域での実習 3 第28回 福祉領域での実習 4 第29回 実習報告 第30回 実習レポート作成 第31回 まとめ			

人間生活学研究科	専攻名(コース名)	人間発達学専攻臨床心理学コース 修士課程	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5210	授業科目名	臨床心理実習II	期間
担当者	青山 新吾、相原 彰子	授業形態	学内実習およびカンファレンス	単位数
授業概要	1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパービジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務（相談室の事務受付・管理運営など含む）の実習を行う。			
到達目標	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不応問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床経験を積む。病態の理解や対応の基本とともに、心理に関する支援を要する者への多職種連携および地域連携を習得する。			
成績評価基準	学内実習の評価と課題の成果を総合する。			
留意事項	臨床経験においては、担当クライアントの個人情報に対する倫理観を常に明解にすること。			
教材	配布する。			
授業予定	第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務 第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ 第4回 多職種連携および地域連携 第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方 第6回 インテークカンファレンス 第7回 インテークカンファレンスの振り返り 第8回 学内施設での実習 I 第9回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第10回 ケースカンファレンス 第11回 ケースカンファレンスでの振り返り 第12回 学内施設での実習2 第13回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第14回 ケースカンファレンス 第15回 ケースカンファレンスの振り返り			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	研究法分野
授業コード	M5300	授業科目名	心理学研究法特論	2022年度第1期
担当者	石原 金由	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	研究成果の信頼性は、研究計画に左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究および調査研究に関する研究法について講義するとともに、種々の研究例を取り上げ、研究法の観点から研究批判を行ってもらう。また、事例研究については、研究デザインや研究上の留意点について解説する。			
到達目標	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力を身につける。			
成績評価基準	1. 受講学生の研究テーマに関わる研究計画の発表 2. 基礎的および臨床的論文を一本ずつ取り上げ、論文の批評をレポートする			
留意事項	とくになし			
教材	南風原ら (2001) 心理学研究法入門 東大出版			
授業予定	第 1 回 研究法の必要性 第 2 回 量的調査 1 第 3 回 量的調査 2 第 4 回 量的調査 3 第 5 回 実験研究 1 第 6 回 実験研究 2 第 7 回 実験研究 3 第 8 回 研究批判 1 第 9 回 研究批判 2 第 10 回 準実験 第 11 回 単一事例研究 1 第 12 回 単一事例研究 2 第 13 回 研究批判 3 第 14 回 研究批判 4 第 15 回 研究計画の発表 第 16 回 レポート			

人間生活学研究科(修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻(臨床心理学コース)	研究分野	研究法分野
授業コード	M5310	授業科目名	心理統計法特論	2022年度第1期
担当者	梶原 彰子	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	統計に関する基本的事項について解説するとともに、収集された大量のデータをどのように整理し、分析するかについて模擬データを用いて解説する。			
到達目標	統計解析の様々な手法を理解し、統計ソフトを実際に使いこなせることができるようにする。			
成績評価基準	課題または小テストで理解状況を評価する			
留意事項	統計ソフトは、SPSSを中心に、Web上で利用できるANOVA4あるいはJS-Starを使用する。			
教材	適宜、資料を配布する。			
授業予定	第1回 統計の必要性と基礎知識 第2回 記述統計 第3回 相関 第4回 χ^2 検定1 第5回 χ^2 検定2 第6回 t-検定 第7回 分散分析1 第8回 分散分析2 第9回 分散分析3 第10回 ノンパラメトリック検定 第11回 因子分析1 第12回 因子分析2 第13回 重回帰分析1 第14回 重回帰分析2 第15回 判別分析 第16回 レポート課題			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	基礎分野
授業コード	M5320	授業科目名	発達心理学特論	2022年度第2期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを乳児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する			
到達目標	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを踏まえ、青年に対する進路・職業選択における援助計画の立案・評価を行うことができる。加えて、中年期以降のアイデンティティの知見を生かしながら、教育現場での保護者理解ができる。			
成績評価基準	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する			
留意事項	なし			
教材	随時指示をする			
授業予定	第1回 人間発達学領域におけるアイデンティティ研究の意義 第2回 自己意識に関する文献的展望 第3回 乳児期における自己の発見 第4回 1歳児から2歳児の発達と自己意識 第5回 3歳児の発達と自己意識 第6回 4・5歳児の発達と自己意識 第7回 児童期：多面的な自己像の形成 第8回 思春期にみられる心理的課題 第9回 青年期：アイデンティティの形成にかかる諸要因 第10回 青年期：キャリア形成と自己意識 第11回 青年期にみられる心理的課題 第12回 中年期：アイデンティティの危機と再生 第13回 中年期にみられる心理的課題 第14回 教育現場における保護者支援を考える 第15回 一人ひとりのニーズに応じた援助計画			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	基礎分野
授業コード	M5330	授業科目名	学習心理学特論	2022年度第1期
担当者	堤 幸一	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	まず記憶理論、次に学習理論を体系的に概説する。途中で、学んだ理論的知見を現実生活場面に応用するという視点でデモ実験・体験を取り入れる。			
到達目標	学習理論・記憶理論を体系的に知り、それらの現実生活への応用できる。			
成績評価基準	課題レポート 60%、授業時のプレゼン 40%の総合評価			
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習としては、授業時に4回程度、課題を予習してきたのプレゼンによる報告を行ってもらう。その際の準備所要時間としては、各60分程度を想定している。 ・出席確認用の配付資料に質問欄を設けてあるので、疑問などはそこで受け付ける。 			
教材	必携書は指定しない。参考書については、受講生の興味・関心・必要性に応じて、適宜指定する。毎回の教材・資料はレジュメ形式で配布する。			
授業予定	1回 導入(記憶・学習・認知の基礎知識の確認) 2回 デモ実験1(自由再生) 3回 記憶理論1(記憶研究史) 4回 デモ実験2(MCQ) ※ デモ実験1, 2の合併課題レポート 5回 記憶理論2(記憶の諸相と仕組み) 6回 記憶理論3(忘却) 7回 学習理論1(学習研究史) 8回 学習理論2(連合説1:条件づけ) 9回 学習理論3(連合説2:スケジュールと強化随伴性) 10回 学習理論4(認知説) 11回 学習理論5(観察学習説・社会的学習説) 12回 デモ実験3(概念達成) ※ デモ実験3の課題レポート 13回 概念学習 14回 学習障害(読字障害) 15回 まとめ(記憶・学習・認知の統合的理解) ※学習についてのまとめの課題レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	基礎分野
授業コード	M5360	授業科目名	教育心理学特論	2022年度第1期
担当者	西 隆太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性の中で展開する教育・学習の過程を心理学的に探究する方法について学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。			
到達目標	教育の場における教育者と学習者の関係性を理解するための方法論について学ぶとともに、心理学的な観点から、教育・学習とは何かについて考察する。			
成績評価基準	学期末のレポートと、ディスカッションへの参加などにより、総合的に評価する。			
留意事項				
教材	講義中に随時配布、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・学習の過程と関係性の問題 2. 発達の過程と学びについて 3. 学びと動機づけについて 4. 学びの意味とアイデンティティについて 5. 個人の学びとコミュニティの関係について 6. 正統的周辺参加論の意義について 7. 正統的周辺参加論から見た学びの意味について 8. 学校における問題の心理学的理解について 9. 教育者と学習者の関係性について 10. 教育の場におけるコミュニケーションの理解 11. 教育の場における事例検討 12. 保育の場における事例検討 13. 教育の場における発達の問題と支援 14. スクール・カウンセリングとその実際について 15. 教育・保育の場における心理学的研究の方法論 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	社会分野
授業コード	M5370	授業科目名	社会心理学特論	2022年度第1期
担当者	北川 歳昭	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	個々人の心理を理解する場合、個人の特性や内面だけでなく、社会的環境や対人相互作用に注意を向ける必要がある。本講義では、実践的心理学の基礎として社会心理学的な視点をもつことの重要性について学ぶ。			
到達目標	社会心理学の各分野における最新の知見について理解する。			
成績評価基準	毎回の授業への参加度(60%)、レポートの成績(40%)の総合評価。			
留意事項	講義科目ではあるが、演習方式を取り入れた双方向授業を目指すので、積極的に授業に参加してほしい。			
教材	岡 隆・坂本真士(2018). ポテンシャル社会心理学. サイエンス社 ISBN978-4-7819-1431-2 C3311 大坪庸介・アダム＝スミス(2017). 英語で学ぶ社会心理学. 有斐閣 ISBN978-4-641-18436-7 C1311 北川歳昭(2003). 教室空間における着席位置の意味. 風間書房 ISBN4-7599-1356-4 C3011 北川歳昭(2012). 座席行動の心理学-着席位置をめぐる心理メカニズムの解明-. 大学教育出版 ISBN978-4-86429-136-1 C3011			
授業予定	第1回 社会心理学とは(ガイダンスを含む) 第2回 社会的自己 第3回 社会的認知 第4回 対人的影響とコミュニケーション 第5回 対人関係 第6回 向社会的行動: 援助行動 第7回 反社会的行動: 攻撃行動 第8回 個人と集団 第9回 組織と人間 第10回 集合行動 第11回 文化 第12回 非言語行動 第13回 空間行動 第14回 座席行動 第15回 まとめと課題レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	精神・身体分野
授業コード	M5410	授業科目名	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	期間
担当者	松本 洋輔	授業形態	講義	単位数
授業概要	精神医学総論と精神症候学について概説する。 各精神疾患についての歴史・原因・症状・経過・診断・治療について概説する。 精神科治療法について概説する。 これらを通して、心理専門職が医療現場で協働していく際の基礎的素養の修得を目指す。			
到達目標	精神疾患の概要について学び、クライアントに直接介入する保健・医療分野での専門家として必要な知識と対処法を習得する。			
成績評価基準	出席時のディスカッション、小テスト、レポートにより総合評価する。			
留意事項	心身医学特論とともに受講することが望ましい。			
教材	適宜紹介する			
授業予定	第 1 回 保健医療分野における多職種専門家の協働体制について・精神医学概論 I 第 2 回 精神医学概論 II・保健医療分野に関わる公認心理師の実践 第 3 回 精神科症候学 I 第 4 回 精神科症候学 II 第 5 回 統合失調症 I 第 6 回 統合失調症 II 第 7 回 ストレス関連障害 I 第 8 回 ストレス関連障害 II 第 9 回 気分障害 I 第 10 回 気分障害 II 第 11 回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 I 第 12 回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 II 第 13 回 嗜癖・依存症 I 第 14 回 嗜癖・依存症 II 第 15 回 パーソナリティ障害			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	精神・身体分野
授業コード	M5430	授業科目名	臨床大脳発達学特論	期間
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数
授業概要	脳の細胞・組織レベルの理解のもとに、感覚、運動、睡眠などの基礎的な脳機能について論述する。その後、言語、認知、注意、記憶、学習などの高次脳機能と、その障害について学習する。さらに、精神神経疾患、気分障害、発達障害などについて概説する。			
到達目標	神経科学の理解のもとに、精神神経疾患、気分障害、発達障害の医学的理解を目標とする。			
成績評価基準	課題レポート(80%)、質疑応答・受講状況(20%)などから総合的に評価する。			
留意事項	脳科学と周辺領域の書籍、学術雑誌などに目を通し、文献検索を行うなど、関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。			
教材	参考資料、文献などを必要に応じて配付または紹介する。			
授業予定	第1回：神経科学の基礎（ニューロンとグリア、活動電位、シナプス伝達） 第2回：神経科学の基礎（脳の構造と機能） 第3回：感覚系と運動系（化学感覚系、視覚、聴覚、平衡感覚、体性感覚） 第4回：感覚系と運動系（脳・脊髄による運動制御） 第5回：脳と行動（情動、動機づけ） 第6回：脳と行動（脳のリズムと睡眠） 第7回：脳と行動（言語、注意） 第8回：脳の可塑性（記憶系） 第9回：脳の可塑性（学習と記憶の分子メカニズム） 第10回：精神神経疾患（アルツハイマー病） 第11回：精神神経疾患（脳卒中） 第12回：精神神経疾患（うつ病） 第13回：脳機能と発達障害（自閉症スペクトラム障害） 第14回：脳機能と発達障害（注意欠陥・多動性障害） 第15回：まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	精神・身体分野
授業コード	M5440	授業科目名	障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	期間
担当者	東 俊一	授業形態	講義	単位数
授業概要	知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパトリーを形成する技法や、公認心理師としての支援・実践のありかたについて学ぶ。			
到達目標	子どもの抱える課題を客観的に理解したうえで、適切な技法選択及び指導手続きを作成できることを目的とする。			
成績評価基準	授業内での発表およびレポート			
留意事項				
教材	適宜、指示・紹介する			
授業予定	第 1 回：知的障害児のことばと認知の課題に関する理解と支援 第 2 回：知的障害児の運動機能と記憶の課題に関する理解と支援 第 3 回：発達障害の理解 1 第 4 回：発達障害の理解 2 第 5 回：学習理論（レスポナント条件付け） 第 6 回：学習理論（オペラント条件付け） 第 7 回：対人相互作用の形成 第 8 回：生活スキルの形成 第 9 回：コミュニケーション行動の形成 第 10 回：集団参加の促進 第 11 回：概念形成 第 12 回：行動問題へのアプローチ 第 13 回：障害のある子どもの家族支援の実践 第 14 回：障害児福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践 第 15 回：障害者福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	心理支援分野
授業コード	M5510	授業科目名	心理療法特論Ⅰ	2022年度第1期
担当者	中内 みさ	授業形態	講義	単位数
授業概要	遊戯療法、表現療法などの非言語的アプローチについて、各種技法の理論的背景、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点や課題などを、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。			
到達目標	遊戯療法、表現療法などの非言語的アプローチの理論と実際について理解する。			
成績評価基準	3回のレポート課題（60%）、発表・討論への参加（40%）			
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加と誠意ある態度を望む。			
教材	アクスライン「遊戯療法」岩崎学術出版 河合隼雄「箱庭療法入門」誠信書房 ほか必要に応じて指示する。			
授業予定	第1回 心理療法とは何か 第2回 遊戯療法 1 原理 第3回 遊戯療法 2 アクスラインを読む 第4回 遊戯療法 3 事例（1） 第5回 遊戯療法 4 事例（2） 第6回 箱庭療法 1 原理 第7回 箱庭療法 2 実習と作品の見方 第8回 箱庭療法 3 事例（1） 第9回 箱庭療法 4 事例（2） 第10回 箱庭療法 5 事例（3） 第11回 風景構成法 1 実習と原理 第12回 風景構成法 2 事例 第13回 MSSM 1 実習と原理 第14回 MSSM 2 事例 第15回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	心理支援分野
授業コード	M5520	授業科目名	心理療法特論ⅠⅠ	期間
担当者	西 隆太郎	授業形態	講義	単位数
授業概要	心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、主として精神分析、ユング心理学、来談者中心療法等における基礎文献の検討を行い、セラピーの関係性に基づく治療論の概念について学ぶ。また、臨床実践に基づいた具体例について、ディスカッションを通しての検討を行う。			
到達目標	さまざまな学派における心理療法の治療論についての理解を持ち、関係性の理解を踏まえて自らの治療論を形成していくための考察を深める。			
成績評価基準	学期末のレポートと、ディスカッションへの参加などにより、総合的に評価する。			
留意事項				
教材	講義中に随時配布、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法の学派について 2. 精神分析の基本的治療論について 3. 精神分析の実際 4. ユング派心理療法の基本的治療論について 5. ユング派心理療法の実際 6. 来談者中心療法の基本的治療論について 7. 来談者中心療法の実際 8. 各学派における理論の展開 9. セラピーにおける関係性の理解 10. セラピーにおける語りとイメージの理解 11. 転移の理解 12. 逆転移の理解 13. セラピーにおける枠の問題 14. セラピストの介入について 15. 関係性に基づく治療論について 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	心理支援分野
授業コード	M5530	授業科目名	投影法特論	2022年度第2期
担当者	西 隆太郎	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	投影法について、とくに被検査者との関係性を重視する立場からの検討を行う。ロールシャッハをはじめとする投影法についての理解を持った上で、イメージや語りを通じて多様な情報を得る TAT や描画を用いた投影法など、実際に体験することを通じて分析・解釈の方法を学ぶ。また、心理臨床の実際における投影法理解について考察する。			
到達目標	投影法の解釈について理解を深め、投影法における被検査者からのコミュニケーションを理解するための多様なアプローチについて学ぶ。			
成績評価基準	学期末のレポート、および授業への参加などにより、総合的に評価する。			
留意事項				
教材	授業中に随時配布、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投影法を理解する枠組みについて 2. 投影法の治療論的意義について 3. ロールシャッハ・テストの検討 4. ロールシャッハ・テストの解釈 5. TAT の検討 6. TAT の解釈 7. 描画を用いた投影法の検討 8. 描画を用いた投影法の解釈 9. 投影法 (TAT) の体験 10. 投影法 (TAT) の解釈 11. 投影法 (TAT) の実際 12. 検査者と被検査者の関係性について 13. 投影法におけるコミュニケーションの理解について 14. 投影法に関する事例検討 15. 心理臨床の実際における投影法理解について 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M5610	授業科目名	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2022年度第1期
担当者	青山 新吾	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	文部科学省によるスクールカウンセラー事業も、中学校を中心とする時代から、幼稚園、小学校、高等学校とその対象範囲が拡大する時代へと移った。そこで、各世代に特有の問題や、先生方との連携や協働の在り方、不登校やいじめ、発達障害等のトピックについての臨床心理学的知見について取り上げる。			
到達目標	学校臨床心理学の実践的知見について理解する。			
成績評価基準	授業での発表内容とレポート内容で総合的に評価する。			
留意事項	自身の体験や臨床実感と重ねながらディスカッションを進めていきたい。			
教材	日本学校心理学会編「学校心理学ハンドブック第2版」教育出版 その他、授業中に適宜配布する。			
授業予定	第1回：学校生活の外観 第2回：学校教育のシステム、文化 第3回：学校臨床心理学とは 第4回：不登校をめぐる現状 第5回：不登校への学校心理臨床 第6回：いじめ・暴力行為をめぐる現状と支援 第7回：特別支援教育とは 第8回：特別支援教育の具体的取組 第9回：幼児期の子どもたちその現状と支援 第10回：発達障害のある子どもとの現状と臨床の心構え 第11回：保護者への支援 第12回：学校臨床のアセスメント 第13回：関係諸機関との連携 第14回：スクールカウンセラーの役割 第15回：まとめと振り返り			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M5620	授業科目名	司法・犯罪心理学特論(司法・ 犯罪分野に関する理論と支援の 展開)	期間
担当者	関本 憲章	授業形態	講義	単位数
授業概要	1 日本における司法、特に裁判制度の理解 2 犯罪心理学等に基づく矯正・保護制度の理解 3 犯罪を犯した人への支援と社会福祉の理解			
到達目標	犯罪に関係する司法制度と行政的枠組みを理解するとともに、犯罪の原因となる生育・ 家庭等についての犯罪心理学理論を踏まえた改善・支援の現状について理解を深める。			
成績評価基準	1 質問課題に解答する試験及び課題に対する点数評価(70点) 2 授業における質疑・レポートによる理解度の評価(30点) 3 上記1及び2の総計100点評価			
留意事項	1 授業の進捗状況及び施設の協力が得られた場合、授業内容に沿った施設見学 (更生保護施設等)を計画する。			
教材	1 更生保護制度及び心理学理論と心理的支援(社会福祉士シリーズ、第2及び 第20、弘文堂) 2 公認心理師エッセンシャルズ(有斐閣)			
授業予定	第1回 日本の司法制度：警察、検察、裁判所についてその役割を理解する。 犯罪捜査、裁判、矯正施設の役割 第2回 司法制度に関連する心理学的視点：犯罪司法及び犯罪心理学の視点 第3回 犯罪の原因及び日本における犯罪の概要：犯罪心理学等から犯罪行為・ 心理を概観する 第4回 法務省矯正局の行政的枠組み、概要 第5回 少年矯正：非行、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院の業務概要 第6回 非行性の軽減を目的とした矯正教育の要点 第7回 成人矯正：犯罪、裁判制度、拘置所、刑務所の業務概要 第8回 非行・犯罪に関する司法制度についての質疑及び今後の課題 第9回 更生保護制度について：日本の社会福祉の観点から概観し、特に岡山 県に関連した人物や組織について理解を深める。 第10回 再犯の防止に関連した社会内処遇の概要：法務省保護局の行政的枠組 み、概要 第11回 保護観察制度、保護司制度及び更生保護施設の役割 第12回 更生保護制度における関係機関・団体との関係：特に福祉機関、就労 支援関連等について 第13回 矯正・更生保護における最近の課題、動向について 第14回 司法・矯正・保護制度に関わる資格及び心理学的業務の概要 第15回 認定心理士の資格と業務について			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M5630	授業科目名	産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2022年度第2期
担当者	國村 博子	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	産業・労働領域における職場のメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、専門職に求められる姿勢を身につけることで、他職種とのチーム連携を推進する上で効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指す。			
到達目標	①産業・労働分野において心理職が関わる問題を理解出来ること ②産業・労働分野における心理職の支援内容や実践内容を理解すること ③職場におけるメンタルヘルス対策の重要性について自身の視点で論じることが出来ること			
成績評価基準	受講態度、リアクションペーパー：70% 期末レポート：30%			
留意事項	毎回リアクションペーパーを配布し、課題や感想など記入を求める。			
教材	プレゼンテーションソフトを用いた講義及び各自調べた内容について発表し、討議を行う。 (参考書等) 「Relax 職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」/「Selfcare こころの健康 気づきのヒント集」/「Return 改訂・心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」/「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援プログラム」(厚生労働省・(独)労働者健康安全機構)			
授業予定	第1回 産業・労働分野のメンタルヘルスの歴史 第2回 労働関連法規 第3回 労災認定と事業者責任 第4回 安全配慮義務 第5回 過重労働と夜勤労働者の健康管理 第6回 安全衛生委員会と心の健康作り計画 第7回 職業性ストレスに関する諸理論と職場の対策 第8回 ストレスチェック制度とその運用 第9回 4つのケア(セルフケア、ラインによるケア、事業場内産業保健スタッフ等によるケア、事業場外資源によるケア) 第10回 1次予防(メンタルヘルス不調を未然に防止する) 第11回 2次予防(メンタルヘルス不調を早期に発見し、適切な措置を行う) 第12回 3次予防(メンタルヘルス不調となった労働者の職場復帰の支援等を行う) 第13回 職場のハラスメント対策 第14回 多様な労働者への対応 第15回 キャリア支援(ジョブカード制度、セルフキャリアドッグ制度) 第16回 まとめ・期末レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M5640	授業科目名	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	期間
担当者	高野 恵代	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義の目的は、家族が人間の発達にどのような意味をもつのか、ライフサイクルの視点から、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。とくに、個人や家族の抱えるさまざまな心理的・行動的な困難や問題を家族という文脈の中で理解し、解決に向けた援助を行っていかうとする対人援助方法論である「家族療法」を中心に概説する。理論だけでなく、医療、教育、福祉、司法領域で行われている実践についても紹介し、家族を取り巻く環境や社会についても取り上げる。また、家族アセスメントで使用される心理検査についても体験し、実践に繋がる知見を学ぶ。			
到達目標	(1) 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。 (2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。 (3) 心理に関する相談、助言、指導等に対し、上記の(1)及び(2)を応用できる。			
成績評価基準	授業内での取り組み姿勢(発表回数、ディスカッションへの参加度)30%、最終レポート70%で評価する。			
留意事項	文献講読や発表資料の作成など、授業外で行う作業がある。			
教材	テキストは使用しないが、講義時に適宜プリントを配布する。また、参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。			
授業予定	第1回 オリエンテーション：家族と社会 第2回 家族システム論：家族をどう捉えるか 第3回 家族を理解するための概念：家族をどのように見立てるか 第4回 家族の発達(1)：独身の若い成人期 第5回 家族の発達(2)：結婚による家族の成立期 第6回 家族の発達(3)：乳幼児を育てる段階 第7回 家族の発達(4)：小学生の子どもとその家族 第8回 家族の発達(5)：思春期・青年期の子どもとその家族 第9回 家族の発達(6)：老年期の家族 第10回 家族への臨床的アプローチ 第11回 夫婦関係の危機と援助 第12回 子育てをめぐる問題と援助 第13回 家族が経験するストレスと援助 第14回 家族の中のコミュニケーション 第15回 家族アセスメント：心理検査の実施と分析および解釈の体験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (臨床心理学コース)	研究分野	専門関連分野
授業コード	M5650	授業科目名	健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)	期間
担当者	多田 志麻子	授業形態	講義	単位数
授業概要	心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。 心の健康の保持増進や病気の予防に関する理論を理解したうえで、グループワークや研究論文の実践事例の発表・討論を取り入れ、心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法を修得する。			
到達目標	心の健康教育に関する理論を説明できる。 心の健康教育に関する実践方法を支援に活用できる。			
成績評価基準	授業での発表・討論への参加(40%)、レポート課題(60%)			
留意事項				
教材	参考文献：竹中晃二編 健康心理学 北大路書房 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫編 健康・医療心理学 医師薬出版 適宜資料を配付する。			
授業予定	第1回：心の健康教育とは 第2回：予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論 第3回：セルフケアのための自己理解 第4回：健康とパーソナリティ 第5回：健康とストレス 第6回：健康と生活習慣 第7回：児童期・青年期(学校)の心の健康教育 第8回：成人期(職場)の心の健康教育 第9回：老年期の心の健康教育 第10回：災害と心の健康教育 第11回：ストレスマネジメント 第12回：認知行動療法 第13回：アサーショントレーニング 第14回：アンガーマネジメント 第15回：今後の課題・まとめ レポート提出			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達基礎論
授業コード	M4020	授業科目名	発達心理学特論 A	期間
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義	単位数
授業概要	認知・自己意識・社会性・言語・遊びの多領域にわたる発達の様相を、論文・専門書講読を通して理解する。また、生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に対する実際的な支援例を学びながら、そうした子どもたちに向けた支援の可能性について、適宜、検討・議論する。			
到達目標	多領域にわたる発達の様相を、乳幼児期・児童期・青年期・成人期にわたり縦断的に学ぶとともに、そこに見られる個人差について理解する。また、それらの知見を踏まえ、生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に向けた援助計画の立案・評価ができる。			
成績評価基準	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して評価する。			
留意事項				
教材	随時指示をする。			
授業予定	第 1 回：自己意識の発達 I 第 2 回：自己意識の発達 II 第 3 回：自己意識の発達 III 第 4 回：遊びの原理 第 5 回：遊びの発達 I 第 6 回：遊びの発達 II 第 7 回：社会性の発達 I 第 8 回：社会性の発達 II 第 9 回：言語の発達 I 第 10 回：言語の発達 II 第 11 回：認知・思考の発達 I 第 12 回：認知・思考の発達 II 第 13 回：発達障害 第 14 回：発達障害と生活支援 第 15 回：発達障害と学習支援			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達基礎論
授業コード	M4030	授業科目名	発達心理学特論B	2022年度第2期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	認知・思考の発達を支える認知機能として、ワーキングメモリを取り上げる。ワーキングメモリについて最新の知見を概観した後に、発達障害とワーキングメモリの関連について解説する。さらに、ワーキングメモリに着目した支援の在り方について議論を深める。			
到達目標	認知・思考の発達を支えるワーキングメモリについて理解を深めるとともに、ワーキングメモリが小さいために生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に向けた援助計画の立案・評価ができる。			
成績評価基準	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する。			
留意事項				
教材	『ワーキングメモリと特別な支援：一人ひとりの学習のニーズに応える』			
授業予定	第 1 回：ワーキングメモリとは 第 2 回：LD とワーキングメモリとの関連 第 3 回：ADHD とワーキングメモリとの関連 第 4 回：ワーキングメモリの発達差 第 5 回：ワーキングメモリの個人差Ⅰ 第 6 回：ワーキングメモリの個人差Ⅱ 第 7 回：ワーキングメモリと教育 第 8 回：ワーキングメモリが小さい子どもの行動特徴 第 9 回：ワーキングメモリの測定方法Ⅰ 第 10 回：ワーキングメモリの測定方法Ⅱ 第 11 回：ワーキングメモリの測定方法Ⅲ 第 12 回：幼児に対する教育的取り組み 第 13 回：児童に対する教育的取り組み 第 14 回：青年に対する教育的取り組み 第 15 回：ワーキングメモリの視点にもとづいた援助計画の立案			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達基礎論
授業コード	M4090	授業科目名	大脳発達学特論	2022年度第1期
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数
授業概要	脳の発生・発達、構造、機能を学ぶことにより、人間の知覚、運動、情動、記憶、言語などの機能の発達を理解する。本科目履修により、脳機能の先天的、後天的、可変的な要素を理解し、人間の精神身体機能に見られる多様性の多くは、発達過程における脳の適応の結果であることを講義から理解させる。			
到達目標	胎児期から老年期に至るまでの脳の発達について理解する。知覚、運動、情動、記憶、言語などの人間が持つ機能と脳の発達の関係性について理解する。			
成績評価基準	課題レポート(80%)、質疑応答・受講状況(20%)などから総合的に評価する。			
留意事項	脳科学と周辺領域の書籍、学術雑誌などに目を通し、文献検索を行うなど、関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。			
教材	参考資料、文献などを必要に応じて配付または紹介する。			
授業予定	第1回：脳とは何か（脳の発生・発達） 第2回：脳とは何か（脳の構造・機能） 第3回：感覚機能の発達（視覚） 第4回：感覚機能の発達（聴覚・平衡感覚） 第5回：感覚機能の発達（嗅覚） 第6回：感覚機能の発達（味覚） 第7回：感覚機能の発達（体性感覚） 第8回：脳・脊髄による運動制御 第9回：脳と意識（感情） 第10回：脳と意識（記憶） 第11回：脳と意識（言語） 第12回：脳と情報伝達（神経細胞のネットワーク） 第13回：脳と情報伝達（神経伝達物質） 第14回：脳と医療（脳の病気と障害） 第15回：まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達基礎論
授業コード	M4140	授業科目名	発達心理学演習 A	2022年度第1期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	演習	単位数
授業概要	生涯発達心理学に関する理解を軸としながら、現代社会における人間の発達を取り巻く諸課題を、文献収集・講読・分析を通して明らかにする。それらの学びを踏まえたうえで、学生自らがリサーチクエッションを導出し、研究を計画する。			
到達目標	学生は主体的な学びを通して、人間の発達を巨視的・微視的視点から分析・考察する能力を身につけるとともに、自らがリサーチクエッションを導出し、問題解決に向けた心理学的手法を具体的に計画することができる。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポート、最終レポート(研究計画)に総合的に判断して評価する。 最終レポート(研究計画)70% 発表内容・レポート30%			
留意事項	特になし			
教材	随時指示をする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題 (1) 文献収集 2. 乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題 (2) 文献講読 3. 乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題 (3) 資料分析 4. 乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題 (4) 発表 5. 学童期から青年期：社会的自立に向けた課題 (1) 文献収集 6. 学童期から青年期：社会的自立に向けた課題 (2) 文献講読 7. 学童期から青年期：社会的自立に向けた課題 (3) 資料分析 8. 学童期から青年期：社会的自立に向けた課題 (4) 発表 9. 成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題 (1) 文献収集 10. 成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題 (2) 文献講読 11. 成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題 (3) 資料分析 12. 成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題 (4) 発表 13. リサーチクエッションの導出 (1) 文献整理 14. リサーチクエッションの導出 (2) 資料分析 15. 研究の計画発表 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達基礎論
授業コード	M4145	授業科目名	発達心理学演習B	2022年度第2期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	演習	単位数 2単位
授業概要	生涯発達心理学に関する理解を踏まえたうえで、学生自らが導出したリサーチクエッションに対する問題解決に向け、研究を計画・実行し、発達心理学における新たな知見を提出する。			
到達目標	発達心理学に関して、学生自らが導出したリサーチクエッションの問題解決に向け、心理学的手法を適応できる。研究を遂行するうえで、情報を収集・整理・分析し、発達心理学における新たな知見を提出する。また、論文執筆を通して、自ら得た知見とその意義を論理的に表現できる能力を身につける。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポート、研究成果論文をもとに総合的に判断して評価する。 研究成果論文70% 発表内容・レポート30%			
留意事項	特になし			
教材	随時指示をする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに先行研究の整理 2. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに論文構成の提出 3. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析方法の精査 4. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに問題点の修正 5. 研究成果の中間報告 6. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析 7. 研究・フィールドワークの実施報告ならびに考察 8. 論文目的部分提出ならびに議論 9. 論文方法部分提出ならびに議論 10. 論文結果部分提出ならびに議論 11. 論文考察部分提出ならびに議論 12. 論文要旨作成ならびに校閲 13. 完成論文の校閲 14. 口頭発表準備 15. 口頭発表ならびに省察 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4210	授業科目名	教育実践特論 I A	期間
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	本授業では、子どもの描画発達に関する文献を精読する。			
到達目標	到達目標 1. 子どもの発達と描画活動の関係について学ぶ。			
成績評価基準	課題提出 30%、口頭発表 30%、試験 40%にみられる到達目標 1 の達成度による総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	G・V・トーマス / A・M・シルク『子どもの描画心理学』りぶりあ選書 / 法政 大学出版局 『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』『幼稚園 教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第 1 回: はじめに 第 2 回: 『子どもの描画心理学』第 1 章 描画研究史の分類 第 3 回: 『子どもの描画心理学』第 2 章 描画の特徴と発達段階 第 4 回: 『子どもの描画心理学』第 3 章 定義 第 5 回: 『子どもの描画心理学』第 4 章 アプローチの方法 第 6 回: 『子どもの描画心理学』第 5 章 構成要素 第 7 回: 『子どもの描画心理学』第 6 章 読み取る情報 第 8 回: 『子どもの描画心理学』第 7 章 感情の伝達と芸術療法 第 9 回: 『子どもの描画心理学』第 8 章 描画発達と才能 j 第 10 回: 『子どもの描画心理学』第 9 章 芸術的特性 第 11 回: 『子どもの描画心理学』第 10 章 議論と研究課題 第 12 回: 美術教育の目的 第 13 回: 日本の美術教育理論 第 14 回: 世界の美術教育理論 第 15 回: まとめ 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4220	授業科目名	教育実践特論 I B	2022年度第2期
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	本授業では、子どもの描画発達に関する様々な文献を精読する。			
到達目標	到達目標 1. 子どもの発達と描画活動の関係についてさらに学ぶ。			
成績評価基準	課題提出 30%、口頭発表 30%、試験 40%にみられる到達目標 1 の達成度による総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	『小学校学習要領』 小学校学習指導要領解説(図画工作編)』 幼稚園教育要領』 幼 保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第 1 回: はじめに 第 2 回: 描画研究史の分類について 第 3 回: 描画の特徴と発達段階について 第 4 回: 定義について 第 5 回: アプローチの方法について 第 6 回: 構成要素について 第 7 回: 読み取る情報について 第 8 回: 感情の伝達と芸術療法について 第 9 回: 描画発達と才能について 第 10 回: 芸術的特性について 第 11 回: 議論と研究課題について 第 12 回: 先行研究の総括について 第 13 回: 課題の発掘 前編 第 14 回: 課題の発掘 後編 第 15 回: まとめ 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4260	授業科目名	教育実践特論 I I A	2022年度第1期
担当者	片山 裕之、赤木 雅宣	授業形態	講義(演習を含む)	単位数 2単位
授業概要	全国学力・学習状況調査、OECD 加盟国による生徒の学習状況調査(PISA)、国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)などの結果をもとに、我が国の子どもの抱えている学力を多面的に分析する。そのうえで、小学校の国語(読解力、表現力)、図画工作(表現力、鑑賞力)に関して、より高度な総合的な指導技術を身に付けるため、カリキュラム開発、教材開発、形成的評価に基づく個別指導などの方策について、理論的背景を検討するとともに、実際に構築し、現場での検証を行う。			
到達目標	到達目標1 ・教科指導に関する理論的研究、調査的研究、開発的研究、実践的研究のあり方を理解する。 到達目標2 ・専修免許取得に必要な高度な専門的知識と指導力を身に付ける。			
成績評価基準	・レポート作成、レポート発表(プレゼンテーション) 60% ・討論の様子 20% ・作品等 20%			
留意事項				
教材	・文部科学省『幼稚園教育要領』幼稚園教育要領解説』小学校学習指導要領』小学校学習指導要領解説 総則 国語編 図画工作編』 ・PISA 調査、全国学力、学習状況調査の結果他			
授業予定	第1回:PISA 調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について(内容理解) (片山) 第2回:PISA 調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について(課題の解決を探る) (片山) 第3回:図画工作科教育の現状と今日的課題 (片山) 第4回:図画工作科「絵や立体で表す」領域の指導と造形力の育成 (片山) 第5回:図画工作科「鑑賞」領域の指導と鑑賞力の育成 (片山) 第6回:造形力育成に向けた教材開発のあり方 (片山) 第7回:鑑賞力育成に向けた教材開発のあり方 (片山) 第8回:国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成(読解力とは何(赤木)) 第9回:国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成(読解力育成の方(赤木)) 第10回:国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成(表現力とは何か(赤木)) 第11回:国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成(表現力育成の方(赤木)) 第12回:国語科「話すこと・聞くこと」領域の指導と対話力の育成(赤木) 第13回:国語科「伝統的な言語文化」の指導と言語感覚の育成(赤木) 第14回:読解力育成に向けた教材開発と評価のあり方(赤木) 第15回:表現力育成に向けた教材開発と評価のあり方(赤木) レポート作成とレポート発表			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4290	授業科目名	教育実践特論 I I B	2022年度第2期
担当者	片山 裕之、赤木 雅宣	授業形態	講義(演習を含む)	単位数 2単位
授業概要	国語科・生活科・図画工作科・総合的な学習で培うべき学力を明らかにし、表現力、読解力、言語力、学習構想力、創造力、造形力、鑑賞力、課題解決力などの育成を目指した小学校低学年から高学年にかけての教育カリキュラムを構想する。その際、ScopeとSequenceの両面から考察し、試案の作成を行う。			
到達目標	到達目標1 ・表現力、読解力、言語力、学習構想力、創造力、造形力、鑑賞力、課題解決力などを育成するためのカリキュラム試案を作成する。 到達目標2 ・教育実践に必要なとなる高度な専門的資質と能力を身に付ける。			
成績評価基準	・レポート作成とレポート発表(プレゼンテーション) 60% ・討論の様子 20% ・作品等 20%			
留意事項				
教材	・文部科学省『幼稚園教育要領』幼稚園教育要領解説』小学校学習指導要領』小学校学習指導要領解説 総則 国語編 生活科変 図画工作編 総合的な学習編』 ・PISA 調査、全国学力・学習状況調査の問題と結果他			
授業予定	第1回: 体験的な学習と問題解決的な学習について(それぞれの意義) (片山) 第2回: 体験的な学習と問題解決的な学習について(学習の展開) (片山) 第3回: 社会教育の中で培う図画工作科の学力について (片山) 第4回: 生活科、総合的な学習の中で培う創造力について (片山) 第5回: 創造力育成カリキュラム作成 (片山) 第6回: 造形力育成カリキュラム作成 (片山) 第7回: 鑑賞力育成カリキュラム作成 (片山) 第8回: 生活科、総合的な学習の中で培う表現力・読解力について (赤木) 第9回: 生活科、総合的な学習の中で培う言語力について (赤木) 第10回: 生活科、総合的な学習の中で培う問題解決力(学習構想力)について (赤木) 第11回: 社会教育の中で培う国語科の学力について (赤木) 第12回: 家庭教育の中で培う国語科の学力について (赤木) 第13回: 言語力育成カリキュラム作成I(就学前~小学校入門期) (赤木) 第14回: 言語力育成カリキュラム作成II(小学校低学年~小学校中学年) (赤木) 第15回: 言語力育成カリキュラム作成III(小学校高学年~中学校) (赤木) レポート作成とレポート発表			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4320	授業科目名	教育実践特論 I I I A	期間
担当者	本保 恭子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	<p>障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育(学)の中で、「特別支援教育」と「母子保健」の領域のシステムや取り組みの実際について解説する。治療教育(学)では、単に「治療」を障害や疾病の除去や改善、欠陥や障害の除去・軽減というように狭く捉えるのではなく、「治療教育を受ける人々の生活、人生、生命を豊かなものにしていく営み」として実施されているが、主にその観点から発達支援の教育を中心としたこの領域の諸問題とあり方について論考する。</p>			
到達目標	<p>治療教育の場と実施の内容を理解し、受講者自らが主体的に「人が生活を豊かなものにしていくための営み」に参加できるようになることを目的とする。</p>			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の小テスト 40% ・ レポート 60% 			
留意事項				
教材	適宜紹介、テキストは適宜指示			
授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回：治療教育の礎を築いた人々(1) 第 2 回：治療教育の礎を築いた人々(2) 第 3 回：治療教育の礎を築いた人々(3) 第 4 回：障害児と家族の暮らし(1) 第 5 回：障害児と家族の暮らし(2) 第 6 回：障害児と家族の暮らし(3) 第 7 回：発達支援としての早期対応(母子保健の立場から 1) 第 8 回：発達支援としての早期対応(母子保健の立場から 2) 第 9 回：発達支援と児童福祉 1 第 10 回：発達支援と児童福祉 2 第 11 回：発達支援と特別支援教育 1 第 12 回：発達支援と特別支援教育 2 第 13 回：発達支援と特別支援教育 3 第 14 回：障害児の就労支援(18歳以降の生活) 第 15 回：発達支援に求められる基本姿勢 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4330	授業科目名	教育実践特論ⅠⅠⅠB	2022年度第2期
担当者	本保 恭子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育(学)の中で、障害児を取り巻く望ましい社会環境の一端を担う「健常児への障害理解教育」と「特別支援教育」の実際について解説し、この領域の諸問題とあり方について論考する。また、効果的な療育環境、文化としての福祉についても考えていきたい。			
到達目標	障害児・者を取り巻く社会・環境について関心を持ち、「すべての人が社会で当たり前で生活をしていくことができる教育環境や地域づくり」について実践的な行為ができる人になることを目的とする。			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の小テスト 40% ・ レポート 60% 			
留意事項				
教材	適宜紹介、テキストは適宜指示			
授業予定	第 1 回：幼児期の障害理解教育 1 第 2 回：幼児期の障害理解教育 2 第 3 回：学童期と障害理解 1 第 4 回：学童期と障害理解 2 第 5 回：青年期以降の障害理解啓発活動 1 第 6 回：青年期以降の障害理解啓発活動 2 第 7 回：発達支援を担う人々と関係専門機関 1 第 8 回：発達支援を担う人々と関係専門機関 2 第 9 回：発達支援を担う人々と関係専門機関 3 第 10 回：発達支援を担う専門職の養成 第 11 回：特別支援教育 1 第 12 回：特別支援教育 2 第 13 回：特別支援教育 3 第 14 回：障害児・者のいる家族への支援に求められる基本姿勢 第 15 回：新しい社会づくり			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4340	授業科目名	発達支援論演習IA	期間
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	本授業では、幼児の描画発達とその周辺領域にあるカレントな問題を発掘し、美術的・教育的視点により解明していく。			
到達目標	到達目標 1. 広い視野に立って問題の所在を明らかにし研究課題を設定することができる。 到達目標 2. 研究計画を立案し、それにしたがって分析・考察を進めることができる。			
成績評価基準	研究課題に対する情熱(到達目標1)50%、研究に対する姿勢(到達目標1・2)50%の総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第1回:論文の構成 第2回:文献・資料の調査方法 第3回:参考文献・資料の引用 第4回:論理の構築と日本語表現 第5回:主題の選定 第6回:美術教育に関する先行研究(国内) 第7回:美術教育に関する先行研究(海外) 第8回:先行研究の概観 第9回:研究計画の作成①(背景と目的) 第10回:研究計画の作成②(方法と内容構成) 第11回:文献の整理①美術教育関連図書 第12回:文献の整理②描画心理学関連図書 第13回:文献の分析①幼年造形教育 第14回:文献の分析②図画工作科教育 第15回:文献の考察 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4345	授業科目名	発達支援論演習ⅠB	期間
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	本授業では、幼児の描画発達とその周辺領域にあるカレントな問題を発掘し、美術的・教育的視点により解明していく。			
到達目標	到達目標 1. 立案している研究計画にしたがって分析・考察を進めることができる。 到達目標 2. 成果をまとめ、論文を執筆する研究能力を身につける。			
成績評価基準	研究課題に対する情熱(到達目標1)50%、研究に対する姿勢(到達目標2)50%の総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第1回: 文献の考察 第2回: 資料の整理 第3回: 資料の分析と考察 第4回: 文献および資料の分析と考察 第5回: 論究と執筆①問題の所在 第6回: 論究と執筆②先行研究 第7回: 論究と執筆③内容構成 第8回: 論究と執筆④分析方法 第9回: 論究と執筆⑤分析と考察 第10回: 論究と執筆⑥検証と解明 第11回: 論究と執筆⑦総括的考察 第12回: 論究と執筆⑧全体の校閲 第13回: 註・参考資料・文献の確認 第14回: アブストラクト作成 第15回: 総括と講評 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4350	授業科目名	発達支援論演習IIA	期間
担当者	本保 恭子	授業形態	演習	単位数
授業概要	テーマに関する今日的課題を著した国内外の文献を精読し、研究計画と論文の構成を確定する			
到達目標	扱うテーマについて、問題の所在を明らかにし、研究課題と研究計画を設定する能力を培う			
成績評価基準	研究課題に取り組む姿勢、文献や資料の分析状況、論文執筆について総合的に評価する			
留意事項				
教材	適宜指示する			
授業予定	授業計画 第 1 回：研究テーマおよび研究計画の構想 第 2 回：文献・資料の収集方法（図書館利用と社会資源の活用） 第 3 回：生きづらさの包括的概念の整理 第 4 回：生きづらさ（健康不安）に関する先行研究 第 5 回：生きづらさ（差別）に関する先行研究 第 6 回：生きづらさ（障害）に関する先行研究 第 7 回：生きづらさ（不条理・理不尽）に関する先行研究 第 8 回：主題の選定 第 9 回：文献の整理（生きづらさの表現方法の分析） 第 10 回：文献の整理（生きづらさの理解のための分析） 第 11 回：文献の整理（生きづらさへの支援方法の模索） 第 12 回：生きづらさへの具体的支援方法の決定 第 13 回：支援の手続きとアセスメントの検討 第 14 回：研究計画の見直し 第 15 回：研究計画の作成・確定			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4355	授業科目名	発達支援論演習IIB	期間
担当者	本保 恭子	授業形態	演習	単位数
授業概要	発達支援に係る課題を見つけ、教育・福祉・治療的視点から論究し論文にまとめる			
到達目標	成果をまとめ、研究論文を執筆する能力を身につける			
成績評価基準	論文執筆に取り組む姿勢、論文の論究内容について総合的に評価する			
留意事項				
教材	適宜指示する			
授業予定	第 1 回：論文構成の確認 第 2 回：フィールド①におけるデータ収集 第 3 回：フィールド②におけるデータ収集 第 4 回：フィールド③におけるデータ収集 第 5 回：収集データの処理と分析 第 6 回：収集データの分析 第 7 回：論究と執筆① 問題の所在 第 8 回：論究と執筆② 先行研究 第 9 回：論究と執筆③ 方法と結果 第 10 回：論究と執筆④ 結果の検証 第 11 回：論究と執筆⑤ 考察 第 12 回：論究と執筆⑥ 総合的考察 第 13 回：論究と執筆⑦ 全体の校閲 第 14 回：文献と参考資料の確認 第 15 回：総括と講評			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4370	授業科目名	児童文学特論	2022年度第1期
担当者	村中 李衣	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	<p>日本の児童文学史上、重要な意味をもつ月刊物語絵本「こどものとも」を1956年創刊時から60年を経た2013年まで読み直し、時代背景や児童観の変遷と絡めて考察を進めていく。</p> <p>敗戦後の自由と創造を希求する空気がどのように反映されたか、当時の編集者の証言や、同時代の外国の絵本事情との比較検討なども織り交ぜながら、論じていく。併せて、多様な研究の手法も学ぶ。</p>			
到達目標	<p>数々のロングセラー絵本の出発点となった、福音館書店の月刊物語絵本が、戦後日本の児童文学界に果たした役割を理解するとともに、松居直という編集者の試行錯誤の軌跡と実際に手がけた作品ごとの編集過程を照らしあわせることで、絵本とはいかなるものであるのか、受講生自らが検証し、新しい時代の新しい絵本について展望をもつ。</p>			
成績評価基準	<p>授業内で出される課題への取り組みの姿勢と、授業でのディスカッションを経た後の数回のレポートによって評価を行う。</p>			
留意事項				
教材	<p>松居直著「松居直と『こどものとも』」(ミネルヴァ書房)</p>			
授業予定	<p>第一回：月刊物語絵本の役割 第二回：編集者と絵本 第三回：「こどものとも」以前の月刊絵本 第四回：創刊号誕生前後 第五回：試行錯誤の時代 第六回：新しい絵本表現の挑戦 第七回：絵本作家の成長 第八回：絵本の常識を超える 第九回：子どもの発達に合わせて 第九回：個性的な絵本の登場 第十回：社会の変動を捉えて 第十一回：編集体制の変化と作品の変化 第十二回：新しい絵本作家の台頭 第十三回：月刊絵本のこれから 第十四回：月刊絵本の研究(データベース作り) 第十五回：月刊絵本の研究(データベース作りのまとめ)</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4380	授業科目名	音楽特論	2022年度第2期
担当者	池田 尚子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	児童の豊かな感性を育み、多様な音楽表現を引き出すためには、教員自らの感性と、音楽表現力が豊かであることが大切である。本授業では、そのために最低限必要な発声の基礎を知り、多様な舞台芸術作品に触れることにより、教育現場において役立つ歌唱技術や表現方法を習得する。幅広い音楽に触れ表現することにより、表情豊かに表現する力も養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歌うための呼吸法と発声法を理解し身につける。 2. 楽譜から音楽を読み取り、曲にふさわしい表現ができるようになる。 3. 日本語の発音を明確に歌唱できるようになる。 4. 授業をきっかけに自ら音楽鑑賞をし、コンサートやオペラ、ミュージカルに足を運ぶようになる。 			
成績評価基準	授業中の意欲・態度 50% 実技・レポート課題 50%			
留意事項	日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。			
教材	適宜配布する			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：授業内容の説明(姿勢・呼吸について) 2. 子どもの音楽的発達を知ろう 3. 発声の訓練① 表情・口形について。ヴォカリーズで、自然な発声を身に付ける 4. 発声の訓練② 響きについて。ヴォカリーズで、自然な発声を身に付ける 5. 歌唱の訓練Ⅰ① 共通教材より曲目の選定・作品解釈と歌詞の朗読。リズム・音程に注意する 6. 歌唱の訓練Ⅰ② 楽譜から作曲者の意図を考察し、フレーズを意識した呼吸法を考える 7. 歌唱の訓練Ⅱ① 共通教材より曲目の選定・作品解釈と歌詞の朗読。日本語の発音に注意する 8. 歌唱の訓練Ⅱ② 楽譜から作曲者の意図を考察し、フレーズを意識した呼吸法、曲に適した発声法を考える 9. 鑑賞① オペラ・ミュージカルについて 10. 鑑賞② オペラ・ミュージカル鑑賞 11. 鑑賞③ さまざまな楽器オーケストラ作品について 12. 鑑賞④ オーケストラ作品・器楽作品を鑑賞 13. 教材の選択① 歌唱教材 14. 教材の選択② 鑑賞教材 15. 歌唱表現の指導をする際の留意点 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4400	授業科目名	美術特論	2022年度第2期
担当者	片山 裕之	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	美術概論、絵画表現、鑑賞の三分野を必要に応じて演習を交えながら授業を進める。			
到達目標	到達目標1 美術全般に関する知識、関心を深めることができる。 到達目標2 実技を通して描くことの楽しさを味わうとともに、技術の向上をはかることができる。 到達目標3 鑑賞に関する知識、関心を深めることができる。			
成績評価基準	作品・レポート・発表 …60点 授業態度・出席 …40点			
留意事項				
教材	適宜配布する			
授業予定	第1回 美術概論Ⅰ (造形表現の意義) 第2回 美術概論Ⅱ (鑑賞の意義) 第3回 絵画表現Ⅰ (人物画の制作) 第4回 絵画表現Ⅱ (人物画の制作) 第5回 絵画表現Ⅲ (人物画の制作) 第6回 絵画表現Ⅳ (人物画の制作) 第7回 絵画表現Ⅴ (人物画の制作) 第8回 鑑賞Ⅰ (西洋美術史・古代から現代) 第9回 鑑賞Ⅱ (西洋美術史・古代から現代) 第10回 鑑賞Ⅲ (西洋美術史・古代から現代) 第11回 鑑賞Ⅳ (日本美術史・飛鳥時代から江戸時代) 第12回 鑑賞Ⅴ (日本美術史・飛鳥時代から江戸時代) 第13回 鑑賞Ⅵ (日本美術史・飛鳥時代から江戸時代) 第14回 美術館見学Ⅰ 第15回 美術館見学Ⅱ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4410	授業科目名	特別支援教育特論	期間
担当者	東 俊一	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	特別支援教育の概要を理解したうえで、その対象、実践方法、役割と連携のありかたについて学ぶ。			
到達目標	障害理解だけでなく、具体的な支援方法の理解・支援計画作成、および生涯にわたる支援について理解する。			
成績評価基準	授業内での発表およびレポート			
留意事項				
教材	適宜、指示・紹介する			
授業予定	第 1 回：特別支援教育の意義と理念 第 2 回：特別支援教育の制度概要と支援体制 第 3 回：障害概念と特別な教育ニーズ 第 4 回：知的障害の実態把握とアプローチ 第 5 回：学習障害の実態把握とアプローチ 第 6 回：ADHDの実態把握とアプローチ 第 7 回：ASDの実態把握とアプローチ 第 8 回：個別の指導計画の理解と作成 第 9 回：個別の教育支援計画の理解と作成 第 10 回：校内支援体制の重要性と構築 第 11 回：地域支援ネットワーク 第 12 回：就学前期における課題と個別支援 第 13 回：学齢期における課題と個別支援(生活支援、学習支援) 第 14 回：学齢期における課題と個別支援(行動支援、対人関係の支援) 第 15 回：就労に関する課題と個別支援			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4420	授業科目名	社会教育特論	2022年度第2期
担当者	西井 麻美	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	今日の社会教育の在り方に関して、国際社会及び我が国の政策や実践の動向を踏まえた検討を行い、社会教育・生涯学習の領域での人材育成の観点を明らかにしていく。			
到達目標	社会教育・生涯学習に関する実践と理論について把握し、これからの社会に求められる人材育成の在り方について、自分なりの見解を見いだす。			
成績評価基準	提出課題(レポート) 50%、授業への参加態度・発表 50%により評価する。			
留意事項	地域の社会教育活動について、視察や参加をするなどして、実際に即した検討を行ってほしい。			
教材	参考文献 西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著『持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践』 ミネルヴァ書房 2012年、西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著『ESDがグローバル社会の未来を拓く SDGsの実現をめざして』 ミネルヴァ書房 2020年			
授業予定	第1回 オリエンテーション 第2回 今日の社会教育・生涯学習の課題 第3回 社会教育の理論(1) 学習論 第4回 社会教育の理論(2) 組織論 第5回 生涯学習の理論(1) ラングランによる生涯教育の提唱 第6回 生涯学習の理論(2) ジェルピによる生涯教育論 第7回 社会教育・生涯学習の基盤(1) 法規 第8回 社会教育・生涯学習の基盤(2) 社会教育・生涯学習関連施設と実践 第9回 ESDとは 第10回 国連 ESD・SDGs 政策 第11回 岡山における ESD・SDGs プロジェクト 第12回 地域の ESD・SDGs 活動 第13回 これから ESD・SDGs を展開していくために：グループ討議・発表 第14回 これからの社会に求められる人材育成：グループ討議・発表 第15回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	発達支援論
授業コード	M4430	授業科目名	生徒指導特論	2022年度第1期
担当者	中内 みさ	授業形態	講義	単位数
授業概要	学校教育における生徒指導・教育相談・キャリア教育の基礎的理論・意義と課題，歴史や現状等について理解を深める。また，それぞれの観点から，子どもの問題を理解し，支援計画を立て，支援のポイントを明確にしながら学校内外と連携して，具体的な支援をどう進めていくかを学ぶ。			
到達目標	今日の学校教育における児童生徒支援サービス（生徒指導・教育相談・キャリア教育）の意義と課題を概説できる，また，教育現場における子どもの問題に関して，それぞれの観点から具体的にどう対応していくかに関して計画し実践できる。 ① 学校心理学の立場から生徒指導を理解し，子どもの問題に対して学校内外と連携をとりながら支援の計画をたて，実際に展開することができる。 ② 学校教育相談の意義と特質，限界，具体的な展開の仕方等を説明できる。 ③ キャリア教育の意義と内容を理解し，実際に計画をたてて支援をすることができる。			
成績評価基準	プレゼンテーション（40%），討論への積極的な参加（20%），レポート（40%）			
留意事項	自分の意見，批判的態度をもつこと。授業ではプレゼンテーションや討論を行う。			
教材	テキスト 文部科学省（2010）生徒指導提要，教育図書 テーマごとにプリント，資料を配布する。			
授業予定	第1回：オリエンテーション-生徒指導の意義 第2回：学校心理学の基礎 第3回：子どもを取り巻く社会の問題 第4回：子どものしょうがいと不適應について 第5回：生徒指導のねらいと課題 第6回：生徒指導の歴史-アメリカと日本を中心に 第7回：学校教育相談の意義と基礎的理論 第8回：学校教育相談の実際 第9回：キャリア教育の意義 第10回：キャリア教育の歴史と基礎的理論 第11回：キャリア教育の実際 第12回：学校内外における連携 第13回：小学校における児童支援（プレゼンテーションと討論） 第14回：中学校における生徒支援（プレゼンテーションと討論） 第15回：高等学校における生徒支援（プレゼンテーションと討論） 第16回：特別支援学校における児童生徒支援（プレゼンテーションと討論）			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間発達学専攻（人間発達学コース）	研究分野	専門関連科目
授業コード	M4512	授業科目名	保育内容特論（人間関係）	2022年度第2期
担当者	三宅 一恵	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容等を読み解くとともに、幼児期における人間関係の発達を促す保育のあり方を検討する。また、幼児理解や指導計画作成など、保育技術の向上につながる学びを深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習や実践の振り返りを行いながら、課題や成果を明らかにし、その改善点を考えることができる。 ・領域「人間関係」を中心とした保育内容の専門的な理解を深め、幼児理解とともに保育の構想や指導計画作成などの保育技術の向上に活かすことができる。 ・現代の保育現場の課題を踏まえて自分の問題意識を明瞭化し、課題研究のテーマ設定につなげることができる。 			
成績評価基準	授業での意欲・態度・姿勢 40点、課題レポート 60点			
留意事項				
教材	『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月 文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成30年3月 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
授業予定	授業計画 第1回：保育実践の振り返りの意義 第2回：幼児理解の観点からの振り返りと課題の把握 第3回：保育内容の観点からの振り返りと課題の把握 第4回：環境構成の観点からの実践の改善 第5回：領域「人間関係」の観点からの実践の改善 第6回：学級経営の観点からの実践の改善 第7回：人間関係を育む教師の役割と環境構成 第8回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からみた実践の改善 第9回：協同的な学びを育む観点からみた実践の改善 第10回：保育者集団の観点からみた実践の改善 第11回：小学校教育とのつながりの観点からの実践の改善 第12回：指導案の作成Ⅰ（課題と研究を踏まえた保育の構想） 第13回：指導案の作成Ⅱ（模擬保育に向けた指導案の作成） 第14回：指導案の作成Ⅲ（模擬保育の実践と評価） 第15回：保育現場における現代的課題からの考察 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	
授業コード	M4514	授業科目名	保育内容特論(表現)	2022年度第1期
担当者	池田 尚子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数 2単位
授業概要	本授業では、領域「表現」の中で、特に音楽表現に焦点をあてる。乳幼児期の子どもの発達と表現の特性を学び、感性や創造性を豊かにする表現遊びについて実践的に学ぶ。乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 2. 協働して表現活動することを通して、様々な表現があることを知り、それに共感し、自己のより豊かな表現につなげていくことができる。 3. 様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開することができる。 			
成績評価基準	授業中に出す課題・発表へ向けての取り組み 50% 定期試験 50%			
留意事項	日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。			
教材	「聴く・表現する 音楽力を育む！」 (熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社) 「こどものうた200」 (小林美実編、チャイルド本社) 「続・こどものうた200」 (小林美実編、チャイルド本社)			
授業予定	第1回：オリエンテーション 授業の概要及び授業展開について 第2回：領域「表現」のねらい及び内容の理解 第3回：乳幼児期の年齢的な発達と表現の特性の理解 第4回：身近な環境との関わりにおいて育まれる音楽的感性と表現 第5回：身の周りの楽器を使った表現活動 第6回：わらべうた遊びや手遊び歌から育まれる音楽的感性と表現 第7回：より豊かな表現活動に向けて(合唱・合奏) 第8回：ごっこ遊びや劇遊びを通して育まれる感性と表現 第9回：保育者の受け止めと援助について 第10回：総合的な表現(オペレッタ作り) 台本の検討(絵本や物語の選定・台本の作成・役決め) 第11回：総合的な表現(オペレッタ作り) 音楽の創作(効果音の創作・楽器の選択) 第12回：総合的な表現(オペレッタ作り) 音楽の選曲(劇にふさわしい歌唱教材の選曲・作曲) 第13回：総合的な表現(オペレッタ作り) 道具・衣装等の制作 第14回：総合的な表現 発表に向けての練習(合奏・合唱) 第15回：総合的な表現 発表 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M4520	授業科目名	学校心理学特論	2022年度第2期
担当者	多田 志麻子	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	学校心理学の理論や学校教育において一人ひとりの児童生徒が会う不登校、非行、障害などの問題状況を学ぶ。また、問題状況の解決を援助し、児童生徒が成長することを促進する心理教育的援助サービスについて理論と実践の両側面から考える。			
到達目標	児童生徒の問題を解決するために行う教師・保護者・カウンセラーの連携、児童生徒への援助、学校や社会の資源の活用などの心理教育的援助サービスについて理解し、実践できるようになること。			
成績評価基準	授業での発表・討論への参加(40%)、レポート課題(60%)			
留意事項	積極的に討論や実践に取り組み、学校心理学の専門家としての役割を体得して欲しい。			
教材	参考文献：石隈利紀 学校心理学 誠信書房 窪田由紀・平石賢二編 学校心理臨床実践 ナカニシヤ出版 適宜資料を配布する。			
授業予定	第1回：学校心理学とは 第2回：学校心理学における3段階の心理教育的援助サービス 第3回：学校心理学と近辺領域との異同 第4回：児童・生徒のアセスメント 第5回：学校のアセスメント 第6回：不登校の理解 第7回：不登校への援助・介入 第8回：発達障害の理解 第9回：発達障害の援助・介入 第10回：問題行動、精神疾患の理解 第11回：問題行動、精神疾患の援助・介入 第12回：学校教育現場へのコンサルテーション 第13回：危機介入と緊急支援 第14回：学校心理士と倫理、守秘義務 第15回：今後の課題 レポート提出			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M4530	授業科目名	心理検査特論	2022年度第1期
担当者	中内 みさ	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	教育・福祉分野でよく使用される心理教育アセスメントに関して、アセスメントの基礎的な知識や検査方法、現場で実施する際の留意点などについて理解を深める。また、検査結果を支援にどう反映するか、事例を基に検討する。			
到達目標	<p>学校心理学における心理教育アセスメントの目的や意義について説明できる。</p> <p>① 心理教育アセスメントの意義や目的、各検査等の限界などについて説明することができる。</p> <p>② 知能検査、発達検査等の理論や実施する際の留意点や実施法などを説明することができる。</p> <p>基本的な心理検査・観察法を解釈し、その結果に基づいて支援の方針を提案できる。</p>			
成績評価基準	複数回のプレゼンテーションおよびレポートで総合的に評価する			
留意事項				
教材	適時指示する。必要に応じてプリントを配布する			
授業予定	<p>第1回：心理教育アセスメントの意義と目的</p> <p>第2回：心理教育アセスメントの基礎的知識1（信頼性、妥当性など）</p> <p>第3回：心理教育アセスメントの基礎的知識2（検査者の条件、バイアスなど）</p> <p>第4回：観察法と面接法</p> <p>第5回：知能検査1（知能検査に関して、知能指数、精神年齢など）</p> <p>第6回：知能検査2（WISC-IV①実施法を中心に）</p> <p>第7回：知能検査3（WISC-IV②プロフィール分析を中心に）</p> <p>第8回：発達関係検査1（発達・成熟・成長、発達指数など）</p> <p>第9回：発達関係検査2（津守式乳幼児精神発達診断法、新版S-M社会生活能力検査など）</p> <p>第10回：親子関係のアセスメント（TK式診断的新親子関係検査など）</p> <p>第11回：パーソナリティ検査1（パーソナリティ検査に関して、内田クレペリン検査など）</p> <p>第12回：パーソナリティ検査2（矢田部ギルフォード性格検査、バウムテストなど）</p> <p>第13回：その他の検査（CMI、エゴグラム）</p> <p>第14回：結果の伝え方と支援方針の立て方</p> <p>第15回：事例から考えるアセスメント</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間発達学専攻 (人間発達学コース)	研究分野	専門関連科目
授業コード	M4550	授業科目名	教育心理学特論	2022年度第2期
担当者	湯澤 正通	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	教育心理学の様々な理論や研究方法を踏まえ、現代社会の教育を批判的に見るための視点を深め、効果的な教育が成立するための認知的、社会的、文化的環境について議論する。			
到達目標	子どもの考える力と言語力の育成、学習意欲などの現在の教育テーマに焦点をあて、相互作用アプローチを受講生自身が実践することで、教育心理学の視点から考える力を身につけることを目標とする。			
成績評価基準	授業(話し合い)への積極的な参加の程度、およびそれぞれの学習テーマに関して、授業中に述べられた意見・出席状況等を勘案して評価する。			
留意事項				
教材	適宜配布する			
授業予定	第 1 回: イントロダクション: 教育心理学とは 第 2 回: 現在の教育の課題(言語力)について考え、話し合う 第 3 回: 社会の変化に対応する能力・資質: 教育目標 第 4 回: 社会の変化に対応する能力・資質: ニュージーランドを事例として 第 5 回: 考える力(活用力), 言語力, 自己教育力をどのように育てるのか: 認知的アプローチ, 記憶と理解 第 6 回: 考える力をどのように育てるのか: 相互作用アプローチ, 動機づけ 第 7 回: グループ間の交流と意見の多様化を促進する学級経営: ジグソー法の理論と実践 第 8 回: 考える力についての視点1-自己制御学習, 科学的リテラシー, 教えて考える授業, 活用力 第 9 回: 考える力についての視点2-自己制御学習, 科学的リテラシー, 教えて考える授業, 活用力 第 10 回: 21 世紀スキルを育む視点1: アン・ブラウン, ブランスフォード, スカーダマリア 第 11 回: 21 世紀スキルを育む視点2: アン・ブラウン, ブランスフォード, スカーダマリア 第 12 回: 21 世紀スキルを育む視点3: アン・ブラウン, ブランスフォード, スカーダマリア 第 13 回: 現在の教育の課題(発達障害)について考え、話し合う 第 14 回: ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援(1) 第 15 回: ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援(2)			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6110	授業科目名	栄養生理学特論I	2022年度第1期
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	食品成分の機能性に関する情報があふれている。この情報を栄養生理学的に正しく理解するためには、人体機能を調節するメカニズムとシステムを学ぶ必要がある。この講義では、人体生理機能を解説し、食品成分や薬物との関連性について論述する。			
到達目標	人体機能を調節する神経系、内分泌系、免疫系と食品成分や薬物との関連性を理解する。この理解をもとに、栄養学分野の専門職業人および食育を指導できる人材を育成する。			
成績評価基準	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。			
留意事項	積極的に自主学習して、授業に備えること。			
教材	プリントを配布する。			
授業予定	第 1 回 中枢神経系：大脳、間脳 第 2 回 中枢神経系：小脳、脳幹 第 3 回 中枢神経系：脊髄、その他 第 4 回 末梢神経系 第 5 回 神経系による恒常性の維持 第 6 回 神経系によるストレス応答 第 7 回 神経細胞の基本構造と機能 第 8 回 内分泌器官とホルモン：視床下部、下垂体、甲状腺 第 9 回 内分泌器官とホルモン：膵臓、副腎、性腺 第 10 回 内分泌器官とホルモン：その他のホルモン 第 11 回 ホルモン分泌の調節と恒常性 第 12 回 免疫系：自然免疫 第 13 回 免疫系：獲得免疫 第 14 回 獲得免疫とアレルギー 第 15 回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6115	授業科目名	栄養生理学特論II	2022年度第2期
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	中枢神経系や免疫系の病態理解をもとに、医薬品や機能性食品の作用について解説する。特にストレス制御効果と抗アレルギー効果に焦点をあてて論述する。			
到達目標	医薬品や機能性食品の作用を神経薬理・生理学的に理解することを目標とする。			
成績評価基準	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。			
留意事項	積極的に自主学習して、授業に備えること。			
教材	プリントを配布する。			
授業予定	第 1 回 中枢神経系の概説 第 2 回 抗精神病薬・抗うつ薬 第 3 回 パーキンソン病治療薬 第 4 回 抗認知症薬・抗てんかん薬 第 5 回 抗不安薬 第 6 回 睡眠薬・睡眠薬 第 7 回 抗ストレス作用を有する機能性食品 第 8 回 抗疲労作用を有する機能性食品 第 9 回 記憶・学習と機能性食品 第 10 回 免疫系の概説 第 11 回 アレルギー疾患 第 12 回 抗アレルギー薬 第 13 回 抗アレルギー作用を有する機能性食品 第 14 回 抗鼻炎作用を有する機能性食品 第 15 回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6120	授業科目名	栄養管理学特論I	2022年度第1期
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本講義では生活習慣病についての理解を深めるとともに、食の観点からその予防法を探求する。			
到達目標	生活習慣病について、食の観点から理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。			
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。			
留意事項				
教材	資料を適宜配布する。			
授業予定	第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 生活習慣病の歴史 第 3 回： 生活習慣病の現状 第 4 回： 生活習慣病 (1) 肥満 第 5 回： 生活習慣病 (2) 高血圧 第 6 回： 生活習慣病 (3) 糖尿病 第 7 回： 生活習慣病 (4) 代謝疾患 第 8 回： 生活習慣病 (5) がん 第 9 回： 生活習慣病 (6) 心疾患 第 10 回： 生活習慣病 (7) 脳血管疾患 第 11 回： 生活習慣病 (8) う蝕 第 12 回： 生活習慣病 (9) 歯周病 第 13 回： 生活習慣病 (10) その他の生活習慣病 第 14 回： 生活習慣病の予防 第 15 回： まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6125	授業科目名	栄養管理学特論II	期間
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義では生活習慣やストレスが健康におよぼす影響について理解を深めるとともに、それらの改善に向けた方策を検討する。			
到達目標	生活習慣やストレスについての理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。			
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。			
留意事項				
教材	資料を適宜配布する。			
授業予定	第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 生活習慣病の概要 第 3 回： 生活習慣病の発症要因 (1) 遺伝要因 第 4 回： 生活習慣病の発症要因 (2) 外部環境要因 第 5 回： 生活習慣病の発症要因 (3) 生活習慣要因 第 6 回： 生活習慣 (1) 飲酒 第 7 回： 生活習慣 (2) 喫煙 第 8 回： 生活習慣 (3) 運動 第 9 回： 生活習慣 (4) 食習慣 第 10 回： 生活習慣 (5) 睡眠 第 11 回： 生活習慣 (6) 生活リズム 第 12 回： 生活習慣 (7) ストレス 第 13 回： 生活習慣 (8) その他の生活習慣 第 14 回： 生活習慣の評価指標 第 15 回： まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6135	授業科目名	公衆栄養学特論II	期間
担当者	林 宏一	授業形態	講義	単位数
授業概要	人々の健康状態や食生活に影響を与える環境要因としての自然環境・社会環境の種類とそれらの重要性を理解することから始める。その後、環境と栄養問題との関連性を文献購読等で検討し、課題解決の進め方を学習していく。さらに、健康対策のモデルに基づいて、課題解決対策を学習する。			
到達目標	人々の健康状態や食生活に影響を与える環境要因が理解できる。 環境と栄養問題との関連性についての先行研究が理解できる。 健康対策の代表的なモデルについての理解をとおして、課題解決における多面的アプローチの重要性が理解できる。			
成績評価基準	レポート 70%、授業への積極的参加度 30%で評価する。			
留意事項	日ごろから論文や報道等に接し、人間生活を取り巻く社会情勢や環境の変化に関する情報を収集するとともに、健康と生活環境の関係について意識しておくこと。			
教材	テーマに応じたプリントを使用する。スライド等による説明を行う。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防栄養学における疫学的作用 2. エビデンスに基づく健康栄養施策の展開 3. 集団対象の栄養アセスメント理論 4. 栄養アセスメントの手法①(地域集団) 5. 栄養アセスメントの手法②(その他の集団) 6. 栄養環境探索のためのフィールド調査①(理論) 7. 栄養環境探索のためのフィールド調査②(手法) 8. 集団における栄養問題事例検討(非感染性疾患 NCDs と栄養) 9. 集団における栄養問題事例検討(感染性疾患と栄養) 10. 集団における栄養問題事例検討(人口と栄養) 11. 集団における栄養問題事例検討(食料安全保障) 12. 栄養環境問題の課題解決(理論とモデル) 13. 栄養環境問題と課題解決の手法①(国際レベルの事例検討) 14. 栄養環境問題と課題解決の手法②(国、地方レベルの事例検討) 15. まとめ -人間栄養と環境を考える- 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6140	授業科目名	栄養管理学演習I	2022年度第1期
担当者	戸田 雅裕	授業形態	演習	単位数 2単位
授業概要	本講義では、活性酸素の発生機序ならびに起因疾患についての理解を深めるとともに、食の観点からその予防法を探求する。			
到達目標	活性酸素についての理解を深めるとともに、関連文献の検索を中心とした情報収取力を養うことを目的とする。			
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに論文抄読の内容等から総合的に評価する。			
留意事項				
教材	資料を適宜配布する。また、自ら論文等の文献を収集する。			
授業予定	第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 活性酸素とは 第 3 回： 活性酸素の発生要因 第 4 回： 活性酸素の作用機序 第 5 回： 活性酸素と生活習慣 第 6 回： 活性酸素に起因する疾患 (1) 脳神経疾患 第 7 回： 活性酸素に起因する疾患 (2) 循環器疾患 第 8 回： 活性酸素に起因する疾患 (3) 消化器疾患 第 9 回： 活性酸素に起因する疾患 (4) 呼吸器疾患 第 10 回： 活性酸素に起因する疾患 (5) その他の疾患 第 11 回： 論文抄読 (1) 活性酸素と食生活 第 12 回： 論文抄読 (2) 活性酸素と喫煙 第 13 回： 論文抄読 (3) 活性酸素と飲酒 第 14 回： 論文抄読 (4) 活性酸素とストレス 第 15 回： まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6145	授業科目名	栄養管理学演習II	期間	2022年度第2期
担当者	戸田 雅裕	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	本講義では、生体における抗酸化作用についての理解を深めるとともに、抗酸化物質の食への有効活用について探求する。				
到達目標	各種抗酸化酵素・抗酸化物質についての理解を深めるとともに、関連文献の検索を中心とした情報収取力を養うことを目的とする。				
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに論文抄読の内容等から総合的に評価する。				
留意事項					
教材	資料を適宜配布する。また、自ら論文等の文献を収集する。				
授業予定	第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 生体の抗酸化作用 第 3 回： 抗酸化酵素 (1) SOD 第 4 回： 抗酸化酵素 (2) ペルオキシダーゼ 第 5 回： 抗酸化酵素 (3) カタラーゼ 第 6 回： 抗酸化物質 (1) カロテノイド 第 7 回： 抗酸化物質 (2) ポリフェノール 第 8 回： 抗酸化物質 (3) ビタミン 第 9 回： 抗酸化作用を持つ食品 第 10 回： 抗酸化作用とアンチエイジング 第 11 回： 論文抄読 (1) 抗酸化酵素と食生活 第 12 回： 論文抄読 (2) 抗酸化物質と食生活 第 13 回： 論文抄読 (3) 抗酸化酵素と食品 第 14 回： 論文抄読 (4) 抗酸化物質と食品 第 15 回： まとめ				

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6150	授業科目名	栄養管理学演習I	2022年度第1期
担当者	林 泰資	授業形態	演習	単位数
授業概要	ストレスに関する基礎的および臨床的な著書、論文を読み、食育を指導する立場に立って討論を行う。さらに、行動薬理学的、神経化学的、分子生物学的手法を用いて実験を行い、ストレス制御に関する食品の機能について研究する。			
到達目標	学術情報の収集方法を身につけることによって、主体的に研究テーマを設定する能力を養う。さらに、実験研究を行い、結果を分析・考察し、研究レポートを完成させる。これらを通じて、食育を指導できる人材育成を行う。			
成績評価基準	立案された研究テーマの遂行、研究結果の分析と考察、研究レポートの作成状況などから総合的に判断する。			
留意事項	特になし。			
教材	自ら著書、原著論文等の文献を収集する。			
授業予定	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 文献検索方法の説明 第 3 回 文献検索方法の現地指導 第 4 回 学術書の読解指導 第 5 回 学術論文の読解指導 第 6 回 学術論文購読 第 7 回 文献調査の発表 第 8 回 研究課題の設定 第 9 回 研究方法の設定 第 10 回 行動薬理学的研究の実験指導 第 11 回 神経化学的研究の実験指導 第 12 回 分子生物学的研究の実験指導 第 13 回 研究結果の解析と考察 第 14 回 研究レポートの作成 第 15 回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養管理学
授業コード	M6155	授業科目名	栄養管理学演習II	2022年度第2期
担当者	林 泰資	授業形態	演習	単位数 2単位
授業概要	アレルギーに関する基礎的および臨床的な著書、論文を読み、食育を指導する立場に立って討論を行う。さらに、免疫学的、神経化学的、分子生物学的手法を用いて実験を行い、アレルギー制御に関する食品の機能について研究する。			
到達目標	学術情報の収集方法を身につけることによって、主体的に研究テーマを設定する能力を養う。さらに、実験研究を行い、結果を分析・考察し、研究レポートを完成させる。これらを通じて、食育を指導できる人材育成を行う。			
成績評価基準	立案された研究テーマの遂行、研究結果の分析と考察、研究レポートの作成状況などから総合的に判断する。			
留意事項	特になし。			
教材	自ら著書、原著論文等の文献を収集する。			
授業予定	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 文献検索方法の説明 第 3 回 文献検索方法の現地指導 第 4 回 学術書の読解指導 第 5 回 学術論文の読解指導 第 6 回 学術論文購読 第 7 回 文献調査の発表 第 8 回 研究課題の設定 第 9 回 研究方法の設定 第 10 回 免疫学的研究の実験指導 第 11 回 神経化学的研究の実験指導 第 12 回 分子生物学的研究の実験指導 第 13 回 研究結果の解析と考察 第 14 回 研究レポートの作成 第 15 回 まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6210	授業科目名	栄養学特論I	2022年度第1期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	単位数
授業概要	栄養素や食品成分が、生体内の様々な生理機能とどのように関わっているのかについて、最新の知見に基づいて講述する。特に、アミノ酸栄養と他の様々な栄養素との関連に焦点を当てつつ、疾病との関連性にも触れる。			
到達目標	栄養素および食品成分の生理機能について、基礎的知見から最新の知見まで幅広い知識を統合的に理解できるようになるとともに、「食」と「栄養」の科学を理解した高度な専門的職業人としての基盤的能力を身につけることができる。			
成績評価基準	受講態度、課題発表、課題レポートを総合的に評価する。			
留意事項	毎回到授業において、課題文献に関する予習が必須である。			
教材	国内外の学術論文を教材とする。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：タンパク質・アミノ酸の消化・吸収 第 3 回：タンパク質・アミノ酸の体内動態 第 4 回：アミノ酸の機能と代謝 第 5 回：アミノ酸による遺伝子発現の調節 第 6 回：食品タンパク質の栄養評価法 第 7 回：タンパク質栄養状態の評価法 第 8 回：アミノ酸と肝機能 第 9 回：アミノ酸と肝疾患 第 10 回：アミノ酸と腎機能 第 11 回：アミノ酸と慢性腎臓病 第 12 回：アミノ酸と糖代謝・糖尿病 第 13 回：アミノ酸と骨代謝と骨粗鬆症 第 14 回：タンパク質・アミノ酸と食事摂取基準 第 15 回：アミノ酸と脳疾患			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6215	授業科目名	栄養学特論II	2022年度第2期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>栄養素や食品成分が、生体内の様々な生理機能とどのように関わっているのかについて、最新の知見に基づいて講述する。特に、栄養素の吸収や代謝、排出などの分子生物学的なメカニズムに焦点を当てつつ、疾病との関連性にも触れるとともに、疾病を予防・改善する食品(成分)についても考察したい。また、食と「こころ」の関連についても概説する。</p>			
到達目標	<p>栄養素および食品成分の生理機能について、基礎的知見から最新の知見まで幅広い知識を統合的に理解できるようになるとともに、「食」と「栄養」と「こころ」の関連を理解した高度な専門的職業人としての基盤的能力を身につけることができる。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度、課題発表、課題レポートを総合的に評価する。</p>			
留意事項	<p>毎回到授業において、課題文献に関する予習が必須である。</p>			
教材	<p>国内外の学術論文を教材とする。</p>			
授業予定	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：栄養素の吸収の分子メカニズム 第3回：栄養素の代謝の分子メカニズム 第4回：栄養素と細胞内シグナル伝達 第5回：栄養素と転写・翻訳調節 第6回：栄養素とエピジェネティクス 第7回：ニュートリシューティカル概論 第8回：糖質代謝を調節する食品成分 第9回：脂質代謝を調節する食品成分 第10回：アミノ酸代謝を調節する食品成分 第11回：「こころ」の分子基盤と栄養 第12回：「こころ」とアミノ酸 第13回：「疲労」と食との連関 第14回：慢性腎臓病を予防・改善する食品成分 第15回：総括</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6220	授業科目名	臨床栄養学特論I	2022年度第1期
担当者	今本 美幸	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では、臨床管理栄養士の様々な課題を解決するための研究デザインの考え方、作成方法について解説する。また、臨床現場における管理栄養士業務から、高度な専門職としての治療食の計画と実際を学ぶ。			
到達目標	1. 臨床管理栄養士の様々な疑問を、研究デザインにするまでのプロセスが分かる。 2. 高度な治療食の献立作成が出来る。			
成績評価基準	レポート(70%)、発表(30%)			
留意事項	特になし			
教材	臨床研究の道標(上巻・下巻)(特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構出版) 調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版部) その他、授業中に適宜配布する。			
授業予定	1. ガイダンス 2. 臨床管理栄養士の研究の意義 3. 臨床管理栄養士の研究の実際 4. 臨床管理栄養士の研究デザインの作成 5. 臨床管理栄養士の研究のまとめ 6. 一般治療食と特別治療食について 7. 一般治療食(常食と軟食)の計画と実際 8. 一般治療食(嚥下困難食)の計画と実際 9. 特別治療食(循環器系)の計画と実際 10. 特別治療食(消化器系)の計画と実際 11. 特別治療食(内分泌系)の計画と実際 12. 特別治療食(腎臓系)の計画と実際 13. 病院治療食献立展開の意義 14. 病院治療食献立展開の評価 15. まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6225	授業科目名	臨床栄養学特論II	2022年度第1期
担当者	白神 俊幸	授業形態	講義	2単位
授業概要	本講義では、各種栄養素の吸収・輸送障害を伴う腸疾患等による栄養障害について分子病態栄養学の観点から解説する。			
到達目標	各種栄養素の消化・吸収機構とそれらが破綻するメカニズムおよび疾病における栄養状態との関わりについて理解する。			
成績評価基準	受講態度、議論、質疑応答(50%)。 レポートの内容(50%)。			
留意事項	問題点や不明な点について自ら考える姿勢をもって、意欲的かつ積極的に臨んで欲しい。			
教材	適宜プリントを配布、あるいは参考資料を紹介する。			
授業予定	第1回：ガイダンス、栄養素の消化機構と調節の概念 第2回：輸送系、輸送担体、膜輸送の分子機構 第3回：たんぱく質の消化と吸収 第4回：アミノ酸・ペプチドの吸収障害 第5回：糖質の消化と吸収 第6回：糖質の吸収障害 第7回：脂肪の消化と吸収 第8回：脂肪の吸収障害 第9回：ビタミンの吸収とその障害 第10回：ミネラルの吸収とその障害 第11回：輸送担体と疾病との関わり 第12回：栄養障害と輸送担体 第13回：疾病予防への応用・発展性 第14回：疾病治療への応用・発展性 第15回：まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6230	授業科目名	臨床医学特論I	2022年度第1期
担当者	山下 美保	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	<p>本授業は、臨床症例から所見を抽出し問題を見いだすことで、臨床現場における問診、診察、検査、診断、治療までの流れを理解し、鑑別診断を考える力を修得することを目的とする。授業では教員が症例を提示し、学生は経過や検査結果に対して意見を述べる機会をもつ。そして本授業は、症例から総合して考えられる鑑別診断についてグループディスカッションを行うことで導き出していく問題解決型学習(PBL: Problem based learning)である。ディスカッションを通して各自で理解が不十分な疾患や病態の機序等について課題(LI: Learning issue)を設定して教室外で追加情報を集め、新しく得た知識をグループ内でプレゼンテーションしてもらう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例を通じて、事実を抽出し問題を見いだすことができる。 2. 検査結果を説明することができる。 3. 問診・診察・検査の結果から、鑑別診断を挙げられるようになる。 4. LIについて自主学習を行い、それをレジュメにまとめ、他の学生に対して分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 			
成績評価基準	ディスカッションへの参加態度 50% LI (Learning issue), プレゼンテーションの内容 50%			
留意事項	オフィスアワー: 火曜日4限(通年)			
教材	テキストは使用しない。 症例提示の回では、書き込み用のワークシートを配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 PBLについての説明、診察方法・身体所見のとり方について① 第2回 症例#1(消化器疾患) 第3回 症例#1についてのLIの発表、質疑応答 第4回 症例#2(内分泌疾患) 第5回 症例#2についてのLIの発表、質疑応答 第6回 症例#3(膠原病・アレルギー疾患) 第7回 症例#3についてのLIの発表、質疑応答 第8回 症例#4(感染性疾患) 第9回 症例#4についてのLIの発表、質疑応答 第10回 症例#5(悪性疾患) 第11回 症例#5についてのLIの発表、質疑応答 第12回 症例#6(脳神経系疾患) 第13回 症例#6についてのLIの発表、質疑応答 第14回 症例#7(心身症・精神疾患) 第15回 症例#7についてのLIの発表、質疑応答 <p>※症例内容は適宜変更する。 ※症例内容には変更を加えているが、守秘に留意すること。</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6235	授業科目名	臨床医学特論II	2022年度第2期
担当者	山下 美保	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	<p>本授業は、臨床症例から事実を抽出し問題を見いだすことで、臨床現場における問診、診察、検査、診断、治療までの流れを理解し、鑑別診断を考える力を修得することを目的とする。授業では教員が症例を提示し、学生は経過や検査結果に対して意見を述べる機会をもつ。そして本授業は、症例から総合して考えられる鑑別診断について、グループでディスカッションを行い導き出していく問題解決型学習(PBL: Problem based learning)である。ディスカッションを通して各自で理解が不十分な疾患や病態の機序等について課題(LI: Learning issue)を設定して教室外で追加情報を集め、新しく得た知識をグループ内でプレゼンテーションしてもらう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例を通じて、事実を抽出し問題を見いだすことができる。 2. 検査結果を説明することができる。 3. 問診・診察・検査の結果から、鑑別診断を挙げられるようになる。 4. LIについて自主学習を行い、それをレジュメにまとめ、他の学生に対して分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 			
成績評価基準	<p>ディスカッションへの参加態度 50% LI (Learning issue), プレゼンテーションの内容 50%</p>			
留意事項	<p>オフィスアワー: 火曜日4限(通年)</p>			
教材	<p>テキストは使用しない。 症例提示の回では、書き込み用のワークシートを配布する。</p>			
授業予定	<p>第1回 PBLについての説明、診察方法・身体所見のとり方について② 第2回 症例# 8(腎疾患) 第3回 症例# 8についてのLIの発表、質疑応答 第4回 症例# 9(循環器疾患) 第5回 症例# 9についてのLIの発表、質疑応答 第6回 症例# 10(呼吸器疾患) 第7回 症例# 10についてのLIの発表、質疑応答 第8回 症例# 11(運動器疾患) 第9回 症例# 11についてのLIの発表、質疑応答 第10回 症例# 12(肝臓疾患) 第11回 症例# 12についてのLIの発表、質疑応答 第12回 症例# 13(胆膵系疾患) 第13回 症例# 13についてのLIの発表、質疑応答 第14回 症例# 14(先天性疾患) 第15回 症例# 14についてのLIの発表、質疑応答 ※症例内容は適宜変更する。 ※症例内容には変更を加えているが、守秘に留意すること。</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6240	授業科目名	栄養教育学特論I	期間
担当者	若本 ゆかり	授業形態	講義	単位数
授業概要	生涯を通じた心身の健康管理には、望ましい食生活習慣確立の基盤となる自己管理能力の養成が不可欠であり、食を通じた学習指導はその要といえる。 本授業では、この教育活動の円滑な推進のために必要な知識と技術の習得を目指す。			
到達目標	到達目標 1 食を通じた学習指導の基本的な知識と理論を修得する。 到達目標 2 対象者に応じた展開・活用方法を検討することができる。			
成績評価基準	研究レポート(50%)、授業での応答(50%)			
留意事項	本授業を履修する学生は、栄養教育に取り入れるべき要素として、栄養・健康・食生活に関する法令や通知内容の情報収集につとめること。			
教材	配布あるいは紹介する資料に加え、自ら論文を収集する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 栄養アセスメントについて 2. 栄養教育の概念 (1) (定義と目的) 3. 栄養教育の概念 (2) (歴史の変遷) 4. 栄養教育の概念 (3) (現状と課題) 5. 食行動変容と栄養教育 6. 行動科学理論およびモデルと栄養教育 (1) (オペラント学習理論) 7. 行動科学理論およびモデルと栄養教育 (2) (ヘルスビリーフモデル) 8. 行動科学理論およびモデルと栄養教育 (3) (トランスセオレティカルモデル) 9. 行動科学理論およびモデルと栄養教育 (4) (計画的行動理論) 10. 行動科学理論およびモデルと栄養教育 (5) (社会的認知理論) 11. 栄養カウンセリングの基本理論 12. 栄養カウンセリングの実際 13. 個人要因と栄養教育 14. 環境要因と栄養教育 15. 栄養教育における組織づくり・ネットワークづくり 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6245	授業科目名	栄養教育学特論II	期間
担当者	若本 ゆかり	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、行動変容を促す教育計画の推進にあたり、教育内容とその効果について、評価指標の設定、課題抽出と考察、これらを踏まえた改善案の提案ができ、次の指導計画に活用できることを目指す。			
到達目標	到達目標 1 各対象者のライフステージやライフスタイルの現状を科学的に判断できる。 到達目標 2 行動変容のための教育プログラムを立案し、その効果について評価・考察・フィードバックを行うことができる。			
成績評価基準	研究レポート(50%)、授業での応答(50%)			
留意事項	本授業を履修する学生は、考案した教育プログラムを普及・啓発するための効果的な方法についても留意して取り組むこと。			
教材	配布あるいは紹介する資料に加え、自ら論文を収集する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 栄養教育マネジメントについて 2. 栄養教育計画(1)(栄養教育プログラムの基本) 3. 栄養教育計画(2)(目標設定) 4. 栄養教育計画(3)(教育方法と学習形態) 5. 栄養教育計画(4)(栄養教育教材) 6. 栄養教育計画の実施 7. 栄養教育計画の評価(1)(評価の種類) 8. 栄養教育計画の評価(2)(信頼性と妥当性) 9. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(1)(妊娠期・授乳期) 10. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(2)(乳幼児期) 11. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(3)(学童期) 12. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(4)(思春期) 13. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(5)(成人期) 14. ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(6)(高齢期) 15. 食に関する指導の展開について 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6250	授業科目名	栄養学演習I	2022年度第1期
担当者	小林 謙一	授業形態	演習	単位数
授業概要	アミノ酸の代謝異常と生活習慣病との関連についての研究課題を設定し、それに基づいた学術文献の抄読、実験計画の立案、実験の実施そして結果の解析および考察を行う。さらに生活習慣病の予防・改善する食品成分について考究する。			
到達目標	学術文献を正確に読み解く能力を身につけたうえで、実験の設計、実験の実施、結果の判断と考察、そして論文作成までの、主体的に行う基礎的能力を習得できる。			
成績評価基準	研究態度、課題発表、学会発表、および論文作成・投稿などを総合的に評価する。			
留意事項	学会発表および論文投稿を目指す。			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：研究課題の設定のための学術論文の探索（1）国内論文 第 3 回：研究課題の設定のための学術論文の探索（2）海外論文 第 4 回：学術論文の抄読と討論（1）アミノ酸の代謝異常症について 第 5 回：学術論文の抄読と討論（2）生活習慣病について 第 6 回：学術論文の抄読と討論（3）ニュートリシューティカルについて 第 7 回：研究課題設定のための討論 第 8 回：研究課題の設定 第 9 回：研究計画の立案 第 10 回：試薬の調製 第 11 回：動物飼育法について 第 12 回：機器・装置類の操作法 第 13 回：生化学的データの取得 第 14 回：生化学的データの解析 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6255	授業科目名	栄養学演習II	2022年度第2期
担当者	小林 謙一	授業形態	演習	単位数
授業概要	栄養学演習 I で設定した研究課題に基づいた、分子栄養学分野の学術文献の抄読、実験の実施そして結果の解析および考察を行う。			
到達目標	学術文献を正確に読み解く能力を身につけたうえで、実験の設計、実験の実施、結果の判断と考察、そして論文作成までの、主体的に行う基礎的能力及び応用的能力を習得できる。			
成績評価基準	研究態度、課題発表、学会発表、および論文作成・投稿などを総合的に評価する。			
留意事項	学会発表および論文投稿を目指す。			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：学術論文の抄読と討論（1）栄養素と遺伝子発現調節について 第 3 回：学術論文の抄読と討論（2）栄養素と細胞内シグナル伝達について 第 4 回：学術論文の抄読と討論（3）栄養素とシステムティックレビューについて 第 5 回：細胞培養法 第 6 回：試薬の調製 第 7 回：細胞培養法の習得 第 8 回：分子栄養学的実験手法の習得 第 9 回：分子栄養学的実験データの収集 第 10 回：分子栄養学的実験データの解析 第 11 回：組織化学的実験手法の習得 第 12 回：組織化学的実験データの収集・解析 第 13 回：プレゼンテーション法の習得と実施 第 14 回：論文作成 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6260	授業科目名	栄養学演習I	2022年度第1期
担当者	若本 ゆかり	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、生活習慣および食習慣と健康障害との関連について、学術論文の抄読により、栄養疫学的知見から評価・考察できるようにする。			
到達目標	到達目標1 食品および栄養に関する研究データについて、収集方法、解析・評価することができる。 到達目標2 研究課題を設定し、課題を解決するための研究デザインを選択・決定できる。			
成績評価基準	研究レポート(50%)、授業での応答(50%)			
留意事項	本授業を履修する学生は、統計結果だけでなく、データ全体を客観的に評価する視点を持つようつとめること。			
教材	配布あるいは紹介する資料に加え、自ら論文を収集する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習概要説明(オリエンテーション) 2. 学術論文検索および収集(1)(国内研究) 3. 学術論文検索および収集(2)(国外研究) 4. 学術論文抄読(1)(研究デザインについて) 5. 学術論文抄読(2)(評価指標について) 6. 学術論文抄読(3)(統計手法について) 7. 評価デザイン 8. 評価指標 9. データ収集法(1)(データの種類) 10. データ収集法(2)(調査方法) 11. データ解析法(1)(バイアス制御) 12. データ解析法(2)(統計手法) 13. 研究課題設定 14. 研究指導 研究デザイン 15. 研究指導 評価指標設定 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	栄養学
授業コード	M6265	授業科目名	栄養学演習II	2022年度第2期
担当者	若本 ゆかり	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、栄養の専門家として質の高い研究デザインを行うための基礎的能力を養う。 また研究成果を社会に発信するための効果的なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の修得も目指す。			
到達目標	到達目標1 食品および栄養の専門家として、人々の健康の保持増進に貢献する研究活動を計画・実行できる。 到達目標2 研究成果を社会に発信するための効果的なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得している。			
成績評価基準	研究レポート(50%)、授業での応答(50%)			
留意事項	本授業を履修する学生は、得られた研究成果を普及・啓発するための効果的な方法についても留意して取り組むこと。			
教材	配布あるいは紹介する資料に加え、自ら論文を収集する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究指導 データ収集 (1) (質的データ) 2. 研究指導 データ収集 (2) (量的データ) 3. 研究指導 データ収集 (3) (実測法) 4. 研究指導 データ収集 (4) (面接法) 5. 研究指導 データ収集 (5) (質問紙法) 6. 研究指導 データ解析 (1) (差の検定) 7. 研究指導 データ解析 (2) (相関と回帰) 8. 研究指導 データ解析 (3) (重回帰分析) 9. 研究指導 データ解析 (4) (主成分分析) 10. 研究指導 データ解析 (5) (クラスター分析) 11. 研究指導 プレゼンテーション (1) (プレゼンテーションスキル) 12. 研究指導 プレゼンテーション (2) (プレゼンテーションツール) 13. 研究論文の作成 (1) (研究デザインの確認および考察) 14. 研究論文の作成 (2) (介入プログラムの確認および考察) 15. 研究論文の作成 (3) (評価指標の確認および考察) 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6310	授業科目名	食品学特論I	2022年度第1期
担当者	吉金 優	授業形態	講義	単位数
授業概要	健康の維持・増進を目的とした付加価値の高い食品が数多く販売されている。本講義では、食品成分の復習をした上で、機能性食品の種類、関与成分、作用機構等について具体例を挙げながら紹介する。			
到達目標	機能性食品の種類、関与成分、作用機構等について理解するとともに、「食」のスペシャリストとして機能性食品を科学的根拠に基づいて論ずることができる。			
成績評価基準	授業態度、発表内容（50%）およびレポート内容（50%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 食品の一次機能（1）たんぱく質 3. 食品の一次機能（2）脂質 4. 食品の一次機能（3）炭水化物 5. 食品の二次機能 6. 食品の三次機能（生体調節機能） 7. 食品の製造・加工（1）原理 8. 食品の製造・加工（2）単位操作 9. 食品の製造・加工（3）食品の安全性確保 10. 保健機能食品の分類 11. 関与成分（1）素材 12. 関与成分（2）微生物 13. 機能性食品の事例（1）事例 14. 機能性食品の事例（2）研究事例 15. 総括 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6315	授業科目名	食品学特論II	2022年度第2期
担当者	吉金 優	授業形態	講義	単位数
授業概要	健康の維持・増進を目的とした付加価値の高い食品が数多く販売されている。本講義では、これら機能性食品の社会的ニーズや研究開発事例等について、具体例を挙げながら紹介する。			
到達目標	機能性食品の社会的ニーズや研究開発事例等について理解するとともに、「食」のスペシャリストとして機能性食品を科学的根拠に基づいて論ずることができる。			
成績評価基準	授業態度、発表内容（80%）およびレポート内容（20%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 機能性食品の社会的ニーズ 3. 食品の機能性マーケティング 4. 機能性食品の事例（1）消化器系 5. 機能性食品の事例（2）循環器系 6. 機能性食品の事例（3）免疫系など 7. 機能性食品の事例（4）調査 8. 機能性食品の事例（5）プレゼンテーション 9. 機能性食品の企画・提案（1）企画 10. 機能性食品の企画・提案（2）討論 11. 機能性食品の企画・提案（3）調査 12. 機能性食品の企画・提案（4）資料作成 13. 機能性食品の企画・提案（5）プレゼンテーション 14. 機能性食品の未来 15. 総括 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6320	授業科目名	調理学特論I	2022年度第1期
担当者	小川 真紀子	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	調理の意義と役割、調理科学の重要性を説明し、素材別に食品を取り上げ、それぞれの調理性と調理文化について講義する。学部で習得した調理学の基礎知識を深めるとともに、調理の背景にある文化についても説明する。栄養教諭に必要な調理学の知識を文化的、地域的背景も含めて講義する。			
到達目標	調理の意義、調理科学の重要性を理解する。また各食品の調理特性と調理では、調理の背景にある文化についても説明できる。			
成績評価基準	受講への積極性および課題レポートなどにより総合的に評価する。			
留意事項	調理について、各食品の文化的背景との関わりを考えながら広い視野で捉えること。			
教材	必要に応じて講義で適宜資料を配布、参考文献などを紹介する。DVD等も活用する。			
授業予定	第1回 はじめに-調理学、調理の意義と目的 第2回 調理操作の基礎 第3回 加熱調理と非加熱調理 第4回 調理特性と文化-米 第5回 調理特性と文化-小麦粉 第6回 調理特性と文化-いも類 豆類 第7回 調理特性と文化-食肉類 第8回 調理特性と文化-魚介類 第9回 調理特性と文化-卵類 第10回 調理特性と文化-牛乳・乳製品 第11回 調理特性と文化-でんぷん 第12回 調理特性と文化-砂糖類 第13回 調理特性と文化-ゲル形成素材 第14回 調理と食育 第15回 まとめ 課題レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6325	授業科目名	調理学特論II	2022年度第2期
担当者	小川 真紀子	授業形態	講義	単位数
授業概要	人間と食物は、互いに多種多様な側面を持っている。個々の食品は調理を介し、料理、食事に展開される。社会環境が大きく変化する中で、食生活文化の知恵を重視し、心身ともに健康な食を営む力の土台を担う調理の意義・役割、食事構成力の必要性を考えながら、日々の実践のための食事づくりを考究したい。			
到達目標	到達目標 1 食事づくりを体系的にとらえ、「料理選択型食・栄養教育」について習得できる。 到達目標 2 「主食・主菜・副菜を組み合わせる」食事法の効果的な活用について考察できる。 到達目標 3 食事法の実践的柔軟な活用により、適量でバランスのよい食事に応用できる。			
成績評価基準	到達目標 1～3について、検討課題に関する論点の明瞭性 30%、授業への取り組み姿勢 30%、課題レポート 40%により評価する。			
留意事項	栄養学の学問領域の中での調理の意義を、広い視野で階層構造的に捉えること。			
教材	講義で適宜資料の配布、参考文献を紹介する。			
授業予定	第 1 回 はじめに 栄養学の対象領域の中での調理 第 2 回 人間・食物・地域のかかわり-地域の「食の営み」 第 3 回 食事づくり行動 第 4 回 食環境の中の食卓 第 5 回 食を共有すること-供食、食の伝承 第 6 回 食事構成力と実践ツール1) 実物大料理カード 第 7 回 食事構成力と実践ツール2) 食事バランスガイド 第 8 回 食事構成力と実践ツール3) 3・1・2弁当箱法 第 9 回 食事づくりの食育実践活動 1) 食育カレンダー 第 10 回 食事づくりの食育実践活動 2) のこさず食べよう事業 第 11 回 食事づくりの食育実践活動 3) 3・1・2弁当箱法セミナー 第 12 回 食事づくり力の今後 第 13 回 食の外部化の行方 第 14 回 これからの家庭の調理 第 15 回 まとめ 課題レポートの提出			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6330	授業科目名	食文化特論I	2022年度第1期
担当者	五島 淑子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	日本における食文化変遷をたどりながら、食文化に影響を与えた要因、ならびに現代の食の課題についても解説する。DVD等活用する。関連する研究課題を各自に課し、発表討論を行う。			
到達目標	食文化を構成する要因を理解し、日本における食文化の変遷について理解を深める。講義を通して、院生各自が食文化に対する考えを形成し、醸成する。			
成績評価基準	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力、課題レポートなどにより総合的に評価する。			
留意事項	食文化に対して、食品学、栄養学などの視点からの検討を行う。内容は授業の進み具合により、前後します。			
教材	江原絢子編著『日本食の文化 原始から現代に至る食のあゆみ』アイ・ケイ コーポレーション 適宜紹介する			
授業予定	授業計画 第1回：はじめに 食文化とは 第2回：世界の食文化 第3回：原始(縄文・弥生時代) 1 第4回：原始(縄文・弥生時代) 2 第5回：古代(飛鳥・奈良・平安時代) 1 第6回：古代(飛鳥・奈良・平安時代) 2 第7回：中世(鎌倉・室町・安土桃山時代) 1 第8回：中世(鎌倉・室町・安土桃山時代) 2 第9回：中世(鎌倉・室町・安土桃山時代) 3 第10回：近世(江戸時代) 1 第11回：近世(江戸時代) 2 第12回：近世(江戸時代) 3 第13回：近世(江戸時代) 4 第14回：研究事例紹介 第15回：まとめ 課題レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6335	授業科目名	食文化特論II	2022年度第2期
担当者	五島 淑子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	日本の食文化形成の時代背景と食文化に影響を与えた因子について解説し議論する。DVD等も活用する。また、それらに関連する研究課題を各自に課し、発表討論を行う。			
到達目標	日本の食文化の変遷について、理解を深める。講義を通して、院生各自が食文化に対する考えを形成し醸成する。			
成績評価基準	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力、課題レポートなどにより総合的に評価する。			
留意事項	食文化に対して、食品学、栄養学などの視点からの検討を行う。内容は授業の進み具合により、前後します。			
教材	江原絢子編著『日本食の文化 原始から現代に至る食の歩み』アイ・ケイ コーポレーション 講義において適宜紹介する。			
授業予定	授業計画 第1回：はじめに 食文化の研究手法 第2回：近代(明治・大正・昭和初期時代) 1 第3回：近代(明治・大正・昭和初期時代) 2 第4回：近代(明治・大正・昭和初期時代) 3 第5回：近代(明治・大正・昭和初期時代) 4 第6回：近代(明治・大正・昭和初期時代) 5 第7回：現代(昭和後期・平成・令和時代) 1 第8回：現代(昭和後期・平成・令和時代) 2 第9回：現代(昭和後期・平成・令和時代) 3 第10回：現代(昭和後期・平成・令和時代) 4 第11回：現代(昭和後期・平成・令和時代) 5 第12回：日本の郷土食 第13回：研究事例紹介1 第14回：研究事例紹介2 第15回：まとめ 課題レポート			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6340	授業科目名	衛生微生物学特論I	2022年度第1期
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	環境中に存在する微生物のうち、感染症に関わるものはごくわずかである。地球に存在する微生物の進化と多様性を学ぶ。			
到達目標	微生物の進化について理解し、その多様性を自ら解析する能力を身に付ける。			
成績評価基準	授業態度、研究レポートなどを総合的に評価する。			
留意事項				
教材	プリントを配布する。			
授業予定	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：微生物研究の歴史（1）微生物の発見 第 3 回：微生物研究の歴史（2）病原性と衛生 第 4 回：微生物の進化と多様性（1）生命の起源 第 5 回：微生物の進化と多様性（2）原核生物と真核生物の多様性 第 6 回：微生物の進化と多様性（3）微生物学における分子情報の取得 第 7 回：微生物の進化と多様性（4）微生物学における分子情報の活用と応用 第 8 回：細菌の種と分類（1）グラム陰性細菌とグラム陽性細菌 第 9 回：細菌の種と分類（2）細菌の分子生物学的手法 第 10 回：細菌の種と分類（3）細菌遺伝子に基づく分類と同定 第 11 回：真菌の種と分類（1）子囊菌類と担子菌類 第 12 回：真菌の種と分類（2）真菌における分子生物学的手法 第 13 回：真菌の種と分類（3）真菌における遺伝情報の活用 第 14 回：原生動物の種と分類（1）病原性原虫類 第 15 回：原生動物の種と分類（2）その他の原虫			

人間生活学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6345	授業科目名	衛生微生物学特論II	期間	2022年度第2期
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	地球に存在する微生物の進化と多様性を学び、そのなかでの人との関わり、特に食水媒介感染症に関わる微生物の位置付けと特異性について理解する。				
到達目標	微生物の進化について理解し、その多様性を自ら解析する能力を身に付ける。				
成績評価基準	授業態度、研究レポートなどを総合的に評価する。				
留意事項					
教材	プリントを配布する。				
授業予定	第 1 回：ウイルスの種と分類（1）感染性ウイルス 第 2 回：ウイルスの種と分類（2）その他ウイルス 第 3 回：微生物の栄養（1）独立栄養 第 4 回：微生物の栄養（2）従属栄養 第 5 回：微生物の生態（1）微生物の役割 第 6 回：微生物の生態（2）微生物生態学的手法と応用 第 7 回：共生（1）細胞の成り立ち 第 8 回：共生（2）共生の仕組み 第 9 回：細菌の病原性（1）食水媒介感染症 第 10 回：細菌の病原性（2）その他の感染症 第 11 回：真菌・原生動物の病原性（1）真菌 第 12 回：真菌・原生動物の病原性（2）原生動物 第 13 回：ウイルスの病原性（1）RNA ウイルス 第 14 回：ウイルスの病原性（2）DNA ウイルス 第 15 回：微生物の病原性まとめ				

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6350	授業科目名	食品学演習I	2022年度第1期
担当者	長濱 統彦	授業形態	演習	単位数 2単位
授業概要	食品関連微生物の多様性を理解し、その遺伝的多様性を解析する手法を学ぶ。			
到達目標	食品に関わる微生物の多様性解析手法を理解し実践できるようになる。			
成績評価基準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	関連する学術論文を配布する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：学術論文とは 第 3 回：学術論文の構成 第 4 回：学術論文の英語 第 5 回：学術論文の評価 第 6 回：論文検索と収集・管理 第 7 回：論文講読と発表 (1) 日本語論文 第 8 回：論文講読と発表 (2) 日本語論文その他 第 9 回：論文講読と発表 (3) 原著論文 第 10 回：論文講読と発表 (4) 原著論文その他 第 11 回：論文講読と発表 (5) 総説 第 12 回：論文講読と発表 (6) 総説その他 第 13 回：研究課題の検討 (1) 研究分野の背景 第 14 回：研究課題の検討 (2) 研究課題の新規性 第 15 回：研究課題の検討 (3) 研究課題のまとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6355	授業科目名	食品学演習II	2022年度第2期
担当者	長濱 統彦	授業形態	演習	単位数
授業概要	食品関連微生物の多様性を理解し、その遺伝的多様性を解析する手法を学ぶ。学術論文を理解し、自ら執筆するための能力を培う。			
到達目標	食品に関わる微生物の多様性解析手法を理解し実践できるようになる。			
成績評価基準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	関連する学術論文を配布する。			
授業予定	第 1 回：食品微生物の多様性解析手法と実験（1）サンプリングプラン 第 2 回：食品微生物の多様性解析手法と実験（2）サンプリング手法 第 3 回：食品微生物の多様性解析手法と実験（3）サンプル処理の手法 第 4 回：食品微生物の多様性解析手法と実験（4）サンプルの保存 第 5 回：食品微生物の多様性解析手法と実験（5）サンプルからの核酸抽出 第 6 回：食品微生物の多様性解析と考察（1）核酸抽出法 第 7 回：食品微生物の多様性解析と考察（2）塩基配列決定法 第 8 回：食品微生物の多様性解析と考察（3）遺伝子の解析法 第 9 回：食品微生物の多様性解析と考察（4）相同性解析 第 10 回：食品微生物の多様性解析と考察（5）系統解析 第 11 回：食品微生物の多様性解析と考察（6）解析のまとめ 第 12 回：研究論文作成（1）方法 第 13 回：研究論文作成（2）結果 第 14 回：研究論文作成（3）考察 第 15 回：研究論文作成（4）要約			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6360	授業科目名	食品学演習I	2022年度第1期
担当者	吉金 優	授業形態	演習	単位数
授業概要	食品の有する特性および機能性に関する研究課題を設定し、文献検索・抄読を行い、研究背景および研究手法を理解する。そして、研究計画を立案し、実験を行い、データを解析する。			
到達目標	学術論文や学術情報の収集および読解能力を養い、研究を計画・実施することを通じて課題を設定できる。			
成績評価基準	研究態度、実験（50%）および研究レポート（50%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 学術論文の検索法（1）国内論文 3. 学術論文の検索法（2）海外論文 4. 学術論文の読解（1）国内論文 5. 学術論文の読解（2）海外論文 6. 文献発表と討論（1）国内論文 7. 文献発表と討論（2）海外論文 8. 研究課題設定にむけた討論 9. 研究課題設定 10. 研究計画の設定 11. 研究方法の設定 12. 統計解析 13. 基礎科学的実験法の習得（1）サンプリング、試料調製 14. 基礎科学的実験法の習得（2）機器を用いた定量分析 15. 総括 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	食品栄養学専攻	研究分野	食品学
授業コード	M6365	授業科目名	食品学演習II	2022年度第2期
担当者	吉金 優	授業形態	演習	単位数
授業概要	食品の有する特性および機能性に関する課題に対し、文献抄読、実験、データ解析および考察を行い、研究論文の作成および発表を行う。			
到達目標	学術論文や学術情報の読解能力を養い、研究を計画・実施、考察することを通じて課題設定および課題解決できる。			
成績評価基準	研究態度、実験（20%）および研究レポート（80%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 基礎科学的実験法の習得（1）食品機能分析 3. 基礎科学的実験法の習得（2）細胞培養 4. 基礎科学的実験法の習得（3）微生物培養 5. 食品科学実験法の習得 6. 食品科学的分析データの収集（1）成分分析 7. 食品科学的分析データの収集（2）細胞に及ぼす影響 8. 食品科学的分析データの収集（3）微生物に及ぼす影響 9. 統計解析 10. 研究論文の作成（1）方法 11. 研究論文の作成（2）結果 12. 学術論文の読解 13. 研究論文の作成（3）考察 14. プレゼンテーション技法 15. 総括 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7110	授業科目名	人間学特論I	2022年度第1期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	2単位
授業概要	現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その人間論的、社会哲学的基盤を探求する。			
到達目標	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解した上で、人間社会における実践上の困難に向き合う臨床哲学的視座を獲得すること。			
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容及び授業態度などを総合して評価する。			
留意事項	とくになし。			
教材	参加者と相談の上決定する。			
授業予定	授業計画 第1回：ケアの思想の問題領域について 第2回：ケアの概念について 第3回：現象としてのケア 第4回：知覚と欲求 第5回：意志と行為 第6回：経験の構造 第7回：参加者の発表と討論（ケアの本質） 第8回：受苦の人間学 第9回：ケアと宗教性 第10回：実存哲学におけるケア（ハイデガー） 第11回：ケアと自己実現（メイヤロフ） 第12回：ライフサイクルとケア（エリクソン） 第13回：ケアからドゥーリアへ（キテイ） 第14回：参加者の発表と討論（ケアの可能性） 第15回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7115	授業科目名	人間学特論II	2022年度第2期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その人間論的、社会哲学的基盤の上で、ケアが向かう社会的課題としての「喪失と悲嘆」について考察し、それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。			
到達目標	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解した上で、人間社会における実践上の困難に向き合う臨床哲学的視座を獲得すること。			
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容及び授業態度などを総合して評価する。			
留意事項	とくになし。			
教材	参加者と相談の上決定する。			
授業予定	授業計画 第1回：喪失と悲嘆の人間学 第2回：死の概念と文化 第3回：死生学の展開 第4回：悲嘆のプロセスとその多様性 第5回：グリーフケアの方法論 第6回：終末期ケアとスピリチュアルケア 第7回：参加者の発表と討論（死に向き合う） 第8回：トラウマの人間学 第9回：脳科学とトラウマ 第10回：〈魂〉の哲学 第11回：沈黙の意味論 第12回：身体性と語り 第13回：ケアとナラティブ・コミュニティ 第14回：参加者の発表と討論（スピリチュアルケアの可能性） 第15回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7120	授業科目名	女性学特論I	2022年度第1期
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	2単位
授業概要	欧米における女性学の研究成果を踏まえながら、現代社会における女性のキャリア形成や家族の変容等についてライフステージに沿って考察していきたい。			
到達目標	女性学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、その相関性について説明し論じることができる。			
成績評価基準	1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%			
留意事項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。			
教材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。			
授業予定	1～9. 欧米における女性学の研究成果について 10～14. 女性のキャリア形成について 15. 総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7125	授業科目名	女性学特論II	2022年度第2期
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	2単位
授業概要	欧米における女性学の研究成果を踏まえながら、現代社会における女性のキャリア形成や家族の変容等についてライフステージに沿って考察していきたい。			
到達目標	女性学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、その相関性について説明し論じることができる。			
成績評価基準	1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%			
留意事項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。			
教材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。			
授業予定	1～5. 女性のキャリア形成について 6～14. 家族の変容等のライフステージについて 15. 総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7130	授業科目名	社会倫理学特論I	期間
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、いわゆる「生命倫理」を起点としつつ、その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を、カトリックの社会教説のうちに探っていく。			
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。			
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	受講者と相談の上決定する。			
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアをめぐる倫理的問い 第 2 回：生命倫理の問題圏 第 3 回：統治される生と死 第 4 回：出生前診断と人工妊娠中絶 第 5 回：人工生殖技術の諸問題 第 6 回：クローン技術の諸問題 第 7 回：参加者の発表と討論 第 8 回：反出生主義とは何か 第 9 回：生の否定の思想史 第 10 回：生殖技術と反出生主義 第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理 第 12 回：終末期ケアの諸問題 第 13 回：生と死の尊厳をめぐる 第 14 回：参加者の発表と討論 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7135	授業科目名	社会倫理学特論II	期間
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、カトリックの社会教説のうちに、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。			
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。			
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	『回勅 ラウダート・シ』教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2016他、受講者と相談の上決定する。			
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアの射程 第 2 回：カトリック社会教説における「いのち」 第 3 回：回勅「フマーネ・ヴィテ」（教皇パウロ 6 世） 第 4 回：回勅「いのちの福音」（教皇ヨハネ・パウロ 2 世） 第 5 回：回勅「ラウダート・シ」（教皇フランシスコ） 第 6 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章） 第 7 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章） 第 8 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章） 第 9 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部） 第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章） 第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章） 第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章） 第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部） 第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7140	授業科目名	社会福祉学特論I	2022年度第1期
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では、日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、戦前の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会事業実践、社会事業思想、教会の果たした役割などを考察していく。			
到達目標	到達目標 1 近代における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を説明できる。 到達目標 2 近代社会の発展のなかでの社会事業の意義を理解し現代的意義を説明できる。 到達目標 3 社会事業の歴史を踏まえて、現代の社会福祉を分析できる。			
成績評価基準	到達目標 1・2 について期末レポートで評価する (50%)。 授業態度 3 について、討論での発言や授業への取り組みで評価する (50%)。			
留意事項	事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおき、講義は討論を中心に行う。			
教材	日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 キリスト教社会事業史研究の意義 2 キリスト教と社会福祉の歴史的構造 3 キリシタンと慈善事業 4 近代初期のカトリック慈善 修道会による諸活動について 5 プロテスタント慈善事業の展開 近代思想と慈善 6 初期キリスト教慈善事業の思想 7 キリスト教施設の展開 8 日清戦争後のキリスト教慈善事業 9 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教 内務省の宗教統制の影響 10 植民地におけるキリスト教社会事業 台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業 11 大正デモクラシーとキリスト教社会事業 12 世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向 救護法の影響・社会事業の経営問題 13 キリスト教の社会事業教育 ソーシャルワークの導入と専門教育 14 戦時下のキリスト教社会事業 戦時下の苦難と、その一方で戦争協力の問題 15 戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論 戦時厚生事業論とキリスト教 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7145	授業科目名	社会福祉学特論II	2022年度第2期
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では、日本キリスト教社会福祉の第二次大戦後の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係などを考察していく。			
到達目標	到達目標 1 福祉国家政策の中でのキリスト教社会福祉の意義を説明することができる。 到達目標 2 各教派の特徴を説明し、それぞれの社会福祉への貢献を議論することができる 到達目標 3 今後の社会福祉政策において歴史を踏まえた提言をすることができる。			
成績評価基準	到達目標 1 について期末レポートで評価する (50%)。 到達目標 2・3 について、授業態度・討論への参加状況・発言内容で評価する (50%)。			
留意事項	事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおき、講義は討論を中心に行う。			
教材	日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 第二次大戦後のキリスト教社会事業 2 人権問題とキリスト教 被差別部落・ハンセン病、障害者などの人権課題への取り組み 3 高度成長期のキリスト教社会福祉 4 カトリック社会福祉の動向 5 社会活動・医療活動の動き 6 福祉改革期のキリスト教社会福祉 介護保険、NPO の広がりについてどう対処したのか 7 阪神・淡路大震災とキリスト教 8 各教派の歩みと福祉実践 (1) カトリックの教理と社会福祉の関係 9 各教派の歩みと福祉実践 (2) 長老派の神学と社会福祉 組合派がなぜ多くの実践を生んだのか 10 各教派の歩みと福祉実践 (3) 聖公会・メソジストの社会福祉の特徴 11 各教派の歩みと福祉実践 (4) バプテスト・その他は社会福祉にどう貢献したか 12 キリスト教団体と社会福祉 諸団体の概要と業績 13 キリスト教社会福祉の養成教育 国家資格化のなかでのキリスト教の役割 14 キリスト教社会福祉の課題と展望 15 まとめ-少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7150	授業科目名	地域福祉学特論I	2022年度第1期
担当者	川上 富雄	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義では、現代日本における様々な社会問題の理解、今日的な福祉理念の理解などを踏まえ、社会福祉のあり方や地域福祉の推進方法について考えます。			
到達目標	(1) 現代日本社会における様々な社会問題やそれらの背景に関する理解を深める。 (2) 今日的な福祉理念と社会福祉の考え方に関する理解を深める。 (3) 様々な地域福祉実践およびその推進方法に関する理解を深める。 (4) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。 (5) 社会福祉/地域福祉推進を支える様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。			
成績評価基準	発表内容・討論への参加状況(50%)および期末レポート(50%)により判定します。			
留意事項	教材指定の図書に基づいて進めるので、年間スケジュールに沿って事前にテキストの該当か所を読んでプレゼン資料にまとめて持参していただき、その発表をもとにディスカッションを行います。地域福祉学特論Iとセットでの履修を勧めます。			
教材	『図解：超少子高齢・無縁社会と地域福祉』川上富雄著 学文社 2014年 978-47620-2482-5 『地域アセスメント』川上富雄編著 学文社 2017年 978-4-7620-2758-1			
授業予定	第1回 我が国の高齢化の状況/長寿化と少子化 第2回 急速な人口減少/社会保障費の増大と世代間格差 第3回 無縁社会を象徴する事件の増大/無縁社会とは何か 第4回 家族の変容と自助力の低下/地域の変容と共助力の低下 第5回 家族・地域機能の外部化・商品化/地域自立生活を送ることが大変に 第6回 超少子高齢化・無縁社会化により生きづらさや不安が増大/認知症高齢者の増加と無縁社会～セルフネグレクト、行方不明～ 第7回 高齢者消費被害と無縁社会/虐待問題と無縁社会 第8回 自殺問題と無縁社会/貧困問題と無縁社会 第9回 ニート・引きこもり・不登校・保健室登校と無縁社会/ホームレス・累犯障害者と無縁社会 第10回 犯罪被害者と無縁社会/出所者の社会復帰支援 第11回 滞日外国人と無縁社会/依存症と無縁社会 第12回 ひとり親家庭と無縁社会/限界集落と無縁社会 第13回 交通難民と無縁社会/児童養護施設退所児童の自立支援 第14回 地域防災と地域福祉/災害支援とソーシャルワーク 第15回 制度の外側に様々な不安や生活困難が/制度に跨る複合・多問題家族の増大			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7155	授業科目名	地域福祉学特論II	期間
担当者	川上 富雄	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義では、現代日本における様々な社会問題の理解、今日的な福祉理念の理解などを踏まえ、社会福祉のあり方や地域福祉の推進方法について考えます。			
到達目標	(1) 現代日本社会における様々な社会問題やそれらの背景に関する理解を深める。 (2) 今日的な福祉理念と社会福祉の考え方に関する理解を深める。 (3) 様々な地域福祉実践およびその推進方法に関する理解を深める。 (4) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。 (5) 社会福祉/地域福祉推進を支える様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。			
成績評価基準	発表内容・討論への参加状況(50%)および期末レポート(50%)により判定します。			
留意事項	教材指定の図書に基づいて進めるので、年間スケジュールに沿って事前にテキストの該当か所を読んでプレゼン資料にまとめて持参していただき、その発表をもとにディスカッションを行います。地域福祉学特論Iとセットでの履修を勧めます。			
教材	『図解：超少子高齢・無縁社会と地域福祉』川上富雄著 学文社 2014年 978-47620-2482-5 『地域アセスメント』川上富雄編著 学文社 2017年 978-4-7620-2758-1			
授業予定	第1回 国による制度的福祉の限界と自助・共助/社会資源の種類と特徴 第2回 住民福祉活動の2形態/ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービス 第3回 NPO活動の現状/地域を基盤とした住民福祉活動 第4回 コミュニティ活動の代表例/「ふれあいサロン」と「見守り活動」 第5回 住民は何を担うのか/安心担保を何処に置くか~求められる価値の転換~ 第6回 わが町型地域福祉の必要/ニーズの普遍化と地域アセスメント 第7回 地域アセスメントの必要性/地域アセスメントの方法と圏域 第8回 小地域福祉活動計画/地域福祉計画・地域福祉活動計画 第9回 社会福祉協議会とは/市町村社会福祉協議会活動のあり方 第10回 市町村社会福祉協議会の組織/福祉施設の地域福祉機能 第11回 民生委員・児童委員とは/民生児童委員活動と課題/民生児童委員協議会とは 第12回 地域福祉推進を支える財源~補助金・助成金・共同募金~ 第13回 サービス利用者の権利擁護の仕組み~成年後見制度・日常生活自立支援事業~ 第14回 サービス利用者の権利擁護の仕組み~第三者評価事業・苦情解決システム~ 第15回 2000年以降の社会福祉理念/公私関係論			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7160	授業科目名	人間社会論演習I	2022年度第1期
担当者	杉山 博昭	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。格差・貧困、介護労働、ジェンダー、福祉国家、地域福祉など、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく			
到達目標	到達目標1 文献を読みこなし、社会福祉をめぐる課題について提言することができる。 到達目標2 政策や実践について、主体的に議論することができる。 到達目標3 社会福祉の理論について具体的に説明することができる。			
成績評価基準	発表態度・発表内容において到達目標1・2を評価する(50%) 2回のレポートにおいて到達目標を評価する(50%)			
留意事項	発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしううえで主体的に参加すること。			
教材	大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版 その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉原理論研究の意義と課題 社会福祉研究における「原論」の意義 2 格差・貧困問題と社会福祉 子どもの貧困 女性の貧困の現実 3 生存権と社会福祉 諸外国の動向 朝日訴訟などの憲法訴訟 4 社会福祉の歴史認識-社会福祉の歴史的性格とは何か 5 社会福祉史の具体的課題 慈善事業の特質 社会事業の形成 戦時厚生事業 6 社会福祉におけるソーシャルワークの役割 7 ソーシャルワーク論の変遷 アメリカにおけるソーシャルワークの展開過程から 8 ソーシャルワークの国際動向 9 社会福祉の政策・理論研究 古川孝順・京極高宣の議論から 10 戦後の社会福祉理論(1) 岡村理論 11 戦後の社会福祉理論(2) 孝橋理論 12 戦後の社会福祉理論(3) 一番ヶ瀬・真田・高島理論 13 戦後の社会福祉理論(4) 三浦理論 14 社会福祉の歴史研究 吉田久一の研究をめぐる評価と近年の研究動向 15 社会福祉の法体系 近年の法改正の特徴と今後の展望 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	人間社会論
授業コード	M7165	授業科目名	人間社会論演習II	2022年度第2期
担当者	杉山 博昭	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。社会福祉実践の専門性、ジェンダー、地域包括ケアなど、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく			
到達目標	到達目標 1 福祉国家政策などマクロな視点での社会福祉の議論をすることができる。 到達目標 2 専門教育など福祉実践の性格を理解し、実践のあり方を説明することができる。 到達目標 3 わが国の地域の性格を踏まえて地域での福祉活動を提案することができる。			
成績評価基準	到達目標 1・2 について発表態度・発表内容の総合的判断 (50%) 到達目標 3 について、2 回のレポートでの提案を評価する (50%)			
留意事項	発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしたうえで主体的に参加すること。			
教材	大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版 その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉と社会保障 2 福祉国家をめぐって 福祉国家論の系譜と福祉国家政策 3 社会福祉実践の歴史的系譜 慈善から社会福祉への変遷 4 戦前における専門職性の到達点 5 戦後の社会福祉専門教育 専門教育の創始から国家資格制定前まで 6 国家資格化の意義と限界 国家資格の概要と課題 7 社会福祉における介護労働 介護労働をめぐる近年の議論と労働力不足への対応 8 社会福祉とジェンダー 9 政策動向と社会福祉 10 新自由主義路線の社会福祉への影響 11 社会福祉経営 民間非営利、民間営利の経営の特質 12 コミュニティと社会福祉 13 地域における福祉の創造 14 地域包括ケアシステム 実現に向けての方策と課題 15 少子高齢化のなかでの社会福祉の展望 財源確保や人材確保の課題 			

人間生活学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7210	授業科目名	日本民俗学特論I	期間
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。			
到達目標	民俗学の立脚点を理解するとともに、とくに民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解できるようになることを目指す。あわせて、民俗学の論文の読解力の向上を目指す。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学的認識の誕生 2. 柳田國男の仕事 3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉 4. フォークロリズムをめぐる議論 5. 民俗宗教とは 6. ムラと村落祭祀 7. 村組と地縁集団の祭祀 8. 宮座と当屋制 9. 同族と同族祭祀 10. 先祖祭祀 11. 年中行事の構造 12. 人の一生と靈魂観 13. 祭儀と祝祭 14. 神がかりとシャーマニズム 15. 〈俗信〉という概念 			

人間生活学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7215	授業科目名	日本民俗学特論II	期間
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。</p>			
到達目標	<p>日本の社会における種々の遍歴の実態を知るとともに、民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることが理解できることを目指す。</p>			
成績評価基準	<p>期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。</p>			
留意事項	<p>一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。</p>			
教材	<p>必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漂泊・遍歴の諸相 2. 巡礼という回路 3. 巡礼類型論 4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼 5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗 6. 社会的弱者の巡礼 7. ハンセン病と巡礼 8. 乞食巡礼の民俗 9. もの乞いの思想 10. 六十六部日本廻国 11. 持経者の遍歴と如法経信仰 12. 六十六部縁起 13. 王権の神話・儀礼と遍歴 14. 職業的廻国者集団の活動 15. 遍歴と定住の交渉 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7220	授業科目名	比較文化特論I	2022年度第1期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	単位数	2単位
授業概要	西アジアの人文地理、自然地理、言語を取り上げ、各地域の特徴を概観しながら、今日の西アジア世界の実態にせまる。			
到達目標	西アジアの自然、文化を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：西アジアの地形 第 3 回：西アジアの気候 第 4 回：西アジアの民族構成 第 5 回：西アジアの人文自然地理に関する論文講読 第 6 回：西アジアの先史狩猟採集民 第 7 回：西アジアの遊牧民 第 8 回：西アジアの農耕民 第 9 回：西アジアの民族学に関する論文講読 第 10 回：西アジアの食文化 第 11 回：西アジアの住居文化 第 12 回：西アジアの言語文化 第 13 回：トルコ語の文化的背景 第 14 回：西アジアの言語に関する論文講読 第 15 回：まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7225	授業科目名	比較文化特論II	期間
担当者	紺谷 亮一	授業形態		単位数
授業概要	西アジアの近現代史を取り上げ、特に取ることシリアの事例を概観しながら、今日の西アジア世界の実態にせまる。			
到達目標	トルコ、シリアの近現代史を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：オスマン・トルコ帝国の崩壊 第 3 回：ケマル・アタテュルクによるトルコ革命 第 4 回：トルコ共和国の成立 第 5 回：トルコの現状 第 6 回：イスタンブールの歴史的景観 第 7 回：トルコ語①文法 第 8 回：トルコ語②新聞見出し 第 9 回：トルコ語③テレビニュース 第 10 回：「アラブの春」とは何か 第 11 回：シリア内乱の要因 第 12 回：アレppoの歴史的景観 第 13 回：日本・トルコ交渉史 第 14 回：現代西アジアに関する論文講読 第 15 回：まとめ			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7230	授業科目名	家族・社会構造特論I	期間
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族研究の基礎となる理論、分析視角を学習する。 家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する。 並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。			
到達目標	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる。 家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解する。			
成績評価基準	授業への取り組み、口頭発表、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房。			
授業予定	第 1 回 講義概要 オリエンテーション 第 2 回 家族社会学の分析視角 第 3 回 輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』 第 4 回 歴史社会学的アプローチ 第 5 回 人口学的アプローチ 第 6 回 ジェンダー研究的アプローチ 第 7 回 エスノメソドロジック的アプローチ 第 8 回 輪読② マリノウスキー『性・家族・社会』 第 9 回 構造機能論的アプローチ 第 10 回 家族ストレス論的アプローチ 第 11 回 相互作用論的アプローチ 第 12 回 交換論的アプローチ 第 13 回 輪読③ マードック『社会構造』 第 14 回 ライフコース論的アプローチ 第 15 回 ネットワーク論的アプローチ 第 16 回 口述試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7235	授業科目名	家族・社会構造特論II	2022年度第2期
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める。とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する。講義に関連する基本的文献を随時紹介する。			
到達目標	家族社会学研究の基本を理解する。 現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる。			
成績評価基準	授業への取り組み、討論、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社。			
授業予定	第 1 回 講義概要 家族社会学研究の基本 第 2 回 日本の家族変動 第 3 回 恋愛と結婚 第 4 回 子育てにみる家族主義の限界 第 5 回 討論① 第 2 回～第 4 回をふまえて 第 6 回 介護の「再家族化」 第 7 回 家族階層と教育機会 第 8 回 生活の共同性と家族主義 第 9 回 討論② 第 6 回～第 8 回をふまえて 第 10 回 「お金」と「愛情」の間 第 11 回 セクシュアル・マイノリティの家族 第 12 回 成人子と親との関係 第 13 回 討論③ 第 10 回～第 12 回をふまえて 第 14 回 家族と政治・法律 第 15 回 討論④・まとめ 第 16 回 口述試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7240	授業科目名	食生活文化論特論I	2022年度第1期
担当者	清水 純一	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では主として石毛直道によって確立された食文化研究の方法論に依拠し、「食」のモノとしての消費からココロ(=人間)の豊かさを求める消費への移行に伴い成立した「食文化」の多様な側面に焦点を当て、比較食文化論の立場から考察する。			
到達目標	到達目標1 人文科学、社会科学の両面から食生活・食文化を分析する最低限の知識を修得する。 到達目標2 学際的アプローチを可能にする、思考能力、方法論を獲得する。			
成績評価基準	授業の理解度と応用能力を発表(50%)および期末レポート(50%)によって評価する。			
留意事項	与えられた課題を報告する一部演習形式も取り入れる。また、フィールドワークを実施する場合もある。			
教材	参考文献は授業中に指示する。また、適宜プリントを配布する。			
授業予定	<p>授業計画</p> <p>第1部 日本と日本人の食文化史</p> <p>第1回：稲作以前 第2回：稲作社会の成立 第3回：日本的食文化の形成期 第4回：変動の時代 第5回：伝統的な食文化の完成期 第6回：近代における変化 第7回：食卓 第8回：台所 第9回：外食、料理、飲み物</p> <p>第2部 食の歴史人類学</p> <p>第10回：文化衝突とマナー摩擦 第11回：雑食・肉食・菜食 第12回：西洋の肉食 第13回：日本の肉食 第14回：食物タブーと文化理論 第15回：ケース・スタディー(多民族国家ブラジルにみる食文化の有り様) 期末レポート提出</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7245	授業科目名	食生活文化論特論II	2022年度第2期
担当者	清水 純一	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では、主として日本の高度経済成長以後を対象にし、社会・経済構造の変化による食料消費の変化が、食生活に与えた影響を食料経済学の立場から分析する。			
到達目標	到達目標1 経済学の立場から食生活・食文化を分析するための、基本的な経済学のツールを修得する。 到達目標2 食を巡る現状を知識として蓄積する。 到達目標3 到達目標1と2で蓄積した知識とツールを利用し、現状の食生活を分析する能力を獲得する。			
成績評価基準	授業の理解度と応用能力を発表(50%)および期末レポート(50%)によって評価する。			
留意事項	与えられた課題を報告する一部演習形式も取り入れる。また、フィールドワークを実施する場合もある。			
教材	参考文献は授業中に指示する。また、適宜プリントを配布する。			
授業予定	授業計画 第1回：日本のフードシステム 第2回：食生活の現状 第3回：食生活の変化の要因 第4回：食品製造業 第5回：食品流通1(卸売) 第6回：食品流通2(小売) 第7回：外食産業 第8回：中食産業 第9回：日本の農業 第10回：食料の輸入と自給率 第11回：世界の人口と食料問題 第12回：世界の食料貿易 第13回：食料をめぐる貿易問題 第14回：食の安全と消費者の信頼 第15回：食料をめぐるいくつかの問題 期末レポート提出			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7250	授業科目名	生活文化論演習I	2022年度第1期
担当者	清水 純一	授業形態	演習	2単位
授業概要	本授業では、人間生活の基盤をなす、生活文化に関する演習を行う。人文科学、社会科学の両面から生活文化を観察し、今後の我々の生活文化を占うために、調査・分析する力を養う。			
到達目標	到達目標1 当該分野の基礎的な文献を読み解き、批評する能力を修得する。 到達目標2 統計学を使いこなして、当該分野のデータを分析できるツールを身につける。 到達目標3 オリジナルな論考を論理的に展開できる研究能力を獲得する。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、期末レポート・報告(50%)。			
留意事項	本授業を履修する学生には、統計学を使用するため、ある程度の数学の基礎能力が求められる。事前に高校までの数学を復習しておくこと。予習と復習に時間をかけること。特に復習が大事である。			
教材	授業予定に書かれている文献以外は演習中に指示する。			
授業予定	授業計画 第1回：生活文化論とは何か(概論) 第2回：文献レビューの方法論 第3回：文献購読(1) 青木保『異文化理解』岩波書店 第4回：文献購読(2) 青木保『異文化理解』岩波書店 第5回：文献購読(3) 青木保『多文化世界』岩波書店 第6回：文献購読(4) 青木保『多文化世界』岩波書店 第7回：文献購読(5) 祖父江孝男『文化人類学入門』中央公論新社 第8回：文献購読(6) 祖父江孝男『文化人類学入門』中央公論新社 第9回：文献レビュー発表(文献購読(1)～(6)に使用した資料) 第10回：アンケート調査表の設計 第11回：アンケート結果の集計方法 第12回：アンケートデータの解析 第13回：消費者セグメンテーション調査の手順 第14回：消費者セグメンテーション調査の解析 第15回：アンケートデータによる分析結果の発表 期末レポート提出			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	M7255	授業科目名	生活文化論演習II	期間
担当者	清水 純一	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、人間生活の基盤をなす、生活文化に関する演習を行う。人文科学、社会科学の両面から生活文化を観察し、今後の我々の生活文化を占うために、調査・分析する力を養う。			
到達目標	到達目標 1 当該分野の基礎的な文献を読み解き、批評する能力を修得する。 到達目標 2 統計学を使いこなして、当該分野のデータを分析できるツールを身につける。 到達目標 3 オリジナルな論考を論理的に展開できる研究能力を獲得する。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、最終報告(50%)。			
留意事項	本授業を履修する学生には、経済学を使用するため、ある程度の数学の基礎能力が求められる。事前に高校までの数学を復習しておくこと。予習と復習に時間をかけること。特に復習が大事である。			
教材	参考文献は演習中に指示する。			
授業予定	授業計画 第 1 回：論文執筆法 (1) アウトラインの組み立て 第 2 回：論文執筆法 (2) 論理の展開方法 第 3 回：論文執筆法 (3) 参考文献・引用・参照の表記 第 4 回：テーマの報告 (アウトラインと参考文献) 第 5 回：参考文献レビューの報告 第 6 回：食料経済学の基礎 (1) 第 7 回：食料経済学の基礎 (2) 第 8 回：中間報告 第 9 回：食生活に関する統計分析演習 (1) 第 10 回：食生活に関する統計分析演習 (2) 第 11 回：食生活の計量分析演習 (1) 回帰分析 第 12 回：食生活の計量分析演習 (2) 多変量解析 第 13 回：食生活の計量分析演習 (3) カテゴリカルデータの分析 第 14 回：最終報告 (プレゼンテーション) 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7310	授業科目名	生活経営学特論I	2022年度第1期
担当者	豊田 尚吾	授業形態	講義	単位数
授業概要	生活者がウェルビーイング(よい生活)を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。それにより、生活経営を人間生活とリンクさせ、深みのある考察、研究を行う視点を養う。			
到達目標	上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、中間レポート(25%)、期末レポート(25%)			
留意事項	履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。			
教材	(参考書) 『ミクロ経済学』西村和雄(東洋経済新報社) 『マクロ経済学』斎藤誠他(有斐閣) 他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。			
授業予定	第1回 生活経営とは(講義概要を含む) 第2回 生活を取り巻く環境変化(少子高齢社会、環境問題など) 第3回 ライフプランニング(生活設計) 第4回 生活経営と企業経営(類似と相違) 第5回 経営戦略論 第6回 マーケティング戦略論(1)STP 第7回 マーケティング戦略論(2)4P 第8回 ブランド戦略 第9回 ケーススタディ 第10回 生活に生かす企業経営 第11回 生活資産のマネジメント 第12回 各種制度と地域社会へのかかわり 第13回 消費者問題と消費者市民社会 第14回 ソーシャルデザインと倫理的消費 第15回 ミクロ経済学とマクロ経済学			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7315	授業科目名	生活経営学特論II	2022年度第2期
担当者	豊田 尚吾	授業形態	講義	2単位
授業概要	生活者がウェルビーイング(よい生活)を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。さらに人間生活を経営・経済の観点から見る新しい試みとして消費者行動論、行動経済学を取り上げ、生活経営の広がりも学習する。			
到達目標	上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、中間レポート(25%)、期末レポート(25%)			
留意事項	履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。			
教材	(参考書) 『ミクロ経済学』西村和雄(東洋経済新報社) 『マクロ経済学』斎藤誠他(有斐閣) 他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。			
授業予定	第1回 家計消費の構造分析 第2回 市場メカニズムの機能と理論 第3回 雇用、賃金とキャリア論 第4回 政府・企業・NPOの活動と役割 第5回 財政・金融政策 第6回 グローバル経済と地域経済 第7回 サステイナブルな社会とは 第8回 生活経済学を生活経営に生かす 第9回 ウェルビーイングと主観的幸福感 第10回 消費者行動の基本モデル 第11回 生活者のアノマリー 第12回 行動経済学で生活経営を考える 第13回 進化心理学とウェルビーイングの実現 第14回 未来を創る地域づくり 第15回 まとめ・総括			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7330	授業科目名	消費経済学特論I	2022年度第1期
担当者	葉口 英子	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>私たちは、ありとあらゆる財・サービスに囲まれて生活をしている。そうした環境において私たちはいかなる意思決定や行動に基づき、財やサービスを選択しているのか。</p> <p>本授業では、基礎経済学視点から、まず現代の経済社会や市場の成り立ちに対する理解を深める。次に消費者について、経済・経営理論の視点から基礎知識や理論を習得する。</p>			
到達目標	<p>経済社会と消費者の活動について基礎的な知識や理論を修得できる。</p>			
成績評価基準	<p>消費経済学の基礎的な知識や理論の習得度について試験とレポートの両方で評価する。 期末試験（50%）、レポート（50%）による総合評価とする。</p>			
留意事項	<p>予習・復習ともに1時間以上行うことが望ましい。</p>			
教材	<p>嶋村紘輝・酒井徹（著）「経済と消費者（入門 消費経済学 1）」2009年、慶應義塾大学出版会 青木幸弘・新倉貴志・佐々木壮太郎・松下光司（著）「消費者行動論」2012年有斐閣</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会と消費者の活動 2. 市場経済体制 3. 需要と供給の法則 4. 消費者の利益 5. 消費者とは何か 6. 消費者の予算制約 7. 消費者の選好と無差別曲線 8. 最適な消費決定 9. 市場価格と消費 10. 代替効果と所得効果 11. 消費者の需要曲線 12. 需要の価格弾力性 13. 需要の交差弾力性 14. 所得と消費 15. ライフサイクル仮説と恒常所得仮説 			

人間生活学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7335	授業科目名	消費経済学特論II	2022年度第2期
担当者	葉口 英子	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、行動経済学視点から、消費者の意思決定や消費行動・心理について知識を深める。 また ICT 時代を迎えた新しいマーケティングやブランド戦略について、市場や消費者行動を捉え、現代の消費社会に対する洞察をおこなう。			
到達目標	消費、貯蓄、投資といった経済行動の意思決定に関する知識や理論を修得できる。 自身の研究テーマについて消費経済学の視点から考察することができる。			
成績評価基準	消費経済学の知識や理論の習得度に加え、それらを自身の研究テーマへと結びつける考察の深度について試験とレポートの両方で評価する。 期末試験（50%）、レポート（50%）による総合評価とする。			
留意事項	予習・復習ともに1時間以上行うことが望ましい。			
教材	大垣昌夫・田中沙織（著）「行動経済学（新版）」有斐閣 2018 年 田中洋（著）「消費者行動論」中央経済社 2015 年			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動経済学とは何か 2. 人間はどこまで合理的か？ 3. 意思決定と時間割引率の関係 4. 消費行動と購買行動 5. コモディティ商品に対する消費者心理 6. 高商品における消費者心理 7. 消費者心理に対する総称ブランドの活用 8. 消費行動とマーケティング 9. 消費者行動の分析フレーム 10. 購買意思決定の分析 11. 情報と消費者の活動 12. 完全競争市場と不完全情報の市場 13. 逆選択とその解決策 14. モラルハザードとその解決策 15. 情報化時代の消費者行動 			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7340	授業科目名	生活情報処理特論I	2022年度第1期
担当者	大東 正虎	授業形態	講義	2単位
授業概要	<p>情報化の進展に伴い、人々の生活や生活産業も変化してきている。本講義では、情報ネットワークの基礎を理解するために、情報通信ネットワークの役割、情報モラル、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティを修得する。また、情報通信ネットワークを使った生活産業と消費者とのコミュニケーション手段が増えていることから、その違いを説明できるようにする。そして、発信者の立場から情報デザイン、著作権の考え方を修得し、またウェブページ作成によって発信に必要な技術を習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信ネットワークの基礎的な考え方について説明することができる。 2. コミュニケーション方法の違いが説明できる。 3. 情報デザイン、著作権を説明することができる。 4. ウェブページを作成することができる。 			
成績評価基準	<p>授業の到達目標の達成度合いを確認するために、定期試験 50%、およびレポート 50%によって評価する。</p>			
留意事項	<p>身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。 各回 USB フラッシュメモリを必ず持参すること。</p>			
教材	<p>テキストは指定しない。 参考資料：石田晴久、井内善臣、梅田茂樹他（2010）『情報科学の基礎 [改訂版]』 実教出版。 必要に応じて資料を配布する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化の進展と社会 2. 生活産業における情報化の進展 3. 情報モラル 4. 情報通信ネットワークの仕組み (1) コンピュータネットワーク 5. 情報通信ネットワークの仕組み (2) インターネットの技術 6. 情報セキュリティ 7. 目的に応じたコミュニケーション 8. 情報デザイン 9. 情報コンテンツの作成 (1) 著作権 10. 情報コンテンツの作成 (2) HTML 記述の基本構造 11. 情報コンテンツの作成 (3) 文字による表現 12. 情報コンテンツの作成 (4) 表による表現 13. 情報コンテンツの作成 (5) 画像による表現 14. 情報コンテンツの作成 (6) Web ページ内リンク 15. 情報コンテンツの作成 (7) Web ページを相互にリンク <p>定期試験</p>			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7345	授業科目名	生活情報処理特論II	2022年度第2期
担当者	大東 正虎	授業形態	講義	2単位
授業概要	生活産業の特徴を理解するために、モデル化の方法とアルゴリズムを修得する。また、シミュレーションを学習することによって将来の予測を立てることができるようになる。さらにプログラミング技術を身に付けることによって、パターン化された処理を効率化することができるようになる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. モデル化とアルゴリズムについて説明することができる。 2. VBA を使ったプログラミングができる。 3. Excel を使ったデータベース活用ができる。 4. Excel を使ったシミュレーションができる。 			
成績評価基準	授業の到達目標の達成度合いを確認するために、定期試験 50%、およびレポート 50%によって評価する。			
留意事項	身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。 各回 USB フラッシュメモリを必ず持参すること。			
教材	テキストは指定しない。 参考資料：大村あつし(2020)『新装改訂版 Excel VBA 本格入門：マクロ記録・If 文・ループによる日常業務の自動化から高度なアプリケーション開発まで VBA のすべてを完全解説』技術評論社。 必要に応じて資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. モデル化とシミュレーションの必要性 2. モデル化の方法と種類 3. プログラムとアルゴリズム (1) プログラム開発と記述方法 4. プログラムとアルゴリズム (2) 処理の手順 5. VBA を使ったプログラミング (1) VBA の特徴と基本構文 6. VBA を使ったプログラミング (2) シートを操作 7. VBA を使ったプログラミング (3) セルを操作 8. VBA を使ったプログラミング (4) 変数の利用 9. VBA を使ったプログラミング (5) 条件文の実行 10. VBA を使ったプログラミング (6) 繰り返し処理の実行 11. VBA を使ったプログラミング (7) ダイアログボックスの活用 12. Excel を使ったデータベース (1) データの整理 13. Excel を使ったデータベース (2) 見やすい資料作成 14. Excel を使ったシミュレーション (1) 時系列データの分析 15. Excel を使ったシミュレーション (2) 住宅ローン 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7350	授業科目名	生活経営論演習I	2022年度第1期
担当者	豊田 尚吾	授業形態	講義	単位数
授業概要	人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案(発表を含む)する力を養う。社会科学研究の方法論を身につけることに力点を置く。			
到達目標	経済学、経営学的方法論の習得と、関連知識の獲得。データの解析にも取り組み、本分野に求められる研究能力を身につける。社会課題に関する重要な論点を抽出し、言語化し、理論化できることが目標である。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、中間レポート(25%)、期末レポート(25%)			
留意事項	自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。			
教材	検索資料、文献など。 (参考書) 『ミクロ経済学』西村和雄(東洋経済新報社) 『マクロ経済学』斎藤誠他(有斐閣)			
授業予定	第1回 生活経営論(概論) 第2回 ミクロ経済学 第3回 マクロ経済学 第4回 金融論 第5回 財政学・経済政策論 第6回 研究課題報告(1) RQの明確化 第7回 研究課題報告(2) factの確認 第8回 研究課題報告(3) 既存研究のレビュー 第9回 研究課題報告(4) データの解析 第10回 労働経済学 第11回 消費者行動論 第12回 行動経済学 第13回 課題研究(1) 論文構造の確定 第14回 課題研究(2) 独自性の明確化 第15回 課題研究(3) 期末報告			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活経営論
授業コード	M7355	授業科目名	生活経営論演習II	2022年度第2期
担当者	豊田 尚吾	授業形態	講義	2単位
授業概要	人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案(発表を含む)する力を養う。特にデータを用いた仮説検証に力を入れる。			
到達目標	経済学、経営学的方法論の習得と、関連知識の獲得。データの解析にも取り組み、本分野に求められる研究能力を身につける。課題設定、理論モデル構築、データによる仮説検証、考察という一連の研究活動ができることを目標とする。			
成績評価基準	授業中の発表内容・姿勢(50%)、中間レポート(25%)、期末レポート(25%)			
留意事項	自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。			
教材	検索資料、文献など。 (参考書) 『ミクロ経済学』西村和雄(東洋経済新報社) 『マクロ経済学』斎藤誠他(有斐閣)			
授業予定	第1回 研究の方向性確認 第2回 発展研究(1)改善策 第3回 発展研究(2)取り組みの方向性明確化 第4回 経営学の基本 第5回 マーケティング論 第6回 新しいマーケティング論 第7回 消費者行動論(応用) 第8回 発展課題研究(1)論文構造の確定 第9回 発展課題研究(2)データの分析(基礎統計) 第10回 発展課題研究(3)データの分析(多変量解析) 第11回 幸福の経済学 第12回 新時代の経済を考える 第13回 新時代の人間生活を考える 第14回 最終報告(プレゼンテーション) 第15回 全体総括・振り返り			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7410	授業科目名	生活環境学特論I	2022年度第1期
担当者	小川 賢一	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	本授業では、身近な地域環境の視点から自然の見方や文化、生活スタイル等を再認識したり、見直したりして、新しいまちづくり、および生活環境づくりを考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎知識をもとに広い視野とバランスのとれた考え方を修得する。 ② 既存の概念や価値観にとられない考え方を修得する。 ③ 自身の生活環境や生活スタイルに応用する。 			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢：20% ・授業毎のレポート：30% ・期末試験：50% 			
留意事項	本授業を履修する学生は毎回の予習・復習等に留意して授業に臨むこと。			
教材	参考文献・資料は適宜、紹介ないし配付する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概論 2. 自然との付き合い方(過去) 3. 自然との付き合い方(現在) 4. 自然との付き合い方(将来) 5. 地域環境(身のまわりの生活) 6. 地域環境(文化) 7. 地域環境(自然) 8. 地域景観 9. 緑化活動 10. 身近な緑化(壁面緑化) 11. 身近な緑化(屋上緑化) 12. 身近な緑化(その他の緑化) 13. 地域と移動手段 14. まちづくりへ 15. まとめ 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7415	授業科目名	生活環境学特論II	期間
担当者	小川 賢一	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、地球環境と地域環境の視点からさまざまな環境問題について現状の把握や分析等を行い、自身の生活スタイル等を再認識したり、見直したりして、将来の持続可能な生活環境づくりを考える。			
到達目標	① 基礎知識をもとに広い視野とバランスのとれた考え方を修得する。 ② 既存の概念や価値観にとらわれない考え方を修得する。 ③ 自身の生活環境や生活スタイルに応用する。			
成績評価基準	・授業への取り組み姿勢：20% ・授業毎のレポート：30% ・期末試験：50%			
留意事項	本授業を履修する学生は毎回の予習・復習等に留意して授業に臨むこと。			
教材	参考文献・資料は適宜、紹介ないし配付する。			
授業予定	1. 本授業の概論 2. 地球環境の現状 3. 温暖化問題 4. 水問題 5. 食料問題 6. 食料自給と地産地消 7. エネルギー問題 8. 新エネルギー 9. 地域とエネルギー 10. 人工化学物質 11. 化学物質と環境汚染 12. ごみ問題 13. プラスチックと生活スタイル 14. 持続可能な生活環境とは 15. まとめ 定期試験			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7420	授業科目名	住環境特論I	2022年度第1期
担当者	成清 仁士	授業形態	講義	2単位
授業概要	人が生活する上で大切な住環境・都市環境について講術する。歴史を振り返ることを通して、これからの日本に求められる住環境を探求する。			
到達目標	これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。			
成績評価基準	講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。			
留意事項	テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。			
教材	テーマごとに適宜、紹介・推薦する。			
授業予定	第 1 回：授業ガイダンス 第 2 回：日本における住環境形成史-古代 第 3 回：日本における都市史-古代 第 4 回：日本における住環境形成史-中世 第 5 回：日本における都市史-中世 第 6 回：日本における住環境形成史-近世 第 7 回：日本における都市史-近世 第 8 回：プレゼンテーション、講評 第 9 回：近代以降の住まい方論-戦前 第 10 回：近代以降の住まい方論-戦後 第 11 回：日本の都市計画の歴史-戦前 第 12 回：日本の都市計画の歴史-戦後 第 13 回：日本のまちづくりの歴史 第 14 回：日本のまちづくりの現在 第 15 回：定期試験 第 16 回：授業ふりかえり			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7425	授業科目名	住環境特論II	2022年度第2期
担当者	成清 仁士	授業形態	講義	2単位
授業概要	都市化・高機能化・超高齢化・少子化・景観・まちづくり等のキーワードをもとに、これからの日本に求められる住環境を探求する。			
到達目標	これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。			
成績評価基準	講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。			
留意事項	テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。			
教材	テーマごとに適宜、紹介・推薦する。			
授業予定	第 1 回：授業ガイダンス 第 2 回：歴史的環境デザイン論の変遷-近世以前 第 3 回：歴史的環境デザイン論の変遷-近現代 第 4 回：歴史的景観とまちづくり 第 5 回：日本における歴史的景観とまちづくり 第 6 回：倉敷における歴史的景観とまちづくり-成果と課題 第 7 回：プレゼンテーション、講評 第 8 回：歴史的景観とまちづくりに係る考察 第 9 回：住環境をとりまく日本の状況変化-内的要因 第 10 回：住環境をとりまく日本の状況変化-外的要因 第 11 回：これからの住環境形成に向けた問題分析 第 12 回：これからの住環境形成に向けたディスカッション 第 13 回：これからの住環境形成に向けた展望 第 14 回：総括 第 15 回：定期試験 第 16 回：授業ふりかえり			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7430	授業科目名	食環境特論I	2022年度第1期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	食環境の変容とメタボリックシンドロームとの関連性について論ずるとともに、「食」によるメタボリックシンドロームの予防・改善が可能かどうかについて考究する。			
到達目標	生活習慣に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する			
成績評価基準	受講態度、論文読解、課題発表、課題レポートなどを総合的に評価する。			
留意事項	特になし			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：メタボリックシンドロームとは 第 3 回：メタボリックシンドロームと食生活 第 4 回：メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム 第 5 回：メタボリックシンドロームとフレイル 第 6 回：肥満と食生活・ 第 7 回：糖尿病と食生活 第 8 回：加齢・老化と食生活 第 9 回：がんと食生活 第 10 回：慢性腎臓病と食生活 第 11 回：肝臓病と食生活 第 12 回：ニュートリシューティカル概論 第 13 回：疾患予防・改善のための食生活（1） 第 14 回：疾患予防・改善のための食生活（2） 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7435	授業科目名	食環境特論II	2022年度第2期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	2単位
授業概要	食環境の変容と「こころ」との関連性について論ずるとともに「食」による「こころ」の病の改善・予防が可能かどうかについて考究する。			
到達目標	「こころ」に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する			
成績評価基準	受講態度、論文読解、課題発表、課題レポートなどを総合的に評価する。			
留意事項	特になし			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：「こころ」とは 第 3 回：「こころ」の疾患について 第 4 回：「こころ」と食生活について 第 5 回：疲労について（疲労科学概論） 第 6 回：疲労と疾患との関連性 第 7 回：疲労と食生活について 第 8 回：ストレスについて 第 9 回：ストレスによる疾患について 第 10 回：ストレスと食生活について 第 11 回：「こころ」と「からだ」を守る食品成分について 第 12 回：ニュートリシューティカル概論 第 13 回：疾患予防・改善のための食生活（1） 第 14 回：疾患予防・改善のための食生活（2） 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7440	授業科目名	生活環境論演習I	2022年度第1期
担当者	成清 仁士	授業形態	演習	単位数
授業概要	人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。			
到達目標	これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。			
成績評価基準	演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。			
留意事項	各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。			
教材	テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。			
授業予定	第 1 回：研究テーマの設定 第 2 回：研究方法の検討-I 研究対象 第 3 回：研究方法の検討-II 着眼点 第 4 回：文献報告-要点整理 第 5 回：文献報告-考察 第 6 回：関連資料等の報告-要点整理 第 7 回：関連資料等の報告-考察 第 8 回：生活環境に関する問題分析 第 9 回：生活環境に関する考察 第 10 回：都市環境に関する問題分析 第 11 回：都市環境に関する考察 第 12 回：文献報告-視点の拡張 第 13 回：他研究内容の比較検討報告-要点整理 第 14 回：他研究内容の比較検討報告-考察 第 15 回：定期試験 第 16 回：授業ふりかえり			

人間生活学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	人間生活学専攻	研究分野	生活環境論
授業コード	M7445	授業科目名	生活環境論演習II	2022年度第2期
担当者	成清 仁士	授業形態	演習	単位数
授業概要	人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。			
到達目標	これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。			
成績評価基準	演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。			
留意事項	各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。			
教材	テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。			
授業予定	第 1 回：伝統的住まいに関する考察 第 2 回：建築技術等に関する考察 第 3 回：伝統的住環境づくりに関する考察 第 4 回：伝統的生活環境に関する検討報告-I 分析 第 5 回：伝統的生活環境に関する検討報告-II 考察 第 6 回：生活環境に関する検討報告-I 分析 第 7 回：生活環境に関する検討報告-II 考察 第 8 回：論のとりまとめ・報告-I 研究成果 第 9 回：論のとりまとめ・報告-II 研究成果の意義 第 10 回：住環境に関する提案検討-I 分析 第 11 回：住環境に関する提案検討-II 考察 第 12 回：住環境づくりのとりまとめ・報告-I 提案 第 13 回：住環境づくりのとりまとめ・報告-II 残された課題 第 14 回：総括 第 15 回：定期試験 第 16 回：授業ふりかえり			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5120	授業科目名	発達心理論I	期間
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義	単位数
授業概要	人間の生涯発達のプロセスを、人類の歴史・発生のメカニズムを踏まえた上で、認知・自己理解・社会性・情動の観点から明らかにするとともに、人間が生涯にわたって成長し続ける存在であることのアリティを物語とナラティブをベースとし、特に、胎児期から幼児期までを中心に紐解いていく。			
到達目標	人間の生涯発達のプロセスを多面的にとらえ、自らの言葉で説明できる。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断して評価する。 レポート70% 発表内容30%			
留意事項	特になし			
教材	随時指示をする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の進化のプロセスをたどる① 2. 人類の進化のプロセスをたどる② 3. 人間の発生のメカニズムを学ぶ① 4. 人間の発生のメカニズムを学ぶ② 5. 生涯発達理論を学ぶ-諸発達理論を中心に① 6. 生涯発達理論を学ぶ-諸発達理論を中心に② 7. 生涯発達理論を学ぶ-「発達」と「育ち」の議論を中心に③ 8. 生涯発達理論を学ぶ-「発達」と「育ち」の議論を中心に④ 9. 認知発達の基盤-胎児期と新生児期 10. 認知発達の基盤-乳児期 11. 認知発達の基盤-児童期 12. 認知発達の基盤-中年期 13. 認知発達の基盤-高齢期 14. 自己の発見と自己理解-乳児期 15. 自己の発見と自己理解-幼児期 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5125	授業科目名	発達心理論II	期間
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義	単位数
授業概要	人間の生涯発達のプロセスを、人類の歴史・発生のメカニズムを踏まえた上で、認知・自己理解・社会性・情動の観点から明らかにするとともに、人間が生涯にわたって成長し続ける存在であることのアリティを物語とナラティブをベースとし、特に、児童期から高齢期までを中心に紐解いていく。人間の発達を、改めて関係論的に解釈したうえで、人間の成長を物語として語っていく。最終的には、発達心理学の限界を知り、今後の研究の発展について考察を深める。			
到達目標	人間の生涯発達のプロセスを多面的にとらえ、自らの言葉で説明できる。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断して評価する。 レポート70% 発表内容30%			
留意事項	特になし			
教材	随時指示をする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の発見と自己理解-児童期 2. 自己の発見と自己理解-青年期 3. 自己の発見と自己理解-中年期 4. 自己の発見と自己理解-高齢期 5. 関係性の発達-親子 6. 関係性の発達-親密な他者 7. 関係性の発達-社会的ネットワーク 8. 物語から学ぶ-心の発見のプロセス 9. 物語から学ぶ-自己の生成のプロセス 10. 物語から学ぶ-他者の発見のプロセス 11. 物語から学ぶ-自己の再生のプロセス 12. 物語から学ぶ-自己の受容のプロセス 13. 自己を語る-ライフストーリー 14. わたしたちを語る-ナラティブ 15. 授業のまとめ-発達心理学の限界と今後の可能性 			

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5130	授業科目名	心理学研究法論I	2022年度第1期
担当者	日下 紀子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	人間の営みや行動は総じて心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法について考究する。			
到達目標	人間行動や社会現象の中に潜む心理的要因を心理学的概念に着床させ、論理的、科学的に多角的視座にて捉えることができる力を習得する。			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・文献購読における理解度 ・問題意識を調査・研究方法として具現化する力 ・得られた知見を心理学的に論理的に考察する力 上記について 授業態度、課題（レポート）、課題発表等によって総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験や実感を重ね合わせて先行研究や事象から問いを立てることを促し、その問いを追究、考察し、誠実に討論をすすめる。			
教材	選ばれるテーマに関する先行研究、文献、データその他を随時、検索し、配布ならびに指示する。			
授業予定	学生の勤務時間などを勘案し相談の上、個別もしくは複数で行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの探索 2. 研究テーマの発見 3. 関連する先行研究文献検索 4. 関連する先行研究文献抄読 5. 問題提起とその検討 6. 調査・研究法の探索 7. 調査・研究法の計画 8. 調査・研究法の試行 9. 調査・研究法の結果 10. 調査・研究法の結果検討 11. 調査・研究法の考察 12. 調査・研究の中間発表 13. 調査・研究の再検討 14. 調査・研究の推敲 15. 調査・研究のまとめ 			

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5135	授業科目名	心理学研究法論II	期間
担当者	日下 紀子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	人間の営みや行動は総じて心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法を明確にし、自らの研究テーマについて考究する。			
到達目標	人間行動や社会現象の中に潜む心理的要因を心理学的概念に着床させ、論理的、科学的に多角的視座にて捉えることができる。研究の問いに対して追究する研究法ならびにプロセスを明らかにし、研究結果を記述し考察することができる。			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・文献購読における理解度 ・問題意識を調査・研究方法として具現化する力 ・得られた知見を心理学的に論理的に考察する力 授業態度、課題（レポート）等によって総合的に評価する。			
留意事項	受講者自身の体験や実感を重ね合わせて先行研究や事象から問いを立て、その問いに対して追究、考察し、誠実に討論をすすめる。			
教材	選ばれるテーマに関する先行研究、文献、データその他を随時、検索し、配布ならびに指示する。			
授業予定	学生の勤務時間などを勘案し相談の上、個別もしくは複数で行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマのさらなる追究 2. 関連する文献検索 3. 関連する文献抄読 4. 文献レビュー 5. 問題の再提起 6. 調査・研究の探索 7. 調査・研究の計画 8. 調査・研究の施行 9. 調査・研究の結果 10. 調査・研究の結果分析 11. 調査・研究の結果検討 12. 調査・研究の考察 13. 調査・研究の総合考察 14. 調査・研究のまとめと今後の展望 15. 調査・研究の発表 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5150	授業科目名	西欧思想論I	期間	2022年度第1期
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	19世紀の西欧社会は多くの優れた女性思想家を輩出した。そこで本講義では、西欧諸国における女性思想家たちの議論の展開をたどり、キリスト教思想と女性問題について考察していきたい。				
到達目標	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、それらについて説明し論じることができる。				
成績評価基準	1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%				
留意事項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。				
教材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。				
授業予定	1～3. 19世紀の西欧社会について 4～11. 西欧諸国の女性思想家について 12～14. 西欧諸国の女性思想家たちの議論の展開について 15. 総括				

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5155	授業科目名	西欧思想論II	期間
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	単位数
授業概要	19世紀の西欧社会は多くの優れた女性思想家を輩出した。そこで本講義では、西欧諸国における女性思想家たちの議論の展開をたどり、キリスト教思想と女性問題について考察していきたい。			
到達目標	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、それらについて説明し論じることができる。			
成績評価基準	1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%			
留意事項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。			
教材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。			
授業予定	1～5. 西欧諸国の女性思想家たちの議論の展開について 6～14. 上記を踏まえて、キリスト教思想と女性問題について 15. 総括			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5180	授業科目名	人間性教育論I	期間
担当者	小林 修典	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	人間性の陶冶は、一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用であると考え、そのプロセスにかかわる、さまざまな要因について考察する。今期は、青少年期における、人間形成の過程を発達段階ごとにたどりながら、その段階ごとの発達課題に理解を深め、また、それぞれの段階に固有の環境的要因を分析する。			
到達目標	発達段階ごとの人間性の陶冶に関する課題と、その段階固有の環境要因を指摘し、分析することができる。			
成績評価基準	授業参加(発表等)、課題(レポート等)を総合的に評価する。			
留意事項	使用するテキストは主として英語論文である。			
教材	そのつど指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 人間形成の主要テーマ 3 個性と環境 4 乳幼児期における人間性の陶冶 ① 5 乳幼児期における人間性の陶冶 ② 6 乳幼児期における人間性の陶冶 ③ 7 児童期における人間性の陶冶 ① 8 児童期における人間性の陶冶 ② 9 児童期における人間性の陶冶 ③ 10 青年期における人間性の陶冶 ① 11 青年期における人間性の陶冶 ② 12 青年期における人間性の陶冶 ③ 13 青年期における人間性の陶冶 ④ 14 生涯発達と人間性の陶冶 15 まとめ 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5185	授業科目名	人間性教育論II	2022年度第2期
担当者	小林 修典	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	人間性の陶冶は、一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用であると考え、そのプロセスにかかわる、さまざまな要因について考察する。今期は青少年の人間性の陶冶の環境として、家庭、教育機関、社会に注目し、それぞれが個人の人間形成に果たす役割と、また、それぞれの場での、人間性に関する価値観の形成の問題を分析する。			
到達目標	さまざまな環境が人間性の陶冶に果たす役割と、そこでの人間性に関する価値観の形に関する課題を指摘し、分析することができる。			
成績評価基準	授業参加(発表等)、課題(レポート等)を総合的に評価する。			
留意事項	使用するテキストは主として英語論文である。			
教材	そのつど指示する。			
授業予定	1 インTRODakション 2 人間発達と環境 ① 3 人間発達と環境 ② 4 家庭での人間性の陶冶 ① 5 家庭での人間性の陶冶 ② 6 家庭での人間性の陶冶 ③ 7 家庭での人間性の陶冶 ④ 8 教育機関での人間性の陶冶 ① 9 教育機関での人間性の陶冶 ② 10 教育機関での人間性の陶冶 ③ 11 教育機関での人間性の陶冶 ④ 12 社会での人間性の陶冶 ① 13 社会での人間性の陶冶 ② 14 社会での人間性の陶冶 ③ 15 まとめ			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5190	授業科目名	描画発達論I	期間
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	本授業では、子どもの描画発達に関する先行研究を概観するため、文献を購読して理解する。			
到達目標	到達目標 1. 子どもの発達と描画活動の関係について学びながら、問題の所在を明らかにしていく。			
成績評価基準	課題提出 30%、口頭発表 30%、試験 40%にみられる到達目標 1 の達成度による総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	B・ウィルソン /M・ウィルソン『美術からの描画指導 - アメリカ DBAE の新しい指導法 -』『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第 1 回: はじめに 第 2 回: 『美術からの描画指導』第 1 章 なぜ絵を描くのか 第 3 回: 『美術からの描画指導』第 2 章 私たちはいかにして描くことを学ぶのか 第 4 回: 『美術からの描画指導』第 3 章 総合的な描画プログラム 第 5 回: 『美術からの描画指導』第 4 章 描画の定義とその延長 第 6 回: 『美術からの描画指導』第 5 章 美術作品を通しての描画指導 第 7 回: 『美術からの描画指導』第 6 章 様式化 第 8 回: 『美術からの描画指導』第 7 章 観察 第 9 回: 『美術からの描画指導』第 8 章 人工物や自然の形態からの制作 第 10 回: 『美術からの描画指導』第 9 章 意味と表現のための画面構成 第 11 回: 『美術からの描画指導』第 10 章 記憶による描画 第 12 回: 『美術からの描画指導』第 11 章 空間の構造 第 13 回: 『美術からの描画指導』第 12 章 動き 第 14 回: 『美術からの描画指導』第 13 章 言語から視覚へ 第 15 回: 『美術からの描画指導』第 14 章 美術の中の芸術性 定期試験			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	精神機能論
授業コード	D5195	授業科目名	描画発達論II	2022年度第2期
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	本授業では、子どもの描画発達に関する先行研究を概観するため、様々な文献を購読して理解する。			
到達目標	到達目標 1. 子どもの発達と描画活動の関係について学びながら、問題の所在を明らかにしていく。			
成績評価基準	課題提出 30%、口頭発表 30%、試験 40%にみられる到達目標 1 の達成度による総合評価とする。			
留意事項	必要に応じ適宜指示する。			
教材	『小学校学習要領』 小学校学習指導要領解説(図画工作編)』 幼稚園教育要領』 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
授業予定	授業計画 第 1 回 : はじめに 第 2 回 : なぜ絵を描くのかについて 第 3 回 : 私たちはいかにして描くことを学ぶのかについて 第 4 回 : 総合的な描画プログラムについて 第 5 回 : 描画の定義とその延長について 第 6 回 : 美術作品を通しての描画指導について 第 7 回 : 様式化について 第 8 回 : 観察 生活からの描画プログラムについて 第 9 回 : 人工物や自然の形態からの制作について 第 10 回 : 意味と表現のための画面構成について 第 11 回 : 記憶による描画について 第 12 回 : 空間の構造について 第 13 回 : 動き 行動・持続・表情・感情の描画について 第 14 回 : 言語から視覚について 第 15 回 : 美術の中の芸術性について 定期試験			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5330	授業科目名	栄養環境論I	期間
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義	単位数
授業概要	環境問題は地域レベルから地球規模に至るまで多岐に渡っているが、便利で豊かな現代生活の代償でもあることからその解決は容易ではなく、また各人の立場により捉え方が異なることも問題をより複雑にしている。本講義では日々深刻化する環境問題について認識を深めるとともに、その解決に向け管理栄養士として果たすべき役割を考究する。			
到達目標	種々の環境問題についての理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。			
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。			
留意事項	身近なところから環境問題を意識するよう心掛けてほしい。			
教材	資料を適宜配布する。			
授業予定	週1回、上記内容についての講義を実施する。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5335	授業科目名	栄養環境論II	期間
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義	単位数
授業概要	ヒトの健康には、遺伝要因、環境要因、生活習慣要因が大きく関わっている。本講義では各要因が及ぼす影響について認識を深めるとともに、その解決に向け管理栄養士として果たすべき役割を考究する。			
到達目標	環境要因をはじめとする各要因と健康との関係について理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。			
成績評価基準	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。			
留意事項	身近なところから健康問題を意識するよう心掛けてほしい。			
教材	資料を適宜配布する。			
授業予定	週1回、上記内容についての講義を実施する。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5340	授業科目名	環境生態栄養論I	期間
担当者	佐藤 真一	授業形態	講義(演習含む)	単位数
授業概要	県ないし県下市町村の各種健康指標、栄養摂取関連指標を、全国ないし他都道府県・市町村との比較の中で把握し、栄養施策立案につなげるための方法を学ぶ。			
到達目標	既存の調査資料の探索とそれぞれの成績の解釈ができ、計画立案につなげられること。			
成績評価基準	授業中の反応とレポートの内容から総合的に評価する。			
留意事項	課題探索型の積極的姿勢での受講を望む。リモートにより開講予定。			
教材	一般に入手可能な公的統計資料等。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種食事調査法の妥当性・バイアス・利活用方法。 2. 国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査成績の活用。 3. 人口動態統計、生命表、介護統計の活用(平均寿命、健康寿命)。 4. 特定健診・保健指導成績の活用(KDB、NDB)。 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5345	授業科目名	環境生態栄養論II	期間	2022年度第2期
担当者	佐藤 真一	授業形態	講義(演習含む)	単位数	2単位
授業概要	栄養介入施策の立案と効果検証の方法について学ぶ。				
到達目標	集団に応じた効果的な介入方法を理解し、介入計画立案につなげられること。				
成績評価基準	授業中の反応とレポートの内容から総合的に評価する。				
留意事項	課題解決型の積極的姿勢での受講を望む。リモートにより開講予定。				
教材	一般に入手可能な公的統計資料等。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルシーボランティア効果と平均値への回帰。 2. 実験デザインと必要サンプル数。 3. 行動経済学理論を援用した介入方法。 4. 行政におけるアプローチとその評価。 				

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5350	授業科目名	環境微生物論I	期間
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義	単位数
授業概要	自然環境に生息する真菌を中心とした微生物の生態を学び、環境と食品衛生との接点を考察する。微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に適用していく。			
到達目標	微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に対して実践できるようになる			
成績評価基準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する			
留意事項	コンピュータプログラムを用いた解析を随時行う			
教材	関連する学術論文を使用する			
授業予定	1 : 微生物の進化と系統 2 : 遺伝子を用いた生物系統の推定法 3 : 微生物群集の解析法			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5355	授業科目名	環境微生物論II	期間
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義	単位数
授業概要	微生物が生産する二次代謝産物の分子進化学的解析法を学ぶ。微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に適用していく。			
到達目標	微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に対して実践できるようになる			
成績評価基準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する			
留意事項	コンピュータプログラムを用いた解析を随時行う			
教材	関連する学術論文を使用する			
授業予定	1 : 真菌の進化と生態 2 : 真菌の二次代謝産物と多様性 3 : かび毒の生合成系と検出法			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5360	授業科目名	生体機能調節論I	期間
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数
授業概要	身体機能は、神経系、内分泌系、免疫系によって調節されている。本講義では、特にストレス制御に関わる恒常性維持機構に焦点をあてて、神経生理学および行動薬理学的観点から考究する。			
到達目標	ストレス制御に関わる神経系および内分泌系の生理学的理解を通じて、人々の健康の保持・増進に寄与できる研究者、および高度専門業務に携わる人材育成を目指す。			
成績評価基準	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	毎回、授業資料を配付する。			
授業予定	ストレス制御に関する講義を行うとともに、最新の文献を輪読し討論を行う。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5365	授業科目名	生体機能調節論II	期間
担当者	林 泰資	授業形態	講義	単位数
授業概要	身体機能は、神経系、内分泌系、免疫系によって調節されている。本講義では、特に免疫系とアレルギー疾患に焦点をあてて考究する。			
到達目標	免疫系とアレルギー疾患の生理学的、病理学的理解を通じて、人々の健康の保持・増進に寄与できる研究者、および高度専門業務に携わる人材育成を目指す。			
成績評価基準	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	毎回、授業資料を配付する。			
授業予定	免疫系とアレルギー疾患に関する講義を行うとともに、最新の文献を輪読し討論を行う。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5380	授業科目名	食品栄養論I	期間
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	単位数
授業概要	アミノ酸栄養の不良およびアミノ酸代謝の異常が、各種疾患の病態とどのような関連性をもっているのかについて、最新の知見をもとに論ずるとともに、それらの疾患を予防するための栄養改善の可能性について考究する。			
到達目標	アミノ酸栄養・代謝に関する断片的な科学情報を統合的に理解する能力を身につけ、栄養と病態にまつわる今日の課題を解決できる「考え方」と「行動力」を身につける。			
成績評価基準	受講態度 10点 論文読解 20点 課題発表 30点 課題レポート 40点			
留意事項	特になし			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：アミノ酸栄養・代謝と糖尿病 第 3 回：アミノ酸栄養・代謝と脂質異常症 第 4 回：アミノ酸栄養・代謝と高血圧 第 5 回：アミノ酸栄養・代謝と癌 第 6 回：アミノ酸栄養・代謝と脳神経疾患 第 7 回：アミノ酸栄養・代謝と細胞内シグナル伝達機構 第 8 回：アミノ酸栄養・代謝と遺伝子発現調節とエピジェネティカルな制御 第 9 回：アミノ酸栄養・代謝と骨代謝 第 10 回：アミノ酸栄養・代謝と筋肉 第 11 回：アミノ酸栄養・代謝とフレイル 第 12 回：アミノ酸栄養・代謝の最新解析法(1) 第 13 回：アミノ酸栄養・代謝の最新解析法(2) 第 14 回：ニュートリシューティカルの視点から見たタンパク質・アミノ酸 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5385	授業科目名	食品栄養論II	期間
担当者	小林 謙一	授業形態	講義	単位数
授業概要	ビタミン栄養の不良が、各種疾患の病態とどのような関連性をもっているのかについて、最新の知見をもとに論ずるとともに、それらの疾患を予防するための栄養改善の可能性について考究する。			
到達目標	ビタミン栄養・代謝に関する断片的な科学情報を統合的に理解する能力を身につけ、栄養と病態にまつわる今日的課題を解決できる「考え方」と「行動力」を身につける。			
成績評価基準	受講態度 10点 論文読解 20点 課題発表 30点 課題レポート 40点			
留意事項	特になし			
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。			
授業予定	授業予定 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ビタミン学概論 第 3 回：ビタミンの分類の新展開 第 4 回：ビタミン栄養と脂質異常症 第 5 回：ビタミン栄養と高血圧 第 5 回：ビタミン酸栄養と癌 第 6 回：ビタミン栄養と脳神経疾患 第 7 回：ビタミン栄養と細胞内シグナル伝達機構 第 8 回：ビタミン栄養と遺伝子発現調節とエピジェネティカルな制御 第 9 回：ビタミン栄養と骨代謝 第 10 回：ビタミン栄養・代謝と筋肉 第 11 回：ビタミン栄養・代謝とフレイル 第 12 回：ビタミン栄養・代謝の最新解析法(1) 第 13 回：ビタミン栄養・代謝の最新解析法(2) 第 14 回：ニュートリシューティカル的視点から見たタビタミン 第 15 回：総括			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5390	授業科目名	調理文化論I	2022年度第1期
担当者	五島 淑子	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	調理文化を、自然・人文・社会科学の学際領域としてとらえ、日本の調理文化の特徴とその変容と背景など総合的に論述する。さらに食育の観点からも考察を進める。			
到達目標	調理は文化であるということを理解し、歴史や社会の関わりの中で日本の調理文化について述べることができる。			
成績評価基準	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力、課題レポートなどにより総合的に評価する。			
留意事項	世界のなかの日本の調理文化に広い視野から関心を持つこと。			
教材	江原絢子・石川尚子編著『日本の食文化「和食」の継承と食育』アイ・ケイ・コーポレーション 2016.			
授業予定	第1回 はじめに、食文化の領域、調理文化の研究手法 第2回 世界の食文化形成 第3回 日本の食文化形成と展開 第4回 異文化接触と受容 第5回 主食の文化 第6回 副食の文化 第7回 調味料、油脂・香辛料 第8回 菓子、茶、酒 第9回 日本料理の形成と発展 第10回 台所・食器・食卓の文化 第11回 日常の食生活 第12回 非常の食生活 第13回 外食文化の成立と変化 第14回 行事と地域の食文化 第15回 家庭・地域、学校、社会における食育 課題レポート			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5395	授業科目名	調理文化論II	2022年度第2期
担当者	五島 淑子	授業形態	講義	単位数 2単位
授業概要	調理文化を、自然・人文・社会科学の学際領域ととらえ、研究の事例を紹介する。 また日本の調理文化の特徴と変容を総合的に論述する。			
到達目標	調理文化を歴史や社会との関わりの中で理解し、研究の視点から理解することができる。			
成績評価基準	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力、課題レポートなどにより総合的に評価する。			
留意事項				
教材	授業時に必要に応じて資料を配布、参考文献などを紹介する。DVD も活用する。			
授業予定	第 1 回 はじめに 調理文化を研究する 第 2 回 縄文・弥生の食生活 第 3 回 オーストラリア・アボリジニの食生活 第 4 回 天保期長州藩の食生活 (1) 第 5 回 天保期長州藩の食生活 (2) 第 6 回 天保期長州藩の食生活 (3) 第 7 回 日英饗応料理 第 8 回 歴食について 第 9 回 風土と食の営み 第 10 回 肉食の様式 第 11 回 乳食の様式 第 12 回 甘さを求めて 第 13 回 調理のお国柄 第 14 回 食作法の成立 第 15 回 まとめ 課題レポートの提出			

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5400	授業科目名	食品機能論I	期間
担当者	吉金 優	授業形態	講義	単位数
授業概要	食品のもつ多様な機能性に関して、具体例を交えながら体系的に解説し、新たな機能性指標の開発や栄養指導への活用をともに考える。			
到達目標	「食」のスペシャリストとして、食品のもつ機能を科学的根拠に基づいて理解するとともに、食品による疾病予防や健康の保持・増進の可能性についての知見を得ることを目標とする。			
成績評価基準	授業態度、課題発表内容（50%）およびレポート内容（50%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 食品の一次機能 (1) たんぱく質の構造 3. 食品の一次機能 (2) たんぱく質の機能 4. 食品の一次機能 (3) 脂質の構造 5. 食品の一次機能 (4) 脂質の機能 6. 食品の一次機能 (5) 炭水化物の構造 7. 食品の一次機能 (6) 炭水化物の機能 8. 食品の二次機能 (1) 色 9. 食品の二次機能 (2) 味 10. 食品の二次機能 (3) 香り 11. 食品の二次機能 (4) テクスチャー 12. 食品の三次機能 (1) 整腸作用 13. 食品の三次機能 (2) 血糖値・血圧調整作用 14. 食品の三次機能 (3) 免疫機能亢進作用 15. 総括 			

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5405	授業科目名	食品機能論II	2022年度第2期
担当者	吉金 優	授業形態	講義	2単位
授業概要	食品のもつ多様な機能性に関して、具体例を交えながら体系的に解説し、新たな機能性指標の開発や栄養指導への活用をともに考える。			
到達目標	「食」のスペシャリストとして、食品のもつ機能を科学的根拠に基づいて理解するとともに、食品による疾病予防や健康保持の可能性についての知見を得ることにより、研究や栄養指導に活かせるようになることを目標とする。			
成績評価基準	授業態度、課題発表内容（80%）およびレポート内容（20%）を総合的に評価する。			
留意事項				
教材	適宜資料を配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 最新研究の文献抄読・発表（1）抄読 1 3. 最新研究の文献抄読・発表（2）発表 1 4. 最新研究の文献抄読・発表（3）抄読 2 5. 最新研究の文献抄読・発表（4）発表 2 6. 機能性食品制度（1）概論 7. 機能性食品制度（2）問題点 8. 機能性食品制度（3）今後の在り方 9. 討論（1）新たな機能性食品 10. 討論（2）新たな機能性指標 11. プレゼンテーション（1）新たな機能性指標 12. 討論（3）研究への活用 13. 討論（4）栄養指導への活用 14. プレゼンテーション（2）研究・栄養指導への活用 15. 総括 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	D5530	授業科目名	社会福祉論I	2022年度第1期
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、国際的・国内的な社会状況において、社会福祉学研究が直面している課題について、思想、歴史、政治・経済政策、実践・専門職の観点から検討し、国際的な社会の変容のなかでの、社会福祉の役割と限界を検討する。			
到達目標	<p>到達目標 1 これまでの社会福祉思想を理解し、自らの思想を語り説明することができる。</p> <p>到達目標 2 社会福祉の歴史を理解し、歴史的視点で社会福祉へ提言することができる。</p> <p>到達目標 3 近年の社会福祉政策の特徴を理解し批判的視点で分析し議論することができる。</p>			
成績評価基準	<p>到達目標 1・2 について、発表態度・発表内容の総合的判断で評価する (50%)。</p> <p>到達目標 3 について、2 回のレポートの記述内容で評価する (50%)。</p>			
留意事項	指定した文献を読みこなし、主体的に参加すること。			
教材	岩崎晋也『福祉原理』有斐閣。このほか講読する文献を随時指示する。文献は主に、近年発刊された社会福祉の学術文献のうち、思想・理論・歴史など、総論的なものとする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉思想研究の意義 2 社会福祉思想研究の動向 社会福祉思想の概要と今後の論点 3 政策・実践と思想 思想と実践はどう切り結ぶのか 4 社会福祉の存在意義としての「生」 生と死・そのなかでの社会福祉の役割 5 なぜ社会福祉がなくてはならないのか 6 生命倫理と社会福祉 脳死、安楽死などの動きと社会福祉 7 社会福祉研究における歴史研究の意義 歴史研究の成果とこれからの研究の方向 8 日本についての歴史研究の到達点と課題 9 外国についての歴史研究の到達点と課題 10 社会福祉と連帯・協同 社会連帯や協同で社会福祉をどう創るのか 11 コミュニティと福祉 12 社会福祉運動の歴史と意義 13 社会福祉政策の動向 2000 年代以降の政策の特徴と課題 14 社会福祉研究と政策 15 これからの社会福祉政策 少子高齢化やグローバル化のもとでの社会福祉政策 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	D5535	授業科目名	社会福祉論II	期間
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、国際的・国内的な社会状況において社会福祉学研究が直面している課題として、財政、専門性、地域包括ケア、医療との連携などの論点を設定し、どう分析し研究者として提言できるのかを議論していく。			
到達目標	到達目標 1 経済や財政と社会福祉の関係を理解し、政策を提言していくことができる。 到達目標 2 社会福祉の専門性について理解し、専門性のあり方を議論することができる。 到達目標 3 地域包括ケアなど今後の福祉課題について考察し、提言していくことができる。			
成績評価基準	到達目標 1・2 について、発表態度・発表内容の総合的判断によって評価する(50%)。 到達目標 3 について、2 回のレポートの記述によって評価する(50%)。			
留意事項	指定した文献を読みこなし、主体的に参加すること。			
教材	岩崎晋也『福祉原理』有斐閣。このほか講読する文献を随時指示する。文献は主に、近年発行された社会福祉の学術文献のうち、思想・理論・歴史など、総論的なものとする。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉と経済 2 新自由主義と社会福祉 新自由主義路線は社会福祉をどう変えたか 3 経済発展は社会福祉の必須の条件か 長期化した経済的停滞と社会福祉の関連 4 福祉サービスの企業化をどう捉えるか 5 社会福祉と財政 6 社会福祉実践の専門性 ソーシャルワークをどう捉えるか 7 社会福祉国家資格の意義と限界 8 専門職養成の目標と現実 専門職養成は人材確保に有用か 9 少子高齢化における社会福祉の課題 10 介護問題の広がりやをどう考えるか 増加する介護需要にどう対応できるか 11 地域包括ケアシステム 実現への課題は何か 12 社会福祉と医療との連携の課題 医療における諸課題と社会福祉との関連 13 社会福祉の国際動向 14 グローバル化のなかでの社会福祉 15 まとめ 社会福祉研究において、何にどう取り組むか 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5720	授業科目名	課題研究I	2022年度第1期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準	プレゼンテーション(自分の研究課題の設定、目的、方法、結果、そして考察に関する理解度を評価) 30点 学会における研究発表 30点 原著論文や研究ノート等の原稿 40点			
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材	国内外の学術論文や研究書			
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5725	授業科目名	課題研究II	2022年度第2期
担当者	小林 謙一	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準	プレゼンテーション(自分の研究課題の設定、目的、方法、結果、そして考察に関する理解度を評価) 30点 学会における研究発表 30点 原著論文や研究ノート等の原稿 40点			
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材	国内外の研究論文と研究書			
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5730	授業科目名	課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	小林 修典	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5735	授業科目名	課題研究II	期間	2022年度第2期
担当者	小林 修典	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5740	授業科目名	課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5745	授業科目名	課題研究II	2022年度第2期
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
				2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5750	授業科目名	課題研究I	2022年度第1期
担当者	林 泰資	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5755	授業科目名	課題研究II	期間	2022年度第2期
担当者	林 泰資	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	D5770	授業科目名	課題研究I	2022年度第1期
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義(演習を含む)	2単位
授業概要	博士論文の作成に向けて、研究計画を明確にし、実際に研究を進めていくための能力を身につける			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準	授業で取り組み 20% レポート課題 30% 論文作成 50%			
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材	研究テーマに関連する文献を指示する。			
授業予定	1 オリエンテーション 2 研究テーマの説明 3 研究テーマの検討 4 研究テーマについての先行研究 5 先行研究の批判的分析 6 先行研究の課題 7 研究方法の検討 8 テーマに関する文献調査 9 テーマに関する保存資料調査 10 テーマに関する社会調査 11 史料批判 12 研究概要の構想 13 研究概要の検討 14 研究概要の批判的議論 15 研究テーマの確定			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	生活文化論
授業コード	D5775	授業科目名	課題研究II	期間
担当者	杉山 博昭	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準	授業時の課題 50% 期末レポート 50%			
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材	随時検討し、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究概要の報告 2 研究方法の確認 3 研究の進行状況のチェック 4 研究概要についての検討 5 論文作成への助言 6 論文の序論部分の検討 7 先行研究の評価の妥当性 8 研究目的の妥当性について 9 論文の全体構成 10 論文の展開 11 論文の前半部分の検討 12 論文の中盤の検討 13 結論の検討 14 全体の検討 15 今後の課題 			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5780	授業科目名	課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5785	授業科目名	課題研究II	2022年度第2期
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
				2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5790	授業科目名	課題研究I	2022年度第1期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義(演習を含む)	単位数 2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)	専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5795	授業科目名	課題研究II	2022年度第2期
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義(演習を含む)	単位数
				2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5800	授業科目名	課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科 (博士後期課程)		専攻名(コース名)	人間複合科学専攻	研究分野	
授業コード	D5805	授業科目名	課題研究II	期間	2022年度第2期
担当者	小田 久美子	授業形態	講義(演習を含む)	単位数	2単位
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成績評価基準					
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教材					
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5810	授業科目名	課題研究I	2022年度第1期
担当者	吉金 優	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			

人間生活学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	人間複合科学専攻	研究分野	保健栄養論
授業コード	D5815	授業科目名	課題研究II	2022年度第2期
担当者	吉金 優	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。			
到達目標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。			
成績評価基準				
留意事項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。			
教材				
授業予定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。			